

基本計画書

基本計画書									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の専攻に係る課程の変更								
フリガナ設置者	コリツカクイフクシケン トヤマダク 国立大学法人 富山大学								
フリガナ大学の名称	トヤマダクダクイン 富山大学大学院								
大学本部の位置	富山県富山市五福3190								
大学の目的	本学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	本研究科は、医学、薬学及び看護学を総合した特色ある教育と研究を礎とし、幅広い知識を基盤とする高い専門性と人間尊重の精神を基本とする豊かな創造力を培い、学術研究の進歩や社会に積極的に貢献できる総合的な判断力を有する高度医療専門職業人又は教育研究者としての人材を育成することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 医学部 薬学部 14条特例の実施
		年	人	年次 人	人	博士（医学） 博士（看護学） 博士（薬学） 博士（薬科学）	年 月 第 年次	富山市杉谷2630	
	総合医薬学研究科 総合医薬学専攻	4	34	-	184	令和6年 4月 第1年次			
計	3	16	-	184					
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>○学生募集の停止</p> <p>※令和6年4月学生募集停止(3年次編入学定員は令和8年4月学生募集停止)</p> <p>経済学部 入学定員 3年次編入</p> <p>経済学科(廃止)</p> <p style="padding-left: 20px;">昼間主コース (△135) (△ 4)</p> <p style="padding-left: 20px;">夜間主コース (△ 10)</p> <p>経営学科(廃止)</p> <p style="padding-left: 20px;">昼間主コース (△108) (△ 4)</p> <p style="padding-left: 20px;">夜間主コース (△ 10)</p> <p>経営法学科(廃止)</p> <p style="padding-left: 20px;">昼間主コース (△ 92) (△ 2)</p> <p style="padding-left: 20px;">夜間主コース (△ 10)</p> <p>理学部</p> <p style="padding-left: 20px;">数学科(廃止) (△ 45)</p> <p style="padding-left: 20px;">物理学科(廃止) (△ 40) (△ 1)</p> <p style="padding-left: 20px;">化学科(廃止) (△ 35) (△ 1)</p> <p style="padding-left: 20px;">生物学科(廃止) (△ 38) (△ 1)</p> <p style="padding-left: 20px;">自然環境科学科(廃止) (△ 35) (△ 1)</p> <p><u>生命融合科学教育部(廃止)</u></p> <p style="padding-left: 20px;"><u>認知・情動脳科学専攻(D) (△ 9)</u></p> <p style="padding-left: 20px;"><u>生体情報システム科学専攻(D) (△ 4)</u></p> <p style="padding-left: 20px;"><u>先端ナノ・バイオ科学専攻(D) (△ 4)</u></p> <p><u>医学薬学教育部(廃止)</u></p> <p style="padding-left: 20px;"><u>看護学専攻(D) (△ 3)</u></p> <p style="padding-left: 20px;"><u>薬科学専攻(D) (△ 8)</u></p> <p style="padding-left: 20px;"><u>生命・臨床医学専攻(D) (△ 18)</u></p> <p style="padding-left: 20px;"><u>東西統合医学専攻(D) (△ 7)</u></p> <p style="padding-left: 20px;"><u>薬学専攻(D) (△ 4)</u></p>								

同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	理工学教育部 (廃止) 数理・ヒューマンシステム科学専攻(D) (△ 5) ナノ新機能物質科学専攻(D) (△ 4) 新エネルギー科学専攻(D) (△ 3) 地球生命環境科学専攻(D) (△ 4)								
	○設置 (令和5年8月届出予定) [学部] 経済学部 経済経営学科 (335) (10) 理学部 理学科 (208) (4) [大学院] 総合医薬学研究科 総合医薬学専攻(D) (50) 理工学研究科 理工学専攻(D) (29) 医薬理工学環(D) (12)								
○入学定員の変更 (令和6年4月) 工学部 工学科 [定員増] (15) 理工学研究科 理工学専攻(M) [定員増] (24)									
○課程名称の変更 (令和6年4月) 総合医薬学研究科 総合医薬学専攻 修士課程 → 修士課程・博士前期課程 理工学研究科 理工学専攻 医薬理工学環 修士課程 → 博士前期課程									
教育課程	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	新設学部等の名称	講義	演習	実験・実習		計			
	総合医薬学研究科 総合医薬学専攻	87科目	7科目	9科目	103科目				
		22単位以上 (看護科学プログラム) 18単位以上 (先端薬科学プログラム) 30単位以上 (生命・臨床医学プログラム、臨床薬学プログラム)							
教員組織概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
			人	人	人	人	人	人	人
	新設	総合医薬学研究科 総合医薬学専攻 (博士課程・博士後期課程)	55 (61)	42 (42)	14 (14)	14 (14)	125 (131)	0 (0)	38 (38)
		理工学研究科 理工学専攻 (博士後期課程)	62 (69)	55 (58)	17 (17)	17 (17)	151 (161)	0 (0)	0 (0)
	既設	研究科等連係課程実施基本組織 医薬理工学環 (博士後期課程)							
		連係協力研究科 (I) 総合医薬学研究科 総合医薬学専攻 (博士課程・博士後期課程)	<0> 【37】 (41)	<1> 【21】 (22)	<0> 【5】 (5)	<0> 【3】 (3)	<1> 【66】 (71)	<0> 【0】 (0)	<0> 【6】 (6)
		連係協力研究科 (II) 理工学研究科 理工学専攻 (博士後期課程)							
	分	計	117 (130)	98 (101)	31 (31)	31 (31)	277 (293)	0 (0)	- (-)
	概要	人文社会芸術総合研究科 人文社会芸術総合専攻 (修士課程)	67 (67)	46 (46)	19 (19)	0 (0)	132 (132)	0 (0)	34 (34)
		総合医薬学研究科 総合医薬学専攻 (修士課程・博士前期課程)	72 (78)	57 (57)	12 (12)	18 (18)	159 (165)	0 (0)	41 (41)
		理工学研究科 理工学専攻 (博士前期課程)	88 (95)	60 (63)	18 (18)	30 (30)	196 (206)	0 (0)	34 (34)
		研究科等連係課程実施基本組織 持続可能社会創成学環 (修士課程)							
連係協力研究科 (I) 人文社会芸術総合研究科 人文社会芸術総合専攻 (修士課程)		<2> 【20】 (22)	<2> 【8】 (10)	<1> 【1】 (2)	<1> 【2】 (3)	<6> 【30】 (37)	<0> 【0】 (0)	<0> 【37】 (37)	
分	連係協力研究科 (II) 理工学研究科 理工学専攻 (博士前期課程)								

※令和5年8月設置届出予定

※令和5年8月設置届出予定

(注)
<>の中の数は研究科等連係課程実施基本組織のみに従事する専任教員。
【】の中の数は研究科等連係課程実施基本組織と連係協力研究科等を兼ねる専任教員。

教員組織の概要	既設	研究科等連係課程実施基本組織 医薬理工学環（博士前期課程）								
	設	連係協力研究科（Ⅰ） 総合医薬学研究科 総合医薬学専攻 （修士課程・博士前期課程）	<1> 【50】 (55)	<0> 【26】 (26)	<0> 【6】 (6)	<0> 【5】 (5)	<1> 【87】 (92)	<0> 【0】 (0)	<0> 【79】 (79)	
		連係協力研究科（Ⅱ） 理工学研究科 理工学専攻 （博士前期課程）								
	分	教職実践開発研究科（専門職学位課程）	9 (9)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	9 (9)	
	計	239 (252)	170 (173)	53 (53)	49 (49)	511 (527)	0 (0)	- (-)		
	合計	239 (252)	172 (175)	57 (57)	49 (49)	517 (533)	0 (0)	- (-)		
教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計			
	事 務 職 員		381 人 (381)		69 人 (69)		450 人 (450)			
	技 術 職 員		977 (977)		65 (65)		1,042 (1,042)			
	図 書 館 専 門 職 員		17 (17)		0 (0)		17 (17)			
	そ の 他 の 職 員		18 (18)		25 (25)		43 (43)			
	計		1,393 (1,393)		159 (159)		1,552 (1,552)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計			
	校 舎 敷 地	517,871 m ²	-		-		517,871 m ²			
	運 動 場 用 地	105,572 m ²	-		-		105,572 m ²			
	小 計	623,443 m ²	-		-		623,443 m ²			
	そ の 他	90,179 m ²	-		-		90,179 m ²			
	合 計	713,622 m ²	-		-		713,622 m ²			
校 舎	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計				
	230,943 m ² (230,943 m ²)	-		-		230,943 m ² (230,943 m ²)				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設			大学全体		
	129室	239室	678室	20室 (補助職員 14人)	2室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数					
		総合医薬学研究科 総合医薬学専攻			140 室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	研究科単位での 特定不能なため、 大学全体の数		
	総合医薬学研究科 総合医薬学専攻	1,328,175 [418,261] (1,328,175 [418,261])	68,409 [21,405] (68,409 [21,405])	45,487 [14,227] (45,487 [14,227])	18,002 (18,002)	37 (37)	0 (0)			
	計	1,328,175 [418,261] (1,328,175 [418,261])	68,409 [21,405] (68,409 [21,405])	45,487 [14,227] (45,487 [14,227])	18,002 (18,002)	37 (37)	0 (0)			
図 書 館	面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数			大学全体			
	13,840 m ²	1,418		1,040,086						
体 育 館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要								
	7,112 m ²	弓 道 場 ・ 武 道 館		プ ール ・ テ ニ ス コ ー ト						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による
		教員1人当り研究費等	-	-	-	-	-	-	-	
		共同研究費等	-	-	-	-	-	-	-	
		図書購入費	-	-	-	-	-	-	-	
	設備購入費	-	-	-	-	-	-	-	-	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要										

既設大学等の状況	大学の名称		富山大学							所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度			
		年	人	年次人	人		倍				
	人文学部	4	188	3年次7	730	-	1.08		-		
	人文学科	4	188	3年次7	730	学士(文学)	1.08	昭和52	富山県富山市五福3190番地	令和4年度入学定員増(18人)	
	教育学部	4	85	-	170	-	1.04		-		
	共同教育課程	4	85	-	170	学士(教育学)	1.04	令和4	富山県富山市五福3190番地		
	人間発達科学部	4	-	-	-	-	-		-		
	発達教育学科	4	-	-	-	学士(教育学)	-	平成17	富山県富山市五福3190番地	※令和4年度より学生募集停止	
	人間環境システム学科	4	-	-	-	学士(教育学)	-	平成17	同上	※令和4年度より学生募集停止	
	経済学部	4	365	3年次10	1,420	-	1.04		-		
	(昼間主コース)	4	335	3年次10	1,300	-	1.03		-		
	経済学科	4	135	3年次4	518	学士(経済学)	1.05	平成30	富山県富山市五福3190番地	令和4年度入学定員増(15人)	
	経営学科	4	108	3年次4	424	学士(経営学)	1.02	平成30	同上	令和4年度入学定員増(8人)	
	経営法学科	4	92	3年次2	358	学士(法学)	1.02	平成30	同上	令和4年度入学定員増(7人)	
	(夜間主コース)	4	30	-	120	-	1.07		-		
	経済学科	4	10	-	40	学士(経済学)	1.10	平成30	富山県富山市五福3190番地		
	経営学科	4	10	-	40	学士(経営学)	1.02	平成30	同上		
	経営法学科	4	10	-	40	学士(法学)	1.10	平成30	同上		
	理学部	4	193	3年次4	774	-	1.07		-		
	数学科	4	45	-	190	学士(理学)	1.07	昭和52	富山県富山市五福3190番地	令和4年度入学定員減(5人)	
	物理学科	4	40	3年次1	162	学士(理学)	1.12	昭和52	同上		
	化学科	4	35	3年次1	142	学士(理学)	1.07	昭和52	同上		
	生物学科	4	38	3年次1	148	学士(理学)	1.03	昭和52	同上	令和4年度入学定員増(3人)	
	自然環境科学科	4	35	3年次1	132	学士(理学)	1.07	平成5	同上	令和4年度入学定員増(5人)	
	医学部								-		
	医学科	6	105	2年次5	655	学士(医学)	1.01	昭和50	富山県富山市杉谷2630番地		
	看護学科	4	80	3年次10	340	学士(看護学)	0.95	平成5	同上		
	薬学部								-		
	薬学科	6	70	-	360	学士(薬学)	1.04	平成18	富山県富山市杉谷2630番地	令和4年度入学定員増(15人)	
	創薬科学科	4	35	-	170	学士(薬科学)	1.08	平成18	同上	令和4年度入学定員減(15人)	

既設大学等の状況	工学部	4	380	3年次 17	1,524	-	1.05	-	-		
	工学部	4	380	3年次 17	1,524	学士 (工学)	1.05	平成30	富山県富山市五福 3190番地	令和4年度入学 定員増(15人)	
	電気電子システム工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成9	同上	※平成30年度より 学生募集停止	
	機械知能システム工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成9	同上	※平成30年度より 学生募集停止	
	環境応用化学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成20	同上	※平成30年度より 学生募集停止	
	材料機能工学科	4	-	-	-	学士 (工学)	-	平成20	同上	※平成30年度より 学生募集停止	
	芸術文化学部	4	110	-	440	-	1.06	-	-		
	芸術文化学科	4	110	-	440	学士 (芸術文化学)	1.06	平成17	富山県高岡市二上 町180番地		
	都市デザイン学部	4	159	3年次 3	604	-	1.08	-	-		
	地球システム科学科	4	40	-	160	学士 (理学)	1.05	平成30	富山県富山市五福 3190番地		
	都市・交通デザイン学科	4	54	3年次 1	190	学士 (工学)	1.10	平成30	同上	令和4年度入学 定員増(14人)	
	材料デザイン工学科	4	65	3年次 2	254	学士 (工学)	1.08	平成30	同上	令和4年度入学 定員増(5人)	
	大学全体	-	1,770	56	7,527	-	-	-	-		
	人文社会芸術総合研究科 (修士課程)										
	人文社会芸術総合専攻	2	46	-	92	修士 (心理学、文 学、芸術文化 学、経済学、 経営学)	0.97	令和4	富山県富山市五福 3190番地 富山県高岡市二上 町180番地	aは持続可能社 会創成学環に活 用する入学定員 及び収容定員数	
	人文科学研究科 (修士課程)										
	人文科学専攻	2	-	-	-	修士 (文学)	-	平成23	富山県富山市五福 3190番地	※令和4年度より 学生募集停止	
	人間発達科学研究科 (修士課程)										
	発達教育専攻	2	-	-	-	修士 (教育学)	-	平成23	富山県富山市五福 3190番地	※令和4年度より 学生募集停止	
	経済学研究科 (修士課程)										
地域・経済政策専攻	2	-	-	-	修士 (経済学)	-	平成3	富山県富山市五福 3190番地	※令和4年度より 学生募集停止		
企業経営専攻	2	-	-	-	修士 (経営学)	-	平成3	同上	※令和4年度より 学生募集停止		
芸術文化学研究科 (修士課程)											
芸術文化学専攻	2	-	-	-	修士 (芸術文化学)	-	平成23	富山県高岡市二上 町180番地	※令和4年度より 学生募集停止		

既設大学等の状況	総合医薬学研究科 (修士課程) 総合医薬学専攻	2	66 b-【8】	-	132 b-【16】	修士 (医科学、看護学、薬科学)	0.90	令和4	- 富山県富山市杉谷 2630番地	bは医薬理工学環に活用する入学定員及び収容定員数
	医学薬学教育部 (修士課程) 医科学専攻 (博士前期課程) 看護学専攻 薬科学専攻 (博士後期課程) 看護学専攻 薬科学専攻 (博士課程) 生命・臨床医学専攻 東西統合医学専攻 薬学専攻	2 2 2 3 3 4 4 4	- - - 3 8 18 7 4	- - - - - - - - -	- - - 9 24 72 28 16	修士 (医科学) 修士 (看護学) 修士 (薬科学) 博士 (看護学) 博士 (薬科学) 博士 (医学) 博士 (医学) 博士 (薬学)	- - - 2.44 1.70 1.16 0.50 0.37	平成18 平成27 平成22 平成27 平成24 平成18 平成18 平成24	- 富山県富山市杉谷 2630番地 同上 同上 同上 同上 同上 同上	※令和4年度より学生募集停止 ※令和4年度より学生募集停止 ※令和4年度より学生募集停止
	理工学研究科 (修士課程) 理工学専攻	2	288 a-【10】 b-【29】	-	576 a-【20】 b-【58】	修士 (理学、工学、理工学、数情報学)	1.24	令和4	- 富山県富山市五福 3190番地	aは持続可能社会創成学環、bは医薬理工学環に活用する入学定員及び収容定員数
	理工学教育部 (修士課程) 生物学専攻 地球科学専攻 生物圏環境科学専攻 電気電子システム工学専攻 知能情報工学専攻 生命工学専攻 環境応用化学専攻 材料機能工学専攻 (博士課程) 数理・ヒューマンシステム科学専攻 ナノ新機能物質科学専攻 新エネルギー科学専攻 地球生命環境科学専攻	2 2 2 2 2 2 2 2 2 3 3 3 3	- - - - - - - - - 5 4 3 4	- - - - - - - - - - - - -	- - - - - - - - - 15 12 9 12	修士 (理学) 修士 (理学) 修士 (理学) 修士 (工学) 修士 (工学) 修士 (工学) 修士 (工学) 修士 (工学) 博士 (理学、工学) 博士 (理学、工学) 博士 (理学、工学) 博士 (理学、工学)	- - - - - - - - - 2.40 2.50 1.11 1.91	平成18 平成18 平成18 平成18 平成18 平成24 平成24 平成24 平成18 平成18 平成18 平成18	富山県富山市五福 3190番地 同上 同上 同上 同上 同上 同上 同上	※令和4年度より学生募集停止 ※令和4年度より学生募集停止 ※令和4年度より学生募集停止 ※令和4年度より学生募集停止 ※令和4年度より学生募集停止 ※令和4年度より学生募集停止 ※令和4年度より学生募集停止 ※令和4年度より学生募集停止

既設大学等の状況	生命融合科学教育部 (博士課程)								-
	認知・情動脳科学専攻	4	9	-	36	博士 (医学)	0.83	平成18	富山県富山市杉谷 2630番地
	生体情報システム科学専攻	3	4	-	12	博士 (薬科学、理 学、工学)	0.16	平成18	富山県富山市五福 3190番地
	先端ナノ・バイオ科学専攻	3	4	-	12	博士 (薬科学、理 学、工学)	0.50	平成18	同上
	持続可能社会創成学環 (修士課程)	2	【18】	-	【36】	修士 (学術、サス テイナビリ ティ学)	1.25	令和4	富山県富山市五福 3190番地
	医薬理工学環 (修士課程)	2	【37】	-	【74】	修士 (薬科学、神 経科学、医工 学)	1.32	令和4	富山県富山市五福 3190番地 富山県富山市杉谷 2630番地
	教職実践開発研究科 (専門職学位課程)								-
教職実践開発専攻	2	14	-	28	教職修士 (専門職)	1.07	平成28	富山県富山市五福 3190番地	
大学院全体	-	487	-	1,085	-	-	-	-	

附属施設の概要	名称： 附属病院 目的： 診療を通じて医学、薬学の教育及び研究を行うことを目的とする。 所在地： 富山市杉谷2630 設置年月： 昭和54年4月 規模等： 建物 56,819㎡
	名称： 和漢医薬学総合研究所 目的： 和漢薬に関する学理及びその応用の研究並びに教育を行うことを目的とする。 所在地： 富山市杉谷2630 設置年月： 昭和49年6月（富山大学附置和漢薬研究所） 昭和53年6月（富山医科薬科大学附置和漢薬研究所） 規模等： 建物 3,909㎡
	名称： 附属図書館 目的： 大学の理念・目標に基づき、教育及び研究に必要な図書、雑誌、データベースその他の資料を収集し、管理し、職員及び学生の利用に供することを目的とする。 所在地： 富山市五福3190（中央図書館） 富山市杉谷2630（医薬学図書館） 高岡市二上町180（芸術文化図書館） 設置年月： 昭和24年5月（中央図書館） 昭和50年10月（医薬学図書館） 昭和62年3月（芸術文化図書館） 規模等： 建物 9,589㎡（中央図書館） 3,285㎡（医薬学図書館） 966㎡（芸術文化図書館）
	名称： 教育・学生支援機構 目的： アドミッションポリシーで求める人材の確保、教育の質保証及び教育の質の向上並びに学生の充実した修学・生活環境の構築を図るために必要な全学的な施策の推進、調整、支援及び諸課題への対応を総合的に行い、もって人材の育成に寄与する。 所在地： 富山市五福3190 設置年月： 平成27年4月 規模等： 建物 多目的施設・学生会館 2,985㎡の一部
	名称： 研究推進機構 目的： 大学における特色ある研究の推進と、多様な分野での研究の推進を支援するとともに、世界と地域に向けて研究成果を発信し、将来を担う人材の育成に寄与する。 所在地： 富山市五福3190、富山市杉谷2630 設置年月： 平成27年4月 規模等： 建物 14,958㎡

附属施設の概要

- 名称：** 地域連携推進機構
目的： 社会人教育による市民生活の充実及び地域課題解決への先導的役割等を果たすとともに、地域社会と連携する中核拠点としての機能を果たすことにより、地域社会の発展に寄与する。
所在地： 富山市五福3190、富山市杉谷2630、高岡市二上町180
設置年月： 平成20年7月
規模等： 建物 1,102㎡
- 名称：** 国際機構
目的： 国際化に関する事業を統括し、大学の国際化を推進する。
所在地： 富山市五福3190
設置年月： 平成11年4月（留学生センター）
 平成25年10月（国際交流センター）
 平成30年4月（国際機構）
規模等： 建物 380㎡
- 名称：** 総合情報基盤センター
目的： 大学における情報通信、情報処理及び情報共有のためのシステムを円滑かつ効率的に運用管理し、教育研究及びその他の諸活動を支援するとともに、地域社会の発展に資することを目的とする。
所在地： 富山市五福3190
設置年月： 平成8年5月（総合情報処理センター）
 平成15年4月（総合情報基盤センター）
規模等： 建物 3,166㎡
- 名称：** 環境安全推進センター
目的： 環境配慮活動の推進、薬品管理、排水管理、廃棄物管理、作業環境管理、作業管理に関する指導・助言を行い、教育研究等に伴う環境に配慮した活動を推進することを目的とする。
所在地： 富山市五福3190
設置年月： 平成26年4月
規模等： 建物 459㎡
- 名称：** 自然観察実習センター
目的： 大学の共同教育研究施設として野外教育（自然観察・栽培等）の実習に利用すること及び本学の関連領域における教育・研究などの材料を育成管理し、提供することを目的とする。
所在地： 富山市寺町字草山2639-1
設置年月： 昭和56年7月
規模等： 土地 33,208㎡
- 名称：** 保健管理センター
目的： 大学における保健管理及び健康支援、これに関する研究及び教育を一体的に行い、学生及び職員の心身の健康の保持増進を図ることを目的とする。
所在地： 富山市五福3190、富山市杉谷2630、高岡市二上町180
設置年月： 平成17年10月
規模等： 建物 947㎡
- 名称：** 教育学部附属幼稚園
目的： 幼児の保育を行うとともに、教育学部に附属する教育研究の機関として、学部における幼児の保育に関する研究に協力し、学部の計画に基づき学生の教育実習の実施に当たる他、教育の理論と実践についての先進的な研究に取り組み、その成果を公開する。
所在地： 富山市五艘1300
設置年月： 昭和26年4月（教育学部附属幼稚園）
 平成17年10月（人間発達科学部附属幼稚園）
 令和4年4月（教育学部附属幼稚園）
規模等： 建物 988㎡
- 名称：** 教育学部附属小学校
目的： 義務教育として行われる普通教育を施すとともに、教育学部に附属する教育研究の機関として、学部における児童の教育に関する研究に協力し、学部の計画に基づき学生の教育実習の実施に当たる他、教育の理論と実践についての先進的な研究に取り組み、その成果を公開する。
所在地： 富山市五艘1300
設置年月： 昭和26年4月（教育学部附属小学校）
 平成17年10月（人間発達科学部附属小学校）
 令和4年4月（教育学部附属小学校）
規模等： 建物 4,809㎡

<p>附属施設の概要</p>	<p>名称：教育学部附属中学校 目的： 義務教育として行われる普通教育を施すとともに、教育学部に附属する教育研究の機関として、学部における生徒の教育に関する研究に協力し、学部の計画に基づき学生の教育実習の実施に当たる他、教育の理論と実践についての先進的な研究に取り組み、その成果を公開する。 所在地： 富山市五艘1300 設置年月： 昭和26年4月（教育学部附属中学校） 平成17年10月（人間発達科学部附属中学校） 令和4年4月（教育学部附属中学校） 規模等： 建物 6,006㎡</p> <p>名称：教育学部附属特別支援学校 目的： 知的障害に係る特別支援教育を施すとともに、教育学部に附属する教育研究の機関として、学部における児童及び生徒の教育に関する研究に協力し、学部の計画に基づき学生の教育実習の実施に当たる他、教育の理論と実践についての先進的な研究に取り組み、その成果を公開する。 所在地： 富山市五艘1300 設置年月： 昭和51年4月（教育学部附属養護学校） 平成17年10月（人間発達科学部附属養護学校） 平成19年4月（人間発達科学部附属特別支援学校） 令和4年4月（教育学部附属特別支援学校） 規模等： 建物 3,493㎡</p> <p>名称：教育学部附属教育実践総合センター 目的： 教育臨床・学習環境・教育工学・環境教育の4つの部門からなり、教育学部、他学部、他大学、学校、教育機関、生涯学習施設、企業などと連携しながら研究プロジェクトを推進し、教育実践及び教育臨床に関する理論的、実践的並びに学際的研究を総合的に行う。 所在地： 富山市五福3190 設置年月： 昭和57年4月（教育学部附属教育実践研究指導センター） 平成17年10月（人間発達科学部附属人間発達科学研究実践総合センター） 令和4年4月（教育学部附属教育実践総合センター） 規模等： 建物 531㎡</p> <p>名称：薬学部附属薬用植物園 目的： 薬用植物を栽培し、学術研究及び教育に資することを目的とする。 所在地： 富山市杉谷2630 設置年月： 昭和54年6月（富山医科薬科大学薬学部附属薬用植物園） 規模等： 土地 13,334㎡</p>	
----------------	--	--

教 育 課 程 等 の 概 要

(大学院総合医薬学研究科 総合医薬学専攻 博士課程・博士後期課程)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学院 共通科目	研究倫理	1①・1③		1		○									兼4	オムニバス・メディア
	科学技術と持続可能社会	1①・1③		1		○									兼9	オムニバス・メディア オムニバス・メディア・共同(一部)
	地域共生社会特論	1②		1		○									兼1	
	研究者としてのコミュニケーション:基礎と応用	1②		1		○			2						兼4	オムニバス・メディア
	アート・デザイン思考	1②・1④		1		○									兼6	オムニバス・メディア オムニバス・メディア・共同(一部)
	英語論文作成 I	1①・1③		1		○									兼2	共同(一部)
	英語論文作成 II	1②・1④		1		○									兼2	共同(一部)
	データサイエンス特論	1①・1③		1		○			1						兼7	オムニバス・メディア オムニバス・メディア・共同(一部)
	大学院生のためのキャリア形成	1①・1③		1		○									兼2	オムニバス・メディア オムニバス・メディア・共同(一部)
	知的財産法	1②・1④		1		○									兼3	オムニバス・メディア オムニバス・メディア・共同(一部)
	学際融合発表演習 I	1③	1				○		54	35	9	14				共同(一部)・メディア
	学際融合発表演習 II	2③	1				○		54	35	9	14				共同(一部)・メディア
小計(12科目)	—	2	10	0	—	—	—	54	35	9	14	0		兼34	—	
目 研究科 共通科	医薬学プロフェッショナル研究論	1①・1③	1			○			7						兼3	オムニバス・メディア
	医療制度と医療経営特論	1①	1			○			2						兼3	オムニバス・メディア
	日本語・日本文化	1・2・3・①②③④			4	○									兼1	
	小計(3科目)	—	2	0	4	—	—	8	0	0	0	0		兼4	—	
看 護 科 学 ブ ロ グ ラ ム 専 門 科 目	医学連携特論	1①・1③		1		○			2							オムニバス・メディア
	看護科学特論	1②・1④		1		○			1							オムニバス・メディア
	基礎看護科学分野															
	基礎看護科学特論	1③～1④		2		○			1	2						
	基礎看護科学演習	2通		4			○		1							
	臨床・生体機能看護科学分野															
	臨床・生体機能看護科学特論	1③～1④		2		○			1	3						
	臨床・生体機能看護科学演習	2通		4			○		1							
	地域ケアシステム看護科学分野															
	地域ケアシステム看護科学特論	1③～1④		2		○			1		1					
地域ケアシステム看護科学演習	2通		4			○		1		1						
看護科学特別研究	1～3通	10					○	3	5	1						
小計(9科目)	—	10	20	0	—	—	—	4	5	1	0	0	0	0	—	
グ ラ ム 先 端 薬 学 専 門 科 目 ブ ロ 	先端薬科学特別実習	2③・2④		1				○	1							
	薬学連携特論	1②		1		○			8							オムニバス
	先端薬科学インターンシップ	1・2・3通		1				○	1							集中
	先端薬科学特別演習	3①～3②		2			○		19	15	2					
	先端薬科学特別研究	1～3通		10				○	19	15	2					
小計(5科目)	—	13	2	0	—	—	—	19	15	2	0	0	0	0	—	
専 命 科 目 生 命 ・ 臨 床 医 学 ブ ロ グ ラ ム	先進医学特論	1～4通		1		○			1							
	医学連携特論	1①・1③		1		○			2							オムニバス・メディア
	解剖学・神経科学特論	1③～④		2		○			1			1				
	統合神経科学特論	1①～②		2		○				1						
	分子脳科学特論	1③～④		2		○			1	1		1				
	システム機能形態学特論	1③～④		2		○			1							
	病理診断学特論	1①～②		2		○			1							
分子神経病態学特論	1①～②		2		○					1						
分子免疫学特論	1①～②		2		○				1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
生命・臨床医学プログラム専門科目	微生物学特論	1③～④		2		○			1						
	分子医科薬理学特論	1①～②		2		○			1				2		
	疫学・健康政策学特論	1③～④		2		○			1	1			1		
	公衆衛生学特論	1①～②		2		○					1				
	法医学特論	1①～②		2		○			1	1					
	医学教育学特論	1①～②		2		○			1						
	システム情動科学特論	1①～②		2		○			1				2		
	分子神経科学特論	1①～②		2		○				1					
	臨床心理学・認知神経科学特論	1③～④		2		○			1						
	遺伝子発現制御学特論	1③～④		2		○				1					
	代謝・免疫・呼吸器病学特論	1①～②		2		○				1					
	循環器・腎臓内科学特論	1①～②		2		○			1						
	消化器内科学特論	1③～④		2		○			1	1					
	感染症学特論	1③～④		2		○			1	1			1		
	皮膚科学特論	1①～②		2		○				1					
	小児発達医学特論	1①～②		2		○					1				
	神経精神医学特論	1①～②		2		○				1	2		1		
	放射線診断治療学特論	1①～②		2		○				1					
	放射線腫瘍学特論	1①～②		2		○			1						
	循環・呼吸器・総合外科学特論	1①～②		2		○			1	1					
	呼吸器外科学特論	1③～④		2		○			2						
	消化器・腫瘍・総合外科学特論	1③～④		2		○			1		1				
	脳神経外科学特論	1③～④		2		○					1				
	整形外科・運動器病学特論	1①～②		2		○			1	1					
	産科婦人科学特論	1③～④		2		○			1	1					
	眼科学特論	1①～②		2		○			1						
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学特論	1①～②		2		○					1				
	腎泌尿器科学特論	1③～④		2		○			1						
	麻酔・周術期管理学特論	1①～②		2		○					1				
	総合口腔科学特論	1③～④		2		○				1					
	臨床分子病態検査学特論	1①～②		2		○				1					
	和漢診療学特論	1①～②		2		○			1						
	救急医学特論	1③～④		2		○			1						
	血液内科学特論	1③～④		2		○			1						
	脳神経内科学特論	1③～④		2		○				1					
	臨床腫瘍学特論	1③～④		2		○			1				1		
	医療安全学特論	1①～②		2		○				1					
	形成再建外科学・美容外科学特論	1①～②		2		○			1		1				
	計算創薬・数理医学特論	1③～④		2		○			1				1		
	リハビリテーション医学特論	1③～④		2		○			1				1		
	先端医療研究開発学特論	1③～④		2		○			1						
行動生理学特論	1①～②		2		○			1							
高度医学がん治療学特論Ⅰ	1・2・3通		1		○			1						メディア	
高度医学がん治療学特論Ⅱ	1・2・3通		1		○			1						メディア	
高度医学がん治療学特論Ⅲ	1・2・3通		1		○			1						メディア	
高度医学がん治療学特論Ⅳ	1・2・3通		1		○			1						メディア	
高度医学がん治療学特論Ⅴ	1・2・3通		1		○			1						メディア	
高度医学がん治療学特論Ⅵ	1・2・3通		1		○			1						メディア	
生命・臨床医学特論	1～4通		6		○			31	15	6		14			
生命・臨床医学特別実習	1～4通		2					○	32	15	6	14			
生命・臨床医学特別研究	1～4通		10					○	32	15	6	14			
小計(60科目)		—	18	106	0	—		32	22	11	14	0	0	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
臨床薬学プログラム専門科目	高度薬物がん治療学特論Ⅰ	1・2通		1		○			1						メディア
	高度薬物がん治療学特論Ⅱ	1・2通		1		○			1						メディア
	高度薬物がん治療学特論Ⅲ	1・2通		1		○			1						メディア
	高度薬物がん治療学特論Ⅳ	1・2通		1		○			1						メディア
	高度薬物がん治療学特論Ⅴ	1・2通		1		○			1						メディア
	高度薬物がん治療学特論Ⅵ	1・2通		1		○			1						メディア
	高度薬物がん治療学特論Ⅶ	1・2通		1		○			1						メディア
	高度薬物がん治療学特論Ⅷ	1・2通		1		○			1						メディア
	薬学連携特論	1②	1			○			8						オムニバス
	臨床薬学特論	1①～3②	6			○			19	15	2				
	臨床薬学特別演習	4①～4②	2				○		19	15	2				
	臨床薬学特別実習	2③・2④		1				○	19	15	2				
	臨床薬学インターンシップ	1・2・3通		1				○	1						集中
	臨床薬学特別研究	1～4通	10					○	19	15	2				
小計(14科目)	—	—	19	10	0	—	—	—	19	15	2	0	0	0	—
合計(103科目)		—	64	148	4	—	—	—	55	42	14	14	0	0	兼38
学位又は称号	博士(看護学) 博士(薬科学) 博士(薬学) 博士(医学)	学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係), 薬学関係, 医学関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
<p>【看護科学プログラム】 大学院共通科目から必修科目2単位を含む3単位以上(ただし博士前期課程において単位修得済の科目は除く。), 研究科共通科目から必修科目2単位, 看護科学プログラム専門科目から必修科目10単位, 及び看護科学プログラム専門科目の選択科目から「医学連携特論」又は「看護科学特論」から1科目1単位選択必修及び選択した分野の特論科目2単位及び演習科目4単位, 合計22単位以上修得し, かつ, 必要な研究指導を受けた上, 論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とする。</p> <p>【先端薬科学プログラム】 大学院共通科目から必修科目2単位, 研究科共通科目から必修科目2単位, 先端薬科学プログラム専門科目から必修科目13単位, 先端薬科学プログラム専門科目の選択科目及び博士前期課程先端薬科学プログラムのプログラム専門科目(序論及び特論)(ただし博士前期課程において単位未修得の科目に限る。)から1単位以上を修得し, 合計18単位以上修得し, かつ, 必要な研究指導を受けた上, 論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とする。</p> <p>【生命・臨床医学プログラム】 大学院共通科目から必修科目2単位, 「研究倫理」1単位及び「科学技術と持続可能社会」1単位, 研究科共通科目から必修科目2単位, 生命・臨床医学プログラム専門科目から必修科目18単位, 生命・臨床医学プログラム専門科目の選択科目から4単位以上, 大学院共通科目及び生命・臨床医学プログラム専門科目の選択科目から2単位以上を修得し, 合計30単位以上修得し, かつ, 必要な研究指導を受けた上, 論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とする。</p> <p>【臨床薬学プログラム】 大学院共通科目から必修科目2単位, 「研究倫理」1単位及び「科学技術と持続可能社会」1単位, 研究科共通科目から必修科目2単位, 臨床薬学プログラム専門科目から必修科目19単位, 大学院共通科目, 臨床薬学プログラム専門科目, 博士前期課程先端薬科学プログラムのプログラム専門科目(序論及び特論)から5単位以上を修得し, 合計30単位以上修得し, かつ, 必要な研究指導を受けた上, 論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とする。</p>						1学年の学期区分		4学期							
						1学期の授業期間		8週							
						1時限の授業時間		90分							

教 育 課 程 等 の 概 要

(大学院医学薬学教育部 看護学専攻 博士後期課程) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目	看護学理論	1前	2			○			2						
	看護学研究方法論	1前	2			○			2						
	小計 (2科目)	—	4	0	0	—	—	—	4	0	0	0	0	0	—
基礎看護科学	基礎看護科学特論	1前		2		○			2	1					
	基礎看護科学演習	1前・2通		4			○		2	1					
	小計 (2科目)	—	0	6	0	—	—	—	2	1	0	0	0	0	—
臨床・生体機能看護科学	臨床・生体機能看護科学特論	1前		2		○			5	3					
	臨床・生体機能看護科学演習	1前・2通		4			○		5	1					
	小計 (2科目)	—	0	6	0	—	—	—	5	2	0	0	0	0	—
地域ケアシステム看護科学	地域ケアシステム看護科学特論	1前		2		○			1	2	1				
	地域ケアシステム看護科学演習	1前・2通		4			○		1	1	1				
	小計 (2科目)	—	0	6	0	—	—	—	1	2	1	0	0	0	—
必修科目	看護特別研究	1後～3通	12					○	8	1					
	小計 (1科目)	—	12	0	0	—	—	—	8	1	0	0	0	0	—
合計 (9科目)		—	16	18	0	—	—	—	8	7	1	0	0	0	—
学位又は称号	博士(看護学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
<p>この課程に3年以上在学し、次の履修方法により22単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院医学薬学教育部博士後期課程(看護学専攻)の必修科目16単位 ・特論から2単位以上選択 ・演習から4単位以上選択 						1学年の学期区分			2学期						
						1学期の授業期間			15週						
						1時限の授業時間			90分						

教 育 課 程 等 の 概 要

(大学院医学薬学教育部 薬科学専攻 博士後期課程) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
博士後期課程 (薬科学専攻)	分子生物薬科学特論	1前		2		○			5	7					兼1
	分子薬科学特論	1後		2		○			5	7					兼2
	先端東西医薬学特論	1前		2		○			5	4					兼2
	医薬品製剤開発学実習	1後		1				○	6	5					兼1
	医薬品薬効動態学実習	1後		1				○	8	4					兼5
	国際医薬学特論	1後		2		○			10	3					兼2
	特別実習(インターシップ)	1後		4				○	1						
	薬科学演習	1～3通	4				○		17	8					
	薬科学特別研究	1～3通	14					○	17	8					
	研究倫理・研究方法論	1前			1	○			1						
	日本語・日本文化	1・2・前・後			4	○									兼1
小計(11科目)	—	—	18	14	5	—	—	—	17	20	0	0	0	兼8	—
合計(11科目)	—	—	18	14	5	—	—	—	17	20	0	0	0	兼8	—
学位又は称号	博士(薬科学)		学位又は学科の分野			薬学関係									
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
<p>この課程に3年以上在学し、次の履修方法により20単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士後期課程(薬科学専攻)の必修科目18単位 ・博士後期課程(薬科学専攻)の選択科目から2単位以上 								1学年の学期区分			2学期				
								1学期の授業期間			15週				
								1時限の授業時間			90分				

教育課程等の概要

(大学院医学薬学教育部 生命・臨床医学専攻 博士課程) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
博士課程 (生命・臨床医学専攻)	循環器病学特論	1前		2		○			1						
	運動機能制御学特論	1前		2		○			1						
	平衡神経学特論	1前		2		○									兼1
	口腔腫瘍治療学特論	1後		2		○			1	1					兼1
	疼痛管理学特論	1後		2		○									兼1
	循環器外科特論	1前		2		○			1	1					
	脳科学特論	1後		2		○									兼4
	消化器病学特論	1後		2		○			1						
	肝臓病学特論	1後		2		○				1					
	泌尿器・性器内分泌学特論	1前		2		○			1						
	臨床分子病態学特論	1前		2		○			1	1					
	腫瘍病理学特論	1前		2		○									兼1
	診断病理学特論	1後		2		○									兼1
	分子放射線腫瘍学特論	1前		2		○			1						
	放射線画像診断特論	1前		2		○			1						
	消化器腫瘍治療学特論	1後		2		○			1		1				
	感染症学特論	1後		2		○			1	1			1		
	微生物学特論Ⅰ	1後		2		○			1						
	微生物学特論Ⅱ	1後		2		○									兼1
	社会疫学特論	1前		2		○			1						
	環境医学特論	1前		2		○			1						
	法医学特論	1前		2		○			1						
	生活習慣病特論	1前		2		○			2						
	臨床アレルギー学特論	1前		2		○									兼1
	心臓生理特論	1前		2		○									兼1
	感覚運動機能病態学特論	1前		2		○			1						
	聴覚言語音声学特論	1前		2		○				1					
	医用外科学特論	1後		2		○			1	1					
	麻酔薬作用機序仮説特論	1前		2		○				1					
	発生工学特論	1後		2		○									兼1
	尿路性器腫瘍学特論	1後		2		○			1						
	放射線医学特論	1後		2		○				1					
	腫瘍病因学特論	1後		2		○			1		1				
	分子心臓病態学特論	1後		2		○									兼1
	理論疫学特論	1後		2		○			1						
	法医遺伝子診断学特論	1前		2		○				1					
	実験動物学特論	1後		2		○									兼1
	救急・災害医学特論	1後		2		○			1						
	蘇生医学特論	1後		2		○									兼1
	臨床分子腫瘍学	1後		2		○			1			1			
免疫分子機能学特論	1前		2		○				1						
免疫細胞機能学特論	1前		2		○				1						
血液内科学特論	1後		2		○			1							
形成再建外科学・美容外科学特論	1前		2		○			1		1					
医学教育・社会医学研究	1前		2		○			1							
計算創薬・計算病態解析学特論	1後		2		○			1			1				
リハビリテーション医学特論	1後		2		○			1			1				
精神生理学特論	1後		2		○					1					
医学特論	1～4通		4		○			27	2						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
命 攻 博 士 臨 床 医 学 専 攻 課 程 （ 生 ）	生命・臨床医学演習	1～4通	4				○		27	16	5	9		兼1 メディア	
	生命・臨床医学特別研究	1～4通	14					○	27	2					
	研究倫理・研究方法論	1前			1	○			1						
	日本語・日本文化	1・2・前・後			4	○									
小計（53科目）		—	22	96	5	—			27	16	5	9	0	兼16	—
高 齢 が ん 患 者 対 策 専 門 コ ー ス	腫瘍薬物学特論	1前		1		○			1					メディア	
	腫瘍放射線医学特論	1前		1		○			1					メディア	
	がん緩和医療学特論	1前		1		○			1					メディア	
	腫瘍病理学特論	1前		1		○			1					メディア	
	臨床腫瘍学特論	1前		1		○			1					メディア	
	がん外科学特論	1前		1		○			1					メディア	
	分子腫瘍学特論	1前		1		○			1					メディア	
	分子生物学入門	1前		1		○			1					メディア	
	臨床統計学特論	1前		1		○			1					メディア	
	がんゲノム学特論	1前		1		○			1					メディア	
	小児・AYA世代・希少がん特論	1前		1		○			1					メディア	
	在宅緩和ケア特論	1前		1		○			1					メディア	
	老年医療学特論	1前		1		○			1					メディア	
	がんライフステージ演習	1前		1			○		1						
北信オンコロジーセミナー	1前		1			○		1							
小計（15科目）		—	0	15	0	—			1	0	0	0	0	0	—
合計（68科目）		—	22	111	5	—			27	16	5	9	0	兼16	—
学位又は称号	博士(医学)		学位又は学科の分野			医学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等									
<p>この課程に4年以上在学し、次の履修方法により30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士課程(生命・臨床医学専攻)の必修科目22単位 ・所属する専攻の授業科目から4単位以上選択 ・所属する専攻以外の専攻の授業科目から2単位以上選択 ・生命融合科学教育部、理工学教育部の授業科目から2単位以上選択 <p>〔多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン（北信がんプロ）高齢がん患者対策専門コース〕</p> <p>次の履修方法により34単位以上を修得すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士課程(生命・臨床医学専攻)から必修科目22単位 ・高齢がん患者対策専門コースの「腫瘍薬物学特論」「腫瘍放射線医学特論」「がん緩和医療学特論」及び「臨床腫瘍学特論」の4科目4単位を必修 ・高齢がん患者対策専門コースの選択科目及び生命・臨床医学専攻科目または東西統合医学専攻科目に掲げる授業科目から、がんに関わる科目8単位以上を選択 						1学年の学期区分			2学期						
						1学期の授業期間			15週						
						1時限の授業時間			90分						

教 育 課 程 等 の 概 要

(大学院医学薬学教育部 東西統合医学専攻 博士課程) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
博士課程 (東西統合医学専攻)	先端薬理学特論	1前		2		○			1				2			
	和漢薬の作用機構特論	1前		2		○				1						
	視覚生理病態特論	1前		2		○			1							
	皮膚アレルギー学概論	1前		2		○			1	1	1					
	胎児・周産期医学特論Ⅰ	1後		2		○			1							
	胎児・周産期医学特論Ⅱ	1後		2		○			1							
	呼吸・循環調節機能特論	1前		2		○									兼1	
	和漢治療学特論	1後		2		○			1							
	臨床統計学の基礎	1前		1		○									兼1	
	臨床研究の計画法	1後		1		○									兼1	
	医学特論	1～4通	4			○			5	3	3	2				
	東西統合医学演習	1～4通	4				○		5	3	3	2				
	東西統合医学特別研究	1～4通	14					○	5							
	研究倫理・研究方法論	1前			1	○			1							
日本語・日本文化	1・2・前・後			4	○									兼1		
小計 (15科目)	—	—	22	18	5	—	—	—	5	3	3	2	0	兼4	—	
高齢がん患者 対策専門コース	腫瘍薬物学特論	1前		1		○									兼1	メディア
	腫瘍放射線医学特論	1前		1		○									兼1	メディア
	がん緩和医療学特論	1前		1		○									兼1	メディア
	腫瘍病理学特論	1前		1		○									兼1	メディア
	臨床腫瘍学特論	1前		1		○									兼1	メディア
	がん外科学特論	1前		1		○									兼1	メディア
	分子腫瘍学特論	1前		1		○									兼1	メディア
	分子生物学入門	1前		1		○									兼1	メディア
	臨床統計学特論	1前		1		○									兼1	メディア
	がんゲノム学特論	1前		1		○									兼1	メディア
	小児・AYA世代・希少がん特論	1前		1		○									兼1	メディア
	在宅緩和ケア特論	1前		1		○									兼1	メディア
	老年医療学特論	1前		1		○									兼1	メディア
	がんライフステージ演習	1前		1			○								兼1	
北信オンコロジーセミナー	1前		1		○									兼1		
小計 (15科目)	—	—	0	15	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼1	—	
合計 (30科目)		—	22	33	5	—	—	—	5	3	3	2	0	兼5	—	
学位又は称号	博士(医学)		学位又は学科の分野			医学関係										
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
<p>この課程に4年以上在学し、次の履修方法により30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士課程(東西統合医学専攻)の必修科目22単位 ・所属する専攻の授業科目から4単位以上選択 ・所属する専攻以外の専攻の授業科目から2単位以上選択 ・生命融合科学教育部、理工学教育部の授業科目から2単位以上選択 <p>[多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン(北信がんプロ)高齢がん患者対策専門コース]</p> <p>次の履修方法により34単位以上を修得すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士課程(東西統合医学専攻)から必修科目22単位 ・高齢がん患者対策専門コースの「腫瘍薬物学特論」「腫瘍放射線医学特論」「がん緩和医療学特論」及び「臨床腫瘍学特論」の4科目4単位を必修 ・高齢がん患者対策専門コースの選択科目及び生命・臨床医学専攻科目または東西統合医学専攻科目に掲げる授業科目から、がんに関わる科目8単位以上を選択 						1学年の学期区分		2学期								
						1学期の授業期間		15週								
						1時限の授業時間		90分								

教 育 課 程 等 の 概 要

(大学院医学薬学教育部 薬学専攻 博士課程) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
博士課程 (薬学専攻)	薬物治療学特論○	1前		2		○									兼13
	医療分子科学特論○	1後		2		○									兼13
	臨床東西医薬学特論○	1前		2		○			1						兼10
	臨床薬学特論○	1通		2		○			7		1				
	医薬品製剤開発学実習○	1後		1				○							兼12
	医薬品薬効動態学実習○	1後		1				○	5						兼12
	国際医薬学特論○	1後		2		○			2						兼13
	特別実習(インターシップ)○	1後		4				○							兼1
	高度薬物がん治療学特論Ⅰ*	1前		1		○			1						メディア
	高度薬物がん治療学特論Ⅱ*	1前		1		○			1						メディア
	高度薬物がん治療学特論Ⅲ*	1前		1		○			1						メディア
	高度薬物がん治療学特論Ⅳ*	1前		1		○			1						メディア
	高度薬物がん治療学特論Ⅴ*	1前		1		○			1						メディア
	高度薬物がん治療学特論Ⅵ*	1前		1		○			1						メディア
	高度薬物がん治療学特論Ⅶ*	1前		1		○			1						メディア
	高度薬物がん治療学特論Ⅷ*	1前		1		○			1						メディア
薬学演習	1～4通	6					○		8						
薬学特別研究	1～4通	16					○		8						
研究倫理・研究方法論	1前			1	○									兼1	
日本語・日本文化	1・2・前・後			1	○									兼1	
小計(20科目)	—	—	22	24	2	—	—	—	8	0	1	0	0	兼36	—
高度薬剤師養成コース	分子腫瘍学特論	1前		1		○			1						メディア
	臨床統計学特論	1前		1		○			1						メディア
	臨床栄養学特論	1前		1		○			1						メディア
	腫瘍薬物学特論	1前		1		○			1						メディア
	がん緩和医療学特論	1前		1		○			1						メディア
	腫瘍放射線医学特論	1前		1		○			1						メディア
	腫瘍病理学特論	1前		1		○			1						メディア
	臨床腫瘍学特論	1前		1		○			1						メディア
	分子生物学入門	1前		1		○			1						メディア
	臨床疫学	1後		2		○			1						
	最先端医療	1前		2		○			1						
	AYA世代診療	1後		2		○			1						
	腫瘍学	1前		2		○			1						
	がんゲノム学特論	1後		1		○			1						
	在宅緩和ケア特論	1前		1		○			1						
老年医療学特論	1後		1		○			1							
がん治療におけるゲノム医療演習	1後		1				○	1							
地域包括医療でのがん治療演習	1後		0.5				○	1							
がんライフステージ演習	1後		0.5				○	1							
小計(19科目)	—	—	0	22	0	—	—	—	1	0	0	0	0	0	—
合計(39科目)	—	—	22	46	2	—	—	—	8	0	1	0	0	兼36	—
学位又は称号	博士(薬学)		学位又は学科の分野			薬学関係									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>この課程に4年以上在学し、次の履修方法により30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び試験に合格すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士課程(薬学専攻)の必修科目22単位 ・博士課程(薬学専攻)の「○」の授業科目から4単位以上選択 ・大学院総合薬学研究科修士課程総合薬学専攻基礎薬学プログラムのプログラム専門科目(序論及び特論)及び*の北信がんプロ科目から4単位以上選択 <p>[多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン(北信がんプロ)高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる高度薬剤師養成コース]</p> <p>次の履修方法により36単位以上を修得すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士課程(薬学専攻)から必修科目22単位 ・博士課程(薬学専攻)の「○」の授業科目から4単位以上選択 ・大学院総合薬学研究科修士課程総合薬学専攻基礎薬学プログラムのプログラム専門科目(序論及び特論)及び「*」の北信がんプロ科目から4単位以上選択 ・高度薬剤師養成コースから「分子腫瘍学特論」、「臨床統計学特論」「臨床栄養学特論」、「がん治療におけるゲノム医療演習」、「地域包括医療でのがん治療演習」及び「がんライフステージ演習」の6科目5単位を必修 ・高度薬剤師養成コースから1単位以上選択 	1学年の学期区分	2学期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

教育課程等の概要

(大学院生命融合科学教育部 認知・情動脳科学専攻 博士課程) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通科目	生命倫理特論	1前		2		○				1							
	先端生命科学特論	1通		2		○										兼1	
	メディカルデザイン・アントレプレナーシップ特論	1前		2		○										兼1	
	インターンシップ	1通		2				○								兼1	
	小計 (4科目)	—	0	8	0			—	0	1	0	0	0			兼3	—
講義科目	情動・記憶神経科学特論	1・2前		2		○			1			2				兼1	隔年
	行動・自律神経機能の中枢性制御特論	1・2前		2		○			1			2				兼1	隔年
	細胞内シグナル伝達系特論	1・2前		2		○			1	1							隔年
	中枢神経遺伝子工学特論	1・2前		2		○			1	1							隔年
	細胞・システム生理特論	1・2前		2		○			1	1							隔年
	感覚認知システム情報特論	1・2前		2		○			1	1							隔年
	脳増殖因子学特論	1・2前		2		○				1							隔年
	神経病理学特論	1・2前		2		○				1							隔年
	精神疾患学特論	1・2前		2		○			1	1	2						隔年
	生物学的精神医学特論	1・2前		2		○			1	1	2						隔年
	生命高次適応科学特論	1・2前		2		○			1	2							隔年
	脳認知学特論	1・2前		2		○			1	2		1					隔年
	中枢神経構造学特論	1・2前		2		○				1							隔年
	機能的脳神経外科学特論	1・2後		2		○			1	1							隔年
	脳機能再建学特論	1・2後		2		○			1	1							隔年
	小児発達学特論	1・2後		2		○										兼1	隔年
	神経回路形成特論	1・2後		2		○			1			2					隔年
	神経回路機能成熟特論	1・2後		2		○			1			2					隔年
	行動生理学特論	1・2前		2		○			1								隔年
	局所神経回路機能形態学特論	1・2後		2		○			1								隔年
	論文英語特論	1後		2		○											兼1
	日本語・日本文化	1前			2	○											兼1
小計 (22科目)	—	0	42	2			—	9	7	2	5	0			兼4	—	
実習科目	脳遺伝子発現解析実習	1・2後		1				○	1	1							隔年
	侵襲的脳活動計測実習	1・2後		1				○	1								隔年
	神経病理学実習	1・2後		1				○		1							隔年
	RNA制御学実習	1・2前		1				○	1	1		1					隔年
	非侵襲的 (神経生理学的) 脳活動計測実習	1・2後		1				○	2			2				兼1	隔年
	非侵襲的 (非神経生理学的) 脳活動計測実習	1・2後		1				○	2			2				兼1	隔年
	脳身体相関解析実習	1・2後		1				○	1			2				兼1	隔年
	脳機能診断学実習	1・2後		1				○	1	1	2						隔年
	神経解剖学比較神経解剖学実習	1・2前		1				○	1			2					隔年
	行動生理学実習	1・2後		1				○	1								隔年
	局所神経回路機能形態解析実習	1・2前		1				○	1								隔年
小計 (11科目)	—	0	11	0			—	8	4	2	5	0			兼2	—	
特演習研究	認知・情動脳科学特別演習	1~3通	4					○	10	7	2	5					
	認知・情動脳科学特別研究	1~3通	10					○	10	7	2	5					
	小計 (2科目)	—	14	0	0			—	10	7	2	5	0	0		—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
認知症 プロフェッショナル 授業科目	講義科目	認知症基礎	1前	1		○			1	1							
		認知症症候学	1前	1		○			1	1							
		認知症検査・診断学	1前	1		○			1	1							
		認知症治療予防学	1前	1		○			1	1							
		認知症ケア・リハビリ・地域支援・倫理	1前	1		○			1	1							
		認知症各論Ⅰ	1前	1		○			1	1							
		認知症各論Ⅱ	1前	1		○			1	1							
		認知症特論	1前	2		○			1	1							
		研究倫理・研究方法論	1前	1		○									兼1		
		小計(2科目)	—	0	10	0		—	1	1	0	0	0	0	兼1	—	
		演習科目	認知症診断・治療学演習Ⅰ	1前	1			○		1	1						
			認知症診断・治療学演習Ⅱ	1前	1			○		1	1						
			認知症診断・治療学演習Ⅲ	1前	1			○		1	1						
			認知症診断・治療学演習Ⅳ	1前	1			○		1	1						
			小計(2科目)	—	0	4	0	—	1	1	0	0	0	0	0	—	
	実習科目	地域認知症疫学・予防・ケア実習	1前	3				○	1	1							
		認知症・神経難病の臨床病理実習	1前	3				○	1	1							
		小計(15科目)	—	0	6	0	—	1	1	0	0	0	0	0	—		
合計(54科目)			—	14	81	2	—	10	7	2	5	0	兼6	—			
学位又は称号	博士(医学)		学位又は学科の分野			医学関係											
卒業要件及び履修方法						授業期間等											
<p>当該課程に4年以上在学し、次の履修方法により30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通科目から2単位以上選択 ・自専攻の開講科目(講義科目)から8単位以上選択 ・自専攻の開講科目(実習科目)から2単位以上選択 ・認知・情動脳科学特別演習4単位及び認知・情動脳科学特別研究10単位必修 ・講義科目(他の教育部の開講科目を含む)から4単位以上選択 <p>[認知症チーム医療リーダー養成コース]</p> <p>次の履修方法により30単位以上を修得すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症プロフェッショナル授業科目から8単位以上選択 ・講義科目及び実習科目(他の教育部の開講科目を含む)から8単位以上選択 ・認知・情動脳科学特別演習4単位及び認知・情動脳科学特別研究10単位必修 						1学年の学期区分		2学期									
						1学期の授業期間		15週									
						1時限の授業時間		90分									

教 育 課 程 等 の 概 要

(大学院生命融合科学教育部 生体情報システム科学専攻 博士課程) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	生命倫理特論	1前		2		○									兼1	
	先端生命科学特論	1通		2		○									兼1	
	メディカルデザイン・アントレプレナーシップ特論	1前		2		○									兼1	
	インターンシップ	1通		2				○							兼1	
	小計 (4科目)	—		0	8	0	—		0	0	0	0	0	0	兼4	—
講義科目	構造生物学特論	1・2後		2		○			1						兼1	隔年
	時間生物学特論	1・2後		2		○									兼1	隔年
	タンパク質工学特論	1・2後		2		○			1						兼1	隔年
	生命代謝工学特論	1・2後		2		○				1					兼1	隔年
	生体情報素子設計学特論	1・2後		2		○			1						兼1	隔年
	神経システム工学特論	1・2前		2		○			1						兼1	隔年
	バイオ計測素子工学特論	1・2後		2		○			1						兼1	隔年
	神経系情報工学特論	1・2後		2		○									兼1	隔年
	生体組織医工学特論	1・2後		2		○			1						兼1	隔年
	生体分子生化学特論	1・2後		2		○			1						兼1	隔年
	和漢機能学特論	1・2後		2		○				1					兼1	隔年
	薬理学・遺伝子工学特論	1・2後		2		○				1					兼1	隔年
	細胞ストレス生物学特論	1・2前		2		○			1						兼1	隔年
	タンパク質代謝学特論	1・2後		2		○				1					兼1	隔年
論文英語特論	1後		2		○									兼1		
日本語・日本文化	1前			2	○									兼1		
小計 (4科目)	—		0	30	2	—		8	3	1	0	0	0	兼4	—	
特別演習研究	生体情報システム科学特別演習	1~3通	4				○		8	3	1	2	0			
	生体情報システム科学特別研究	1~3通	10					○	8	3	1	2	0			
	小計 (2科目)	—	14	0	0	—		8	3	1	2	0	0	0	—	
合計 (22科目)		—	14	38	2	—		8	3	1	2	0	0	兼8	—	
学位又は称号	博士 (薬科学) 博士 (理学) 博士 (工学)		学位又は学科の分野				薬学関係 理学関係 工学関係									
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
当該課程に3年以上在学し、次の履修方法により20単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 ・ 専攻の開講科目 (講義科目) から2単位以上選択 ・ 共通科目から2単位以上選択必修 ・ 他の教育部の開講科目から2単位以上選択 ・ 生体情報システム科学特別演習4単位及び生体情報システム科学特別研究10単位必修								1学年の学期区分		2学期						
								1学期の授業期間		15週						
								1時限の授業時間		90分						

教 育 課 程 等 の 概 要

(大学院生命融合科学教育部 先端ナノ・バイオ科学専攻 博士課程) 【既設】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目	生命倫理特論	1前		2		○									兼1	
	先端生命科学特論	1通		2		○			1							
	メディカルデザイン・アントレプレナーシップ特論	1前		2		○									兼1	
	インターンシップ	1通		2				○							兼1	
	小計 (4科目)	—	0	8	0	—	—	—	0	1	0	0	0	0	兼3	—
講義科目	精密分子構築化学特論	1・2前		2		○			1							隔年
	機能分子合成化学特論	1・2後		2		○			1							隔年
	金属錯体化学特論	1・2前		2		○			1							隔年
	生体内環境分析化学特論	1・2後		2		○			1							隔年
	生体界面科学特論	1・2後		2		○				1						隔年
	核酸分子システム科学特論	1・2後		2		○			1							隔年
	進化分子工学特論	1・2前		2		○					1					隔年
	生体分子シミュレーション特論	1・2後		2		○				1						隔年
	生物機能工学特論	1・2前		2		○				1						隔年
	ナノ・バイオマテリアル設計学	1・2前		2		○				1						隔年
	論文英語特論	1後		2		○									兼1	
	日本語・日本文化	1前			2	○									兼1	
小計 (12科目)	—	0	22	2	—	—	—	5	4	1	0	0	0	兼2	—	
特別演習研究	先端ナノ・バイオ科学特別演習	1～3通	4				○		5	4	1	2				
	先端ナノ・バイオ科学特別研究	1～3通	10					○	5	4	1	2				
	小計 (2科目)	—	14	0	0	—	—	—	5	4	1	2	0	0	0	—
合計 (18科目)		—	14	30	2	—	—	—	5	4	1	2	0	0	兼5	—
学位又は称号	博士 (薬科学) 博士 (理学) 博士 (工学)		学位又は学科の分野				薬学関係 理学関係 工学関係									
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
当該課程に3年以上在学し、次の履修方法により20単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。 ・自専攻の開講科目 (講義科目) から2単位以上選択 ・共通科目から2単位以上選択必修 ・他の教育部の開講科目から2単位以上選択 ・先端ナノ・バイオ科学特別演習4単位及び先端ナノ・バイオ科学特別研究10単位必修								1学年の学期区分				2学期				
								1学期の授業期間				15週				
								1時限の授業時間				90分				

教 育 課 程 等 の 概 要

(大学院総合医薬学研究科 総合医薬学専攻 修士課程) 【基礎となる修士課程】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
大学院共通科目	研究倫理	1①・1③	1			○									兼4	オムニバス・メディア
	科学技術と持続可能社会	1①・1③	1			○			1						兼8	オムニバス・メディア・共同 (一部)
	地域共生社会特論	1②		1		○									兼1	
	研究者としてのコミュニケーション：基礎と応用	1②		1		○			3						兼3	オムニバス・メディア
	アート・デザイン思考	1②・1④		1		○									兼6	オムニバス・メディア・共同 (一部)
	英語論文作成 I	1①・1③		1		○									兼2	共同 (一部)
	英語論文作成 II	1②・1④		1		○									兼2	共同 (一部)
	データサイエンス特論	1①・1③		1		○			1	1					兼6	オムニバス・メディア・共同 (一部)
	大学院生のためのキャリア形成	1①・1③		1		○									兼2	オムニバス・メディア・共同 (一部)
	知的財産法	1②・1④		1		○									兼3	オムニバス・メディア
小計 (10科目)	—	—	2	8	0	—			5	1	0	0	0	兼31		
研究科共通科目	総合医薬学	1①	1			○			4							オムニバス・メディア
	臨床研究の計画法	1④		1		○			4	1						オムニバス・共同 (一部)
	解剖生理病態学序論	1③		1		○			3	1						
	解剖生理病態学特論	1④		1		○			2	2						
	病態薬理学序論	1①		1		○			1			2				
	病態薬理学特論	1②		1		○			1			2				
	心身健康科学	1①		1		○			2						兼1	オムニバス
	日本語・日本文化	1・2①②③④			2	○									兼1	外国人留学生限定
小計 (8科目)		1	6	2	—			16	3	0	2	0	兼2			
先端医学プログラム科目	基礎臨床医学概論	1①	1			○			7	5	2					オムニバス・メディア
	社会医学序論	1①	1			○			3	1						
	社会医学特論	1②	1			○			3	1						
	生体防御医学序論	1③		1		○			2	2						
	生体防御医学特論	1④		1		○			2	2						
	分子ゲノム医学序論	1①		1		○			2	3		1				オムニバス・メディア
	分子ゲノム医学特論	1②		1		○			2	3		1				オムニバス・メディア
	中枢神経遺伝子工学序論	1①		1		○			1	2						オムニバス・メディア
	細胞内シグナル伝達系序論	1②		1		○			1	2						オムニバス・メディア
	中枢神経薬理学序論	1③		1		○			2	1						オムニバス・メディア
臨床行動科学序論	1①		1		○			3	1	1						

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
先端医学科学プログラム科目	臨床行動科学特論	1②		1		○			3	1	1				オムニバス・メディア オムニバス・メディア
	病態検査医学序論	1③		1		○				1					
	病態検査医学特論	1④		1		○			2		1				
	感覚・運動・脳病態学序論	1③		1		○			5	3	2				
	感覚・運動・脳病態学特論	1④		1		○			5	3	2				
	東洋医学序論	1③		1		○			1						
	東洋医学特論	1④		1		○			3	2	1				
	高度先進医療実践学序論	1③		1		○			6	1					
	高度先進医療実践学特論	1④		1		○			9	1					
	救急蘇生学序論	1①		1		○			1						
	救急蘇生学特論	1②		1		○			1						
	災害危機管理学序論	1①		1		○			1						
	災害危機管理学特論	1②		1		○			1						
	先端医学科学特別研究	1～2通	10					○	42	24	10	19			
	小計 (25科目)	—		13	21	0	—			42	24	10	19	0	
看護科学プログラム科目	A 群 共通科目														オムニバス 兼1 共同 (一部)
	看護研究	1①②		2		○			1	3					
	看護倫理	1①②		2		○			1						
	コンサルテーション論	1③④		2		○			1						
	看護管理論	1③④		2		○			1	1					
	看護教育論	1③④		2		○			1	1					
	看護理論	1③④		2		○			1	1					
	看護政策論	1③④		2		○			1						
小計 (7科目)	—	0	14	0	—			5	5	0	0	0	兼1		
B 群 共通科目	病態生理学	1①②		2		○			3	1					オムニバス オムニバス 兼1 兼1
	臨床薬理学	1③④		2		○			1	1					
	フィジカルアセスメント	1①		2		○				2					
	臨床推論 I	1①		2		○				1					
	救急看護演習	1①		1			○			1					
	健康生活研究計画法	1③		1		○				1					
	小計 (6科目)	—	0	10	0	—			4	4	0	0	0	兼2	
研究者コース	看護ケアサイエンス学特論 I	1①②		2		○			4	4					オムニバス オムニバス 共同 (一部)
	看護ケアサイエンス学特論 II	1①②		2		○			1						
	看護ケアサイエンス学演習 I	1③④		4			○		4	4					
	看護ケアサイエンス学演習 II	1③④		4			○		1						
	看護ケアサイエンス学特別研究	2通		8				○	6	5					
	成人看護学特論	1①②		2		○			2						
小計 (6科目)	—	0	22	0	—			6	5	0	0	0			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
看護科学プログラム科目	研究者コース 母子看護学	母性看護学特論Ⅰ	1①②	2		○			1	2					オムニバス
		母性看護学特論Ⅱ	1①②	2		○			1	3					オムニバス
		小児看護学特論Ⅰ	1①②	2		○			1	1					オムニバス
		小児看護学特論Ⅱ	1③④	2		○				1					
		母子看護学演習	1～2通	4			○		1	3					共同
		母子看護学特別研究	2通	8				○	1	3					
	小計(6科目)	—	0	20	0	—		1	3	0	0	0			
	地域・老年看護学	地域・老年看護学特論Ⅰ	1①②	2		○			1		1				
		地域・老年看護学特論Ⅱ	1通	2		○				1					
		地域・老年看護学演習Ⅰ	1通	4			○		1		1				
		地域・老年看護学演習Ⅱ	1通	4			○			1					
		地域・老年看護学特別研究	2通	8				○	1	1	1				
	小計(5科目)	—	0	20	0	—		1	1	1	0	0			
	CNSコース がん看護学分野 がん看護	がん看護学特論Ⅰ(病態生理)	1①②	2		○			3	1					オムニバス
		がん看護学特論Ⅱ(援助論)	1①②	2		○			2						
がん看護学特論Ⅲ(がんリハビリテーション看護論)		1①②	2		○			2							
がん看護実践演習Ⅰ(診断～手術後までの患者のリハビリテーション)		1通	2			○		2	2						
がん看護実践演習Ⅱ(薬物療法・放射線療法をうける患者のリハビリテーション)		1通	2			○		2	2						
がん看護実践演習Ⅲ(緩和ケア・在宅療養中の患者のリハビリテーション)		1通	2			○		2	2					オムニバス	
がん看護学実習Ⅰ		1④～2通	6				○	2	2					共同	
がん看護学実習Ⅱ		1④～2通	4				○	2	2					共同	
がん看護実践特別研究		1～2通	8				○	2							
小計(9科目)		—	0	30	0	—		3	2	0	0	0			
母子看護学分野 母性看護	母性看護学特論Ⅲ	1①②	2		○			1	2					オムニバス	
	周産期看護実践演習Ⅰ	1①②	2			○		1	2						
	周産期看護実践演習Ⅱ	1③④	2			○		1	2						
	周産期看護実践演習Ⅲ	1③④	2			○		1	2						
	周産期看護実践演習Ⅳ	1③④	2			○		1	1						
	周産期看護実習Ⅰ	1～2通	4				○	1	2					共同	
	周産期看護実習Ⅱ	1～2通	4				○	1	2					共同	
	周産期看護実習Ⅲ	1～2通	2				○	1	3					共同	
小計(8科目)	—	0	20	0	—		1	3	0	0	0				
NPコース NP基礎科目	臨床推論Ⅱ	1②	2		○			1	2					オムニバス	
	フィジカルアセスメント特論	1②	2		○			1	1						
	疾病・臨床病態概論	1③④	4		○			1						兼1	
	アドバンスプラクティス基礎特論	1①	2		○			2	1					オムニバス	
	アドバンスプラクティス基礎実習Ⅰ	1①②	1				○	3	1					共同(一部)	
	アドバンスプラクティス基礎実習Ⅱ	1②③	1				○	1	1						
	医療安全学	1③	1		○			1							
小計(7科目)	—	0	13	0	—		3	6	0	0	0		兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
看護科学プログラム科目	NPコース NP専門科目	アドバンスプラクティス特論Ⅰ	1④～2通	6		○			2	1					オムニバス	
		アドバンスプラクティス特論Ⅱ	1④～2通	4		○			1						兼2 オムニバス	
		アドバンスプラクティス特論Ⅲ	1④～2通	1		○				3					オムニバス	
		アドバンスプラクティス演習Ⅰ	1④～2通	3			○		2	1					オムニバス	
		アドバンスプラクティス演習Ⅱ	1④～2通	1			○		1	1					兼2 オムニバス	
		アドバンスプラクティス演習Ⅲ	1④～2通	1			○		1	1					オムニバス	
		アドバンスプラクティス実習Ⅰ	1④～2通	6					3	1					兼1 オムニバス	
		アドバンスプラクティス実習Ⅱ	1④～2通	3					5	1					兼2 オムニバス	
		アドバンスプラクティス実習Ⅲ	1④～2通	1					1						オムニバス	
		アドバンスプラクティス総合実習	2③④	6					4	1					兼3 オムニバス	
	アドバンスプラクティス実践課題研究	2③④	3					3						オムニバス		
	小計 (11科目)	—	0	35	0	—			8	4	0	0	0	兼4		
	NP特別科目	プライマリ・ケア特論	1④	2		○			1	1					兼2	
		クリティカル・ケア特論	1④	2		○			1							
小計 (2科目)		—	0	4	0	—			2	1	0	0	0	兼2		
基礎薬学プログラム科目	プログラム専門科目(序論)	薬学経済序論	1①	1		○			5						兼1 オムニバス	
		分子化学序論	1③	1		○			1	1						
		生物物理学序論	1③	1		○			3	3					オムニバス	
		薬理薬剤学序論	1②	1		○			6						オムニバス	
		分子細胞生物学序論	1①	1		○			2	2					オムニバス	
		応用天然物化学序論	1③	1		○				2	1				兼1	
		応用和漢医薬学序論	1③	1		○			3	2					オムニバス	
	小計 (7科目)	—	1	6	0	—			17	10	1	0	0	兼2		
プログラム専門科目(特論)	分子化学特論	1④	1		○			1	1							
	分子設計学特論	1④	1		○			1	1							
	生物物理学特論	1④	1		○			3	3					オムニバス		
	薬理学特論	2①	1		○			4	1	1				オムニバス		
	薬物動態学特論	2①	1		○			4						オムニバス		
	分子生理学特論	1③	1		○			1	1							
	遺伝子応用分析学特論	2②	1		○			2	3					オムニバス		
	分子細胞生物学特論	2②	1		○			2	2					オムニバス		
	応用天然物化学特論	2②	1		○				2	1				兼1		
小計 (9科目)	—	0	9	0	—			17	13	2	0	0	兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
基礎薬学プログラム科目	薬剤学演習	1～2通		2			○		1						
	応用薬理学演習	1～2通		2			○		1						
	生体認識化学演習	1～2通		2			○		1						
	がん細胞生物学演習	1～2通		2			○		1						
	薬化学演習	1～2通		2			○			1					
	薬品製造学演習	1～2通		2			○		1						
	分子神経生物学演習	1～2通		2			○			1					
	遺伝情報制御学演習	1～2通		2			○			1					
	分子細胞機能学演習	1～2通		2			○		1						
	薬用生物資源学演習	1～2通		2			○				1				
	分子合成化学演習	1～2通		2			○		1						
	生体界面化学演習	1～2通		2			○		1						
	構造生物学演習	1～2通		2			○		1						
	薬物生理学演習	1～2通		2			○		1						
	医療薬学演習	1～2通		2			○		1						
	植物機能科学演習	1～2通		2			○				1				
	病態制御薬理学演習	1～2通		2			○		1						
	医薬品安全性学演習	1～2通		2			○		2						
	薬物治療学演習	1～2通		2			○		1						
	実践薬学演習	1～2通		2			○		1						
	臨床薬品作用学演習	1～2通		2			○		1						
	臨床薬剤学演習	1～2通		2			○		1						
	製剤設計学演習	1～2通		2			○		1	1					
	資源科学演習	1～2通		2			○		1	1					
	天然物創薬学演習	1～2通		2			○		1						
	神経機能学演習	1～2通		2			○		1						
	生体防御学演習	1～2通		2			○		1						
	複雑系解析学演習	1～2通		2			○		1						
	未病学演習	1～2通		2			○		1						
	漢方診断学演習	1～2通		2			○		1						
	生物学演習	1～2通		2			○			1					
	ゲノム機能解析演習	1～2通		2			○		1						
	薬科学特別研究	1～2通		10				○	26	21	2				
	小計 (33科目)	—	10	64	0	—		26	21	2	0	0			
合計 (159科目)		—	27	302	2	—		77	55	13	19	0	兼41		

学位又は称号	修士(医科学) 修士(看護学) 修士(薬科学)	学位又は学科の分野	医学関係, 薬学関係, 保健衛生学関係	
卒業要件及び履修方法			授業期間等	
<p>(修了要件) 2年以上在学し, 学位プログラムごとに定める修了の要件として必要な授業科目の履修により所定の単位を修得し, かつ, 必要な研究指導を受けた上, 修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし, 在学期間に関しては, 優れた業績を上げた者については1年以上在学すれば足りるものとする。</p> <p>(履修方法)</p> <p>■先端医科学プログラム (M) 次の履修方法により30単位以上を修得すること。 ・大学院共通科目から必修2単位を含む4単位以上 ・研究科共通科目から必修1単位を含む4単位以上 ・先端医科学プログラムのプログラム専門科目から必修13単位を含む22単位以上</p> <p>■看護科学プログラム (M) 次の履修方法によりそれぞれ指定された単位を修得すること。</p> <p><各コース共通> ・大学院共通科目から必修2単位を含む4単位以上 ・研究科共通科目から必修1単位を含む4単位以上(ナースプラクティショナー(NP)コースは「総合医薬学」必修1単位に加え, 「解剖生理病態学序論」1単位, 「解剖生理病態学特論」1単位, 「病態薬理学序論」1単位及び「病態薬理学特論」1単位の計5単位を必修とする。)</p> <p><研究者コース> ・看護科学プログラムのプログラム共通科目(A群共通科目「看護研究」2単位, 「コンサルテーション論」2単位, 「看護管理論」2単位, 「看護理論」2単位・B群共通科目「臨床薬理学」2単位, 「フィジカルアセスメント」2単位, 「臨床推論Ⅰ」2単位, 「救急看護演習」1単位及び「健康生活研究計画法」1単位)から8単位以上</p> <p>〔看護ケアサイエンス学を選択した場合〕 ・「『看護ケアサイエンス学特論Ⅰ』2単位, 『看護ケアサイエンス学演習Ⅰ』4単位及び『看護ケアサイエンス学特別研究』8単位」, 「『看護ケアサイエンス学特論Ⅱ』2単位, 『看護ケアサイエンス学演習Ⅱ』4単位及び『看護ケアサイエンス学特別研究』8単位」のいずれかを選択必修とする。 〔母子看護学を選択した場合〕 ・「『母性看護学特論Ⅰ』2単位, 『母性看護学特論Ⅱ』2単位, 『母子看護学演習』4単位及び『母子看護学特別研究』8単位」, 「『小児看護学特論Ⅰ』2単位, 『小児看護学特論Ⅱ』2単位, 『母子看護学演習』4単位及び『母子看護学特別研究』8単位」のいずれかを選択必修とする。 〔地域・老年看護学を選択した場合〕 ・「『地域・老年看護学特論Ⅰ』2単位, 『地域・老年看護学演習Ⅰ』4単位及び『地域・老年看護学特別研究』8単位」, 「『地域・老年看護学特論Ⅱ』2単位, 『地域・老年看護学演習Ⅱ』4単位及び『地域・老年看護学特別研究』8単位」のいずれかを選択必修とする。</p> <p><CNSコース> ・看護科学プログラムのプログラム共通科目:A群共通科目から8単位以上, B群共通科目から「病態生理学」2単位, 「臨床薬理学」2単位及び「フィジカルアセスメント」2単位必修。 〔がん看護CNSコースの場合〕 ・研究者コースの看護ケアサイエンス学の「成人看護学特論」2単位及びCNSコースのがん看護学分野がん看護の全科目30単位を必修 〔母性看護CNSコースの場合〕 ・研究者コースの母子看護学の「母性看護学特論Ⅰ」2単位, 「母性看護学特論Ⅱ」2単位, 「母子看護学特別研究」8単位及びCNSコースの母子看護学分野母性看護の全科目20単位を必修</p>			1 学年の学期区分	4 ターム
			1 学期の授業期間	8 週
			1 時限の授業時間	9 0 分

〈NPコース〉

- ・看護科学プログラムのプログラム共通科目のA群共通科目の「看護研究」2単位、「看護倫理」2単位及び「看護政策論」2単位必修
- ・看護科学プログラムのプログラム共通科目のB群共通科目の「病態生理学」2単位、「臨床薬理学」2単位、「フィジカルアセスメント」2単位及び「臨床推論Ⅰ」2単位必修
- ・NPコースのNP基礎科目の全科目13単位必修
- ・NPコースのNP専門科目の「アドバンスプラクティース特論Ⅰ」6単位、「アドバンスプラクティース演習Ⅰ」3単位、「アドバンスプラクティース実習Ⅰ」6単位、「アドバンスプラクティース総合実習」6単位及び「アドバンスプラクティース実践課題研究」3単位必修

〔NP急性期領域の場合〕

- ・看護科学プログラムのプログラム共通科目のB群共通科目の「救急看護演習」1単位必修
- ・NPコースのNP専門科目の「アドバンスプラクティース特論Ⅱ」4単位、「アドバンスプラクティース演習Ⅱ」1単位、「アドバンスプラクティース実習Ⅱ」3単位必修
- ・NPコースのNP特別科目のクリティカル・ケア特論の2単位必修

〔NP慢性期領域の場合〕

- ・看護科学プログラムのプログラム共通科目のB群共通科目の「健康生活研究計画法」1単位必修
- ・NPコースのNP専門科目の「アドバンスプラクティース特論Ⅲ」1単位、「アドバンスプラクティース演習Ⅲ」1単位、「アドバンスプラクティース実習Ⅲ」1単位必修
- ・NPコースのNP特別科目のプライマリ・ケア特論2単位必修

■基礎薬学プログラム (M)

次の履修方法により30単位以上を修得すること。

- ・大学院共通科目から必修2単位を含む4単位
- ・研究科共通科目から必修1単位を含む4単位
- ・基礎薬学プログラムのプログラム専門科目（序論）から必修1単位を含む4単位
- ・基礎薬学プログラムのプログラム専門科目（特論）から4単位
- ・大学院共通科目，研究科共通科目，基礎薬学プログラムのプログラム専門科目（序論）及び基礎薬学プログラムのプログラム専門科目（特論）から2単位以上
- ・基礎薬学プログラムのプログラム専門科目（演習・特別研究）から必修10単位を含む12単位

教 育 課 程 等 の 概 要															
(医学部医学科) 【基礎となる学部】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	人文科学系	哲学のすすめ	1前・後	2		○									兼1
		人間と倫理	1前・後	2		○									兼1
		こころの科学	1前・後	2		○									兼1
		現代と教育	1前・後	2		○									兼1
		日本の歴史と社会	1前・後	2		○									兼1 地域志向科目
		東洋の歴史と社会	1前・後	2		○									兼1
		西洋の歴史と社会	1前・後	2		○									兼1
		日本文学	1前・後	2		○									兼1
		外国文学	1前・後	2		○									兼1
		言語と文化	1前・後	2		○									兼1 地域志向科目
		音楽	1前・後	2		○									兼1
		美術	1前・後	2		○									兼1
		美術表現A	1前・後	2		○									兼1
		美術表現B	1前・後	2		○									兼1
		言語表現	1前・後	2		○									兼1
		治療の文化史	1前・後	2		○									兼1
		異文化間コミュニケーション	1前・後	2		○									兼1
異文化理解	1前・後	2		○									兼1 外国人留学生限定		
	小計(18科目)	-	0	36	0				0	0	0	0	0	兼18	
社会科学系		現代社会論	1前・後	2		○									兼1 地域志向科目
		日本国憲法	1前・後	2		○									兼1
		国家と市民	1前・後	2		○									兼1
		経済生活と法	1前・後	2		○									兼1
		市民生活と法	1前・後	2		○									兼1
		はじめての経済学	1前・後	2		○									兼1
		産業と経済を学ぶ	1前・後	2		○									兼1
		経営資源のとらえ方	1前・後	2		○									兼1
		市場と企業の関係	1前・後	2		○									兼1
		地域の経済と社会・文化	1前・後	2		○									兼1 地域志向科目
	小計(10科目)	-	0	20	0				0	0	0	0	0	兼10	
自然科学系		自然科学への扉-A	1前・後		2	○									兼1
		自然科学への扉-B	1前・後		2	○									兼1
		自然科学への扉-C	1前・後		2	○									兼1
		科学技術への扉-A	1前・後		2	○									兼1
		科学技術への扉-B	1前・後		2	○									兼1
		生命の世界	1前・後		2	○				1					
		社会と情報の数理	1前・後		2	○									兼1
		デザインと生物	1前・後		2	○									兼1
	小計(8科目)	-	0	0	16				0	1	0	0	0	兼7	
理系基盤教育系		生命科学I-A	1前	2		○									兼1
		生命科学II-A	1後	2		○									兼1
		生物学実験-A	1後	1					○						兼1
		解析学-A	1前	2		○									兼1
		線形代数学	1後	2		○									兼1
		物理学I-A	1前	2		○									兼1
		物理学I-B	1前	2		○									兼1
		物理学II-A	1後	2		○									兼1
		物理学II-B	1後	2		○									兼1
		化学・物理学実験-A	1前	1											兼1
		現代物理学入門	1後	2		○									兼1
		基礎化学-A	1前	2		○									兼1
		生体有機化学	1後	2		○									兼1
		生物無機化学入門	1後	2		○									兼1
	小計(14科目)	-	12	14	0				0	0	0	0	0	兼6	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	医療・健康科学系	医療心理学	1前・後		2	○			1						兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1 兼1	地域志向科目
		概説医療心理学	1前・後	1		○			1							
		認知科学	1前・後		2	○				1						
		脳科学入門	1前・後		2	○										
		生命科学入門	1前・後		2	○										
		免疫学入門	1前・後		2	○										
		身近な医学	1前・後		2	○				1						
		障害とアクセシビリティ	1前・後		2	○										
		医療と地域社会	1前・後		2	○										
	小計(9科目)	-	1	14	2	-	-	-	2	0	0	0	0	0	兼5	-
	総合科目系	環境	1前・後		2	○									兼1	地域志向科目
		ジェンダー	1前・後		2	○									兼1	
		技術と社会	1前・後		2	○									兼1	
		現代文化	1前・後		2	○									兼1	地域志向科目
		人権と福祉	1前・後		2	○									兼1	地域志向科目
		環日本海	1前・後		2	○									兼1	地域志向科目
		科学と社会	1前・後		2	○									兼1	
		アカデミック・デザイン	1前・後		2	○									兼1	地域志向科目
		ビジネス思考	1前・後		2	○									兼1	地域志向科目
データサイエンスの世界		1前・後		1	○									兼1		
データサイエンスの実践		1前・後		1	○									兼1		
教養としての都市デザイン学		1前・後		2	○									兼1	地域志向科目	
SDGs入門		1前・後		2	○									兼1		
薬都とやま学		1前・後		2	○									兼1	地域志向科目	
平和学入門		1前・後		2	○									兼1		
東アジア共同体論-政治・経済・文化-		1前・後		2	○									兼1		
富山から考える震災・復興学		1前・後		2	○									兼1		
環境と安全管理		1前・後		2	○									兼1		
万葉学		1前・後		2	○									兼1	地域志向科目	
日本海学		1前・後		2	○									兼1	地域志向科目	
富山大学学		1前・後		2	○									兼1	地域志向科目	
とやま地域学		1前・後		2	○									兼1	地域志向科目	
時事的問題		1前・後		2	○									兼1	集中	
災害救援ボランティア論		1前・後		2	○									兼1	集中 地域志向科目	
感性をはぐくむ		1前・後		2	○									兼1		
日本事情／芸術文化		1前・後		2	○									兼1	外国人留学生限定	
日本事情／自然社会		1前・後		2	○									兼1	外国人留学生限定	
学士力・人間力基礎		1前・後		2	○									兼1		
富山学		1前・後		2	○									兼1	集中 地域志向科目	
地域ライフプラン		1前・後		2	○									兼1	地域志向科目	
産業観光学		1前・後		2	○									兼1	地域志向科目	
富山のものづくり概論		1前・後		2	○									兼1	地域志向科目	
富山の地域づくり		1前・後		2	○									兼1	地域志向科目	
小計(33科目)	-	0	64	0	-	-	-	0	0	0	0	0	0	兼28	-	
外国語系	E S P I (Level-based)	1前	1			○								兼1		
	E S P II (Interest-based)	1後	1			○								兼1		
	基盤英語 I	1前	1			○								兼1		
	基盤英語 II	1後	1			○								兼1		
	ドイツ語基礎 I	1前		1		○								兼1		
	ドイツ語基礎 II	1後		1		○								兼1		
	ドイツ語コミュニケーション I	1前		1		○								兼1		
	ドイツ語コミュニケーション II	1後		1		○								兼1		
	フランス語基礎 I	1前		1		○								兼1		
	フランス語基礎 II	1後		1		○								兼1		
	フランス語コミュニケーション I	1前		1		○								兼1		
フランス語コミュニケーション II	1後		1		○								兼1			
中国語基礎 I	1前		1		○								兼1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	外国語系	中国語基礎Ⅱ	1後	1				○								兼1
		中国語コミュニケーションⅠ	1前	1				○								兼1
		中国語コミュニケーションⅡ	1後	1					○							兼1
		朝鮮語基礎Ⅰ	1前	1					○							兼1
		朝鮮語基礎Ⅱ	1後	1					○							兼1
		朝鮮語コミュニケーションⅠ	1前	1					○							兼1
		朝鮮語コミュニケーションⅡ	1後	1					○							兼1
		ロシア語基礎Ⅰ	1前	1					○							兼1
		ロシア語基礎Ⅱ	1後	1					○							兼1
		ロシア語コミュニケーションⅠ	1前	1					○							兼1
		ロシア語コミュニケーションⅡ	1後	1					○							兼1
		日本語リテラシーⅠ	1前	1					○							兼1
		日本語リテラシーⅡ	1後	1					○							兼1
		日本語コミュニケーションⅠ	1前	1					○							兼1
	日本語コミュニケーションⅡ	1後	1					○							兼1	
	発展多言語演習ドイツ語	2前	1					○							兼1	
	発展多言語演習中国語	2前	1					○							兼1	
	日本語コミュニケーションⅢ	2前			1			○							兼1	
	日本語／専門研究	2前			1			○							兼1	
	小計(32科目)		-	4	26	2			-		0	0	0	0	0	兼24
体育・健康系	健康・スポーツ／講義	1後		1			○								兼1	
	健康・スポーツ／実技	1前	1						○						兼1	
	小計(2科目)		-	1	1	0			-	0	0	0	0	0	兼2	
情報系	情報処理	1前	2					○							兼1	
	応用情報処理	1後			2			○							兼1	
	小計(2科目)		-	2	0	2			-	0	0	0	0	0	兼2	
専門教育科目	語学	医学英語Ⅰ	2前	1				○			1					
		医学英語Ⅱ	3後	1					○		1					
		医学英語Ⅲ	4前	1					○		1					
	基本的な資質・能力	医学概論	1後	1					○			4				兼1
		医療学入門	1前	1					○		※	2				兼4
		生命倫理学	3後	1					○							兼1
		医療の質と安全の管理	4前	1					○			1				
		コミュニケーションとチーム医療	4前	1					○			1				
		医学薬学史	4後	1					○			1				
	医療プロフェッショナルリズム	4後・6前	1					○			6					
小計(10科目)		-	10	0	0			-		11	1	0	0	0	兼5	
医学一般	個体の構成と機能	ヒトの構造の基礎	1後	1				○			2			2		
		解剖学および解剖学実習	2前	5				※		○	1					※講義
		組織学	2前	2					○		1		2			
		人体発生学	2前	1					○							兼1
		医科分子生物学	2前	3					○		※	2	1			※実験
		生理学	2前	3					○			2	1	3		兼1
		生理学実習	2前	1						○		2	1	3		
		基礎医学統合	2前	1					○			2				
	個体の反応	微生物学	2後	3					○			2				
		免疫学	2後	3					○			1				
		薬理学	2後	3					○			1				
	病態と	病理学	2後	3					○			1	1	3		兼1
		と人の行動	行動科学	1後	1				○			1				
小計(13科目)		-	30	0	0			-		11	4	0	8	0	兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門教育科目	社会と医学・医療	診療情報・臨床研究と医療	3後	1			○			1			1			
		疫学	3後	1			○			1						
		環境保健学	3後	1			○			1						
		法医学	4前	2			○			1						
		救急・災害医学	3後	1			○			1						
		社会医学実習	4前	1			○			2	1	1	2			
		富山医療学	3後	1			○			1						
		医学統計	4前	1			○			2	1	1	1			
	小計(8科目)	—	9	0	0	—			5	1	1	3	0		—	
	療人体の各器官の正常構造と機能・病態・診断・治療	血液・造血器・リンパ系	3前	3			○			1		2	1			
		皮膚系	3前	2			○			1						
		呼吸器系	3前	3			○			1	1					
		内分泌・栄養・代謝・乳房	3前	3			○			2		1				
		眼・視覚系	3前	1			○			1						
		耳鼻咽喉系	3前	2			○					1				
		運動器(筋骨格)系	3前	3			○			1		1				
循環器系		3前	3			○			2							
消化器疾患		3後	3			○			2	1						
腎・尿路系疾患		3後	2			○			1		1					
生殖系		3後	2			○			2			1				
口腔系		3前	1			○			1	1						
精神系		3前	2			○			1	1						
神経系		4前	3			○			2			1				
妊娠と分娩		4前	1			○			1			1				
神経・脳科学		4後	2			○			3							
小計(16科目)	—	36	0	0	—			16	4	5	4	0		—		
診断・治療	全身におよぶ生理的変化・病態・	和漢医薬学入門	2前	1			○		※	1					兼25	
		放射線基礎医学	2後	1			○			1	1				オムニバス ※実験	
		成長と発達	3前	1			○				1					
		和漢診療学	3前	1			○			1						
		免疫・アレルギー疾患	3後	2			○			1		1				
		遺伝医学	3後	1			○				1					
		臨床腫瘍	3後	1			○			1						
		感染症	4前	2			○			1						
		老年医学	4前	1			○			1						
		臨床医学統合	3後・4後	2					○	1						
小計(10科目)	—	13	0	0	—			6	3	1	0	0	兼25	—		
診療の基本		外科学総論	3前	1			○			2		2				
		臨床検査医学	3前	1			○				1	1				
		放射線医学	3後	2			○			1						
		医用工学	3後	1			○			1						
		リハビリ医学	3後	1			○			1						
		形成再建・美容系	3通	1			○			1						
		周術期管理学	4前	1			○				1					
		緩和医療	4前	1			○			1						
		臨床薬理・EBMと医療	4前	1			○			1						
		症候・病態からのアプローチ	4前	2			○				1				兼1	
		基本的診療技能	4前	2					○	1						
小計(11科目)	—	14	0	0	—			9	3	3	0	0	兼1	—		
臨床実習	学内	第一内科	4通～6通	2					○	1						
		第二内科	4通～6通	2					○	1						
		第三内科	4通～6通	2					○	1						
		血液内科	4通～6通	1					○	1						
		皮膚科	4通～6通	1					○	1						
		小児科	4通～6通	2					○		1					
		神経精神科	4通～6通	2					○	1						

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
専門 教育 科目	臨 床 実 習 学 内	放射線科	4通～6通	1					○	1						
		検査部	4通～6通	1					○		1	1				
		和漢診療科	4通～6通	1					○	1						
		脳神経内科	4通～6通	2					○	1			1			
		総合診療科	4通～6通	2					○		1					
		第一外科	4通～6通	2					○	1						
		第二外科	4通～6通	2					○	1		1				
		脳神経外科	4通～6通	2					○	1						
		整形外科	4通～6通	2					○	1		1				
		産科婦人科	4通～6通	2					○	1			1			
		眼科	4通～6通	1					○	1						
		耳鼻咽喉科	4通～6通	2					○	1						
		泌尿器科	4通～6通	1					○	1		1				
		麻酔科	4通～6通	2					○		1					
		歯科口腔外科	4通～6通	1					○	1						
		救急科	4通～6通	2					○	1						
		地域医療	4通～6通	1					○	1						
		感染症科	4通～6通	1					○	1						
		臨床腫瘍部	4通～6通	1					○	1						
		臨床病理部	4通～6通	1					○	1						
		形成再建外科・美容外科	4通～6通	1					○	1						
		リハビリテーション科	4通～6通	1					○	1						
		C P C	4通～6通	4					○	1						
		小計(30科目)		—	48	0	0	—			26	4	4	2	0	—
		1科選 目 択	研究室配属	3前		4				○	42	25	13	60	0	—
			小計(1科目)	—	0	4	0	—			42	25	13	60	0	—
		2科選 目 択	選択制臨床実習	5通～6通		12				○	26	4	4	2	0	—
			小計(1科目)	—	0	12	0	—			26	4	4	2	0	—
		科自 由	基礎研究演習	1通～6通			6			○	42	25	13	60	0	—
			小計(1科目)	—	0	0	6	—			42	25	13	60	0	—
合計(229科目)		—	180	191	28	—			42	25	13	60	0	兼138		
学位又は称号		学士(医学)			学位又は学科の分野			医学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
次の履修方法により212単位以上を履修すること。 ・教養教育科目から必修20単位を含む36単位以上 ・専門教育科目の基本的な資質・能力から10単位、医学一般から30単位、社会と医学・医療から9単位、人体の各器官の正常構造と機能・病態・診断・治療から36単位、全身に及ぶ生理的变化・病態・診断・治療から13単位、診療の基本から14単位、臨床実習から48単位、選択科目1から4単位、選択科目2から12単位								1学年の学期区分		2学期						
								1学期の授業期間		15週						
								1時限の授業時間		90分						

教育課程等の概要															
(医学部看護学科)【基礎となる学部】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	人文科学系	哲学のすすめ	1前・後	2		○									兼1
		人間と倫理	1前・後	2		○									兼1
		こころの科学	1前・後	2		○									兼1
		現代と教育	1前・後	2		○									兼1
		日本の歴史と社会	1前・後	2		○									兼1 地域志向科目
		東洋の歴史と社会	1前・後	2		○									兼1
		西洋の歴史と社会	1前・後	2		○									兼1
		日本文学	1前・後	2		○									兼1
		外国文学	1前・後	2		○									兼1
		言語と文化	1前・後	2		○									兼1 地域志向科目
		音楽	1前・後	2		○									兼1
		美術	1前・後	2		○									兼1
		美術表現A	1前・後	2		○									兼1
		美術表現B	1前・後	2		○									兼1
		言語表現	1前・後	2		○									兼1
		治療の文化史	1前・後	2		○									兼1
		異文化間コミュニケーション	1前・後	2		○									兼1
		異文化理解	1前・後	2		○									兼1 外国人留学生限定
		小計(18科目)	—	0	36	0	—			0	0	0	0	0	0
社会科学系	現代社会論	1前・後		2		○									兼1 地域志向科目
	日本国憲法	1前・後		2		○									兼1
	国家と市民	1前・後		2		○									兼1
	経済生活と法	1前・後		2		○									兼1
	市民生活と法	1前・後		2		○									兼1
	はじめての経済学	1前・後		2		○									兼1
	産業と経済を学ぶ	1前・後		2		○									兼1
	経営資源のとらえ方	1前・後		2		○									兼1
	市場と企業の関係	1前・後		2		○									兼1
	地域の経済と社会・文化	1前・後		2		○									兼1 地域志向科目
	小計(10科目)	—	0	20	0	—			0	0	0	0	0	0	兼10 —
自然科学系	自然科学への扉-A	1前・後		2		○									兼1
	自然科学への扉-B	1前・後		2		○									兼1
	自然科学への扉-C	1前・後		2		○									兼1
	科学技術への扉-A	1前・後		2		○									兼1
	科学技術への扉-B	1前・後		2		○									兼1
	生命の世界	1前・後		2		○									兼1
	社会と情報の数理	1前・後		2		○									兼1
	デザインと生物	1前・後		2		○									兼1
	小計(8科目)	—	0	16	0	—			0	0	0	0	0	0	兼8 —
理系基盤教育系	生命科学 I-C	1前	2			○									兼1
	生命科学 II-C	1後	2			○									兼1
	線形代数学	1後	2			○									兼1
	現代物理学入門	1後	2			○									兼1
	生物無機化学入門	1後	2			○									兼1
	小計(5科目)	-	4	6	0	—			0	0	0	0	0	0	兼4

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養 教育科目	医療心理学	1前・後		2		○									兼1
	概説医療心理学	1前・後		1		○									兼1
	認知科学	1前・後		2		○									兼1
	脳科学入門	1前・後		2		○									兼1
	生命科学入門	1前・後		2		○									兼1
	免疫学入門	1前・後		2		○									兼1
	身近な医学	1前・後	2			○									兼1
	障害とアクセシビリティ	1前・後		2		○									兼1
	医療と地域社会	1前・後		2		○									兼1 地域志向科目
	小計 (9科目)	—		2	15	0	—			0	0	0	0	0	兼7
総合 科目系	環境	1前・後		2		○									兼1 地域志向科目
	ジェンダー	1前・後		2		○									兼1
	技術と社会	1前・後		2		○									兼1
	現代文化	1前・後		2		○									兼1 地域志向科目
	人権と福祉	1前・後		2		○									兼1 地域志向科目
	環日本海	1前・後		2		○									兼1 地域志向科目
	科学と社会	1前・後		2		○									兼1
	アカデミック・デザイン	1前・後		2		○									兼1 地域志向科目
	ビジネス思考	1前・後		2		○									兼1 地域志向科目
	データサイエンスの世界	1前・後		1		○									兼1
	データサイエンスの実践	1前・後		1		○									兼1
	教養としての都市デザイン学	1前・後		2		○									兼1 地域志向科目
	SDGs入門	1前・後		2		○									兼1
	薬都とやま学	1前・後		2		○									兼1 地域志向科目
	平和学入門	1前・後		2		○									兼1
	東アジア共同体論-政治・経済・文化-	1前・後		2		○									兼1
	富山から考える震災・復興学	1前・後		2		○									兼1
	環境と安全管理	1前・後		2		○									兼1
	万葉学	1前・後		2		○									兼1 地域志向科目
	日本海学	1前・後		2		○									兼1 地域志向科目
	富山大学学	1前・後		2		○									兼1 地域志向科目
	とやま地域学	1前・後		2		○									兼1 兼中 地域志向科目
	時事的問題	1前・後		2		○									兼1 集中
	災害救援ボランティア論	1前・後		2		○									兼1 兼中 地域志向科目
	感性をはぐくむ	1前・後		2		○									兼1
	日本事情／芸術文化	1前・後		2		○									兼1 外国人留学生限定
	日本事情／自然社会	1前・後		2		○									兼1 外国人留学生限定
	学士力・人間力基礎	1前・後		2		○									兼1
	富山学	1前・後		2		○									兼1 兼中 地域志向科目
	地域ライフプラン	1前・後		2		○									兼1 地域志向科目
	産業観光学	1前・後		2		○									兼1 地域志向科目
	富山のものづくり概論	1前・後		2		○									兼1 地域志向科目
	富山の地域づくり	1前・後		2		○									兼1 地域志向科目
小計 (33科目)	—		0	64	0	—			0	0	0	0	0	兼28	—
外国 語系	ESP I (Level-based)	1前	1					○							兼1
	ESP II (Interest-based)	1後	1					○							兼1
	基盤英語 I	1前	1					○							兼1
	基盤英語 II	1後	1					○							兼1
	ドイツ語基礎 I	1前		1				○							兼1
	ドイツ語基礎 II	1後		1				○							兼1
	ドイツ語コミュニケーション I	1前		1				○							兼1
	ドイツ語コミュニケーション II	1後		1				○							兼1
フランス語基礎 I	1前		1				○							兼1	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養 教育科目	外国語系	フランス語基礎Ⅱ	1後	1			○								兼1	
	フランス語コミュニケーションⅠ	1前		1			○								兼1	
	フランス語コミュニケーションⅡ	1後		1			○								兼1	
	中国語基礎Ⅰ	1前		1			○								兼1	
	中国語基礎Ⅱ	1後		1			○								兼1	
	中国語コミュニケーションⅠ	1前		1			○								兼1	
	中国語コミュニケーションⅡ	1後		1			○								兼1	
	朝鮮語基礎Ⅰ	1前		1			○								兼1	
	朝鮮語基礎Ⅱ	1後		1			○								兼1	
	朝鮮語コミュニケーションⅠ	1前		1			○								兼1	
	朝鮮語コミュニケーションⅡ	1後		1			○								兼1	
	ロシア語基礎Ⅰ	1前		1			○								兼1	
	ロシア語基礎Ⅱ	1後		1			○								兼1	
	ロシア語コミュニケーションⅠ	1前		1			○								兼1	
	ロシア語コミュニケーションⅡ	1後		1			○								兼1	
	日本語リテラシーⅠ	1前		1			○								兼1	外国人留学生限定
	日本語リテラシーⅡ	1後		1			○								兼1	外国人留学生限定
	日本語コミュニケーションⅠ	1前		1			○								兼1	外国人留学生限定
	日本語コミュニケーションⅡ	1後		1			○								兼1	外国人留学生限定
	発展多言語演習ドイツ語	2前		1			○								兼1	集中
発展多言語演習中国語	2前		1			○								兼1	集中	
日本語コミュニケーションⅢ	2前			1		○								兼1	外国人留学生限定	
日本語／専門研究	2前			1		○								兼1	外国人留学生限定	
小計 (32科目)	—		4	26	2		—			0	0	0	0	0	兼25	—
保健 体育系 情報 処理系	健康・スポーツ／講義	1後		1		○									兼1	
	健康・スポーツ／実技	1前		1				○							兼1	
	小計 (2科目)	—		0	2	0		—		0	0	0	0	0	兼2	—
	情報処理	1前	2					○							兼2	
応用情報処理	1後		2				○							兼1		
小計 (2科目)	—		2	2	0		—		0	0	0	0	0	兼2	—	
看護 基礎 科学	医療学入門	1前	1			○		※		1					兼5	オムニバス ※実習
	和漢医薬学入門	2前	1			○		※			1				兼23	オムニバス ※実験
	生命倫理学	3後	1			○									兼1	
	形態機能学	1後	4			○	※			2	2					※演習
	栄養生化学	2後	1			○				1	1					
	薬理学	2前	2			○									兼1	
	疾病学	2前	2			○				1	1				兼6	
	微生物学	2前	2			○					1					
	感染看護学	3前	1			○					1					
	社会福祉学	2後	1			○				1					兼2	
公衆衛生学	2前	1			○				2					兼2		
疫学	3後	1			○				1	2		2		兼2		
行動科学	2前	2			○				1							
小計 (13科目)	—		20	0	0		—		3	6	0	2	0	兼42	—	
看護 学	看護学原論	1前	2			○				1	1					
	看護対象論	1後	1			○	※			1	1					※演習
	看護方法論Ⅰ	1後	3				○			1	2		1			
	看護方法論Ⅱ	2前	4				○			1	2		1			
	看護方法論Ⅲ	2前	2			○	※			1	1					※演習
	看護管理	3前	1			○	※			1						※演習
	基礎看護学実習	2後	2					○		1	2		1			
	在宅看護論	3後	2			○					1					

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
看護学	在宅看護学実習	4前	1					○		1					
	成人看護学総論	2後	2			○			1	1		1			
	成人・高齢者臨床医学	2後	4			○			3						
	成人看護論Ⅰ	3前	2			○			1	2		3			
	成人看護論Ⅱ	3前	2			○			1			2			
	成人看護論Ⅲ	3後	2			○	※		1	1		1		※演習	
	成人看護論Ⅳ	3後	2			○	※		1	1		1		※演習	
	成人看護学実習(慢性期)	3後～4前	2					○	1	1		1			
	成人看護学実習(周手術期)	3後～4前	3					○	1	1		2			
	老年看護学総論	3前	2			○				1		2			
	老年看護論	3後	3			○				1		2			
	老年看護学実習	3後～4前	3					○		1		2			
	小児臨床医学	2後	2			○							兼1		
	小児看護学総論	2後	2			○				1					
	小児看護論	3前	3			○	※			1		1		※演習	
	小児看護学実習	3後～4前	2					○		1		1			
	母性臨床医学	2前	2			○			1				兼1		
	母性看護学総論	2前	2			○			1						
	母性看護論	2後	3			○	※		1	2		1		※演習	
	母性看護学実習	3後～4前	2					○	1	2		1			
	精神看護学総論	2後	2			○			1			1			
精神臨床医学	3後	1			○							兼2			
精神看護論	3前	2			○	※		1					※演習		
精神看護学実習	3後～4前	2					○	1			1				
地域看護学総論	3前	2			○			1				兼1			
地域看護学方法論Ⅰ	3通	3					○	1		1		兼1			
地域看護学方法論Ⅱ	3通	3			○			1		1		兼1			
ヘルスケアシステム論Ⅰ	3後	2			○			1		1		兼1			
ヘルスケアシステム論Ⅱ	3後	2			○			1		1		兼1			
地域看護学実習	4前	4					○	1		1		兼1			
小計(38科目)		—	86	0	0			—	7	9	1	9	0	兼8	—
探求科目	看護研究入門	3後	1					○	1						
	看護研究	4通	5					○	8	9					
	総合実習	4後	2					○	6	9	1				
	小計(3科目)		—	8	0	0		—	8	9	1	0	0	0	—
自由科目	東洋の知と看護	3後			1	○	※		1	2				※演習	
	助産診断学	3後			3	○	※		1	2		1		※演習	
	助産技術論	4前			3	○	※		1	2		1		※演習	
	助産管理	4後			2	○	※		1	1				※演習	
	助産概論	3後			2	○	※		1	2		1		※演習	
	助産学ゼミナール	3後			2	○	※		1	2		1		※演習	
	助産学実習	4後			11			○	1	2		1			
	形態機能学演習	3前			1			○	1				兼1		
	小計(8科目)		—	0	0	25		—	2	2	0	1	0	兼1	—
合計(181科目)			—	126	187	27		—	8	9	1	9	0	兼15	—
学位又は称号	学士(看護学)		学位又は学科の分野				保健衛生学関係(看護学関係)								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
次の履修方法により144単位以上を履修すること。 ・教養教育科目から必修12単位を含む30単位以上 ・専門教育科目の基礎看護科学から必修20単位、看護学から必修86単位、探求科目から必修8単位							1学年の学期区分		2学期						
							1学期の授業期間		15週						
							1時限の授業時間		90分						

教育課程等の概要																
（薬学部薬学科）【基礎となる学部】																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	哲学のすすめ	1前・後		2		○									兼1	地域志向科目
	人間と倫理	1前・後		2		○									兼1	
	こころの科学	1前・後		2		○									兼1	
	現代と教育	1前・後		2		○									兼1	
	日本の歴史と社会	1前・後		2		○									兼1	
	東洋の歴史と社会	1前・後		2		○									兼1	
	西洋の歴史と社会	1前・後		2		○									兼1	
	日本文学	1前・後		2		○									兼1	
	外国文学	1前・後		2		○									兼1	
	言語と文化	1前・後		2		○									兼1	
	音楽	1前・後		2		○									兼1	
	美術	1前・後		2		○									兼1	
	美術表現A	1前・後		2		○									兼1	
	美術表現B	1前・後		2		○									兼1	
	言語表現	1前・後		2		○									兼1	
	治療の文化史	1前・後		2		○									兼1	
	異文化間コミュニケーション	1前・後		2		○									兼1	
	異文化理解	1前・後		2		○									兼1	
小計（18科目）		—	0	36	0	—			0	0	0	0	0	0	兼18	—
社会科学系	現代社会論	1前・後		2		○									兼1	地域志向科目
	日本国憲法	1前・後		2		○									兼1	
	国家と市民	1前・後		2		○									兼1	
	経済生活と法	1前・後		2		○									兼1	
	市民生活と法	1前・後		2		○									兼1	
	はじめての経済学	1前・後		2		○									兼1	
	産業と経済を学ぶ	1前・後		2		○									兼1	
	経営資源のとらえ方	1前・後		2		○									兼1	
	市場と企業の関係	1前・後		2		○									兼1	
	地域の経済と社会・文化	1前・後		2		○									兼1	
小計（10科目）		—	0	20	0	—			0	0	0	0	0	0	兼10	—
自然科学系	自然科学への扉-A	1前・後			2	○									兼1	
	自然科学への扉-B	1前・後			2	○									兼1	
	自然科学への扉-C	1前・後			2	○									兼1	
	科学技術への扉-A	1前・後			2	○									兼1	
	科学技術への扉-B	1前・後			2	○									兼1	
	生命の世界	1前・後			2	○									兼1	
	社会と情報の数理	1前・後			2	○									兼1	
	デザインと生物	1前・後			2	○									兼1	
小計（8科目）		—	0	0	16	—			0	0	0	0	0	0	兼8	—
理系基盤教育系	生命科学 I-B	1前	2			○									兼1	
	生命科学 II-B	1後	2			○									兼1	
	生物学実験-B	1後	1					○							兼1	
	解析学-B	1前	2			○									兼1	
	線形代数学	1後		2		○									兼1	
	物理学 I-A	1前		2		○									兼1	
	物理学 I-B	1前		2		○									兼1	
	物理学 II-A	1後		2		○									兼1	
	物理学 II-B	1後		2		○									兼1	
	化学・物理学実験-B	1前	1						○						兼1	
	現代物理学入門	1後		2		○									兼1	
	基礎化学-B	1前	2			○									兼1	
	生物無機化学入門	1後		2		○									兼1	
小計（13科目）		—	10	14	0	—			0	0	0	0	0	0	兼6	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	医療心理学	1前・後	2			○									兼1	
	概説医療心理学	1前・後		1		○									兼1	
	認知科学	1前・後		2		○									兼1	
	脳科学入門	1前・後		2		○									兼1	
	生命科学入門	1前・後		2		○									兼1	
	免疫学入門	1前・後		2		○									兼1	
	身近な医学	1前・後		2		○									兼1	
	障害とアクセシビリティ	1前・後		2		○									兼1	
	医療と地域社会	1前・後		2		○									兼1	地域志向科目
	小計 (9科目)		—	2	15	0	—			0	0	0	0	0	0	兼7
総合科目系	環境	1前・後		2		○									兼1	地域志向科目
	ジェンダー	1前・後		2		○									兼1	
	技術と社会	1前・後		2		○									兼1	
	現代文化	1前・後		2		○									兼1	地域志向科目
	人権と福祉	1前・後		2		○									兼1	地域志向科目
	環日本海	1前・後		2		○									兼1	地域志向科目
	科学と社会	1前・後		2		○									兼1	
	アカデミック・デザイン	1前・後		2		○									兼1	地域志向科目
	ビジネス思考	1前・後		2		○									兼1	地域志向科目
	データサイエンスの世界	1前・後		1		○									兼1	
	データサイエンスの実践	1前・後		1		○									兼1	
	教養としての都市デザイン学	1前・後		2		○									兼1	地域志向科目
	SDGs入門	1前・後		2		○									兼1	
	薬都とやま学	1前・後		2		○				1						地域志向科目
	平和学入門	1前・後		2		○									兼1	
	東アジア共同体論-政治・経済・文化-	1前・後		2		○									兼1	
	富山から考える震災・復興学	1前・後		2		○									兼1	
	環境と安全管理	1前・後		2		○									兼1	
	万葉学	1前・後		2		○									兼1	地域志向科目
	日本海学	1前・後		2		○									兼1	地域志向科目
	富山大学学	1前・後		2		○									兼1	地域志向科目
	とやま地域学	1前・後		2		○									兼1	集中 地域志向科目
	時事的問題	1前・後		2		○									兼1	集中
	災害救援ボランティア論	1前・後		2		○									兼1	集中 地域志向科目
	感性をはぐくむ	1前・後		2		○									兼1	
	日本事情／芸術文化	1前・後		2		○									兼1	外国人留学生限定
	日本事情／自然社会	1前・後		2		○									兼1	外国人留学生限定
学士力・人間力基礎	1前・後		2		○									兼1		
富山学	1前・後		2		○									兼1	集中 地域志向科目	
地域ライフブラン	1前・後		2		○									兼1	地域志向科目	
産業観光学	1前・後		2		○									兼1	地域志向科目	
富山のものづくり概論	1前・後		2		○									兼1	地域志向科目	
富山の地域づくり	1前・後		2		○									兼1	地域志向科目	
小計 (33科目)		—	0	64	0	—			1	0	0	0	0	0	兼27	—
外国語系	ESP I (Level-based)	1前	1					○							兼1	
	ESP II (Interest-based)	1後	1					○							兼1	
	基盤英語 I	1前	1					○							兼1	
	基盤英語 II	1後	1					○							兼1	
	ドイツ語基礎 I	1前		1				○							兼1	
	ドイツ語基礎 II	1後		1				○							兼1	
	ドイツ語コミュニケーション I	1前		1				○							兼1	
	ドイツ語コミュニケーション II	1後		1				○							兼1	
	フランス語基礎 I	1前		1				○							兼1	
	フランス語基礎 II	1後		1				○							兼1	
	フランス語コミュニケーション I	1前		1				○							兼1	
	フランス語コミュニケーション II	1後		1				○							兼1	
	中国語基礎 I	1前		1				○							兼1	
中国語基礎 II	1後		1				○							兼1		
中国語コミュニケーション I	1前		1				○							兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教養教育科目	外国語系	中国語コミュニケーションⅡ	1後	1				○								兼1	
		朝鮮語基礎Ⅰ	1前	1				○								兼1	
		朝鮮語基礎Ⅱ	1後	1				○								兼1	
		朝鮮語コミュニケーションⅠ	1前	1				○								兼1	
		朝鮮語コミュニケーションⅡ	1後	1				○								兼1	
		ロシア語基礎Ⅰ	1前	1				○								兼1	
		ロシア語基礎Ⅱ	1後	1				○								兼1	
		ロシア語コミュニケーションⅠ	1前	1				○								兼1	
		ロシア語コミュニケーションⅡ	1後	1				○								兼1	
		日本語リテラシーⅠ	1前	1				○								兼1	外国人留学生限定
		日本語リテラシーⅡ	1後	1				○								兼1	外国人留学生限定
		日本語コミュニケーションⅠ	1前	1				○								兼1	外国人留学生限定
		日本語コミュニケーションⅡ	1後	1				○								兼1	外国人留学生限定
		発展多言語演習ドイツ語	2前	1				○								兼1	集中
		発展多言語演習中国語	2前	1				○								兼1	集中
	日本語コミュニケーションⅢ	2前			1		○								兼1	外国人留学生限定	
	日本語／専門研究	2前			1		○								兼1	外国人留学生限定	
	小計(32科目)	—	4	26	2		—			0	0	0	0	0	兼15	—	
保健体育	健康・スポーツ／講義	1後		1			○									兼1	
	健康・スポーツ／実技	1前	1						○							兼1	
	小計(2科目)	—	1	1	0		—			0	0	0	0	0	兼1	—	
情報処理	情報処理	1前	2					○								兼4	
	応用情報処理	1後			2			○								兼1	
	小計(2科目)	—	2	0	2		—			0	0	0	0	0	兼4	—	
基盤教育	薬学概論	1前	1				○			1						兼6	オムニバス
	医療学入門	1前	1				○		※	1						兼5	オムニバス
	製薬企業概論	1後	1				○			1						兼1	※実習
	行動科学	2前	2				○									兼1	
	薬学英语Ⅰ	2前	1				○			14	8	1	12			兼20	
	薬学英语Ⅱ	2後	1				○			14	8	1	12			兼20	
	統計学	2後	2				○									兼2	
	企業薬剤師育成学	3前	1				○			4	2					兼1	
	専門英語Ⅰ	3前	1				○			14	8	1	12			兼19	
	専門英語Ⅱ	3後	1				○			14	8	1	12			兼32	
	総合薬学演習	3後	1					○		14	8	1	12			兼19	
	薬学経済	4前	2				○			1							
	薬剤師博士論	5通	1				○			2							
	基礎薬科学	6前	1				○			5			3				
小計(14科目)	—	17	0	0		—			14	8	1	12	0	兼41	—		
物理系薬学	物理化学Ⅰ	1後	2				○									兼2	
	物理化学Ⅱ	2前	2				○									兼1	
	分析化学	1後	2				○									兼1	
	生物物理化学	2後	2				○			1	1						
小計(4科目)	—	8	0	0		—			1	1	0	0	0	兼4	—		
化学系薬学	基礎有機化学Ⅰ	1前	2				○									兼1	
	基礎有機化学Ⅱ	1後	2				○				1		1				
	有機化学Ⅰ	2前	2				○			1	1						
	有機化学Ⅱ	2後	2				○									兼1	
小計(4科目)	—	8	0	0		—			1	2	0	1	0	兼2	—		
生物系薬学	生理学	2前	2				○									兼4	
	生化学Ⅰ	2前	2				○				1						
	生化学Ⅱ	2後	2				○			1	1		1				
	細胞生物学	2後	2				○			1						兼2	
	人体機能形態学	2後	2				○			2						兼3	
	微生物学	2前	2				○									兼1	
	免疫学	3後	2				○			1						兼2	
小計(7科目)	—	14	0	0		—			3	1	0	1	0	兼11	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
衛生薬学	放射薬品学	2後	1			○									兼1	
	衛生薬学Ⅰ	3前	1			○									兼1	
	衛生薬学Ⅱ	3後	2			○									兼1	
	衛生薬学Ⅲ	3後	2			○				1					兼1	
	小計(4科目)	—	6	0	0	—			0	1	0	1	0	兼2	—	
和漢薬学	和漢医薬学入門	2前	1			○		※	1						兼24	オムニバス ※実験
	生薬学	2前	2			○									兼2	
	小計(2科目)	—	3	0	0	—			1	0	0	1	0	兼26	—	
医療薬学	生物薬剤学Ⅰ	2後	1			○			1	1						
	生物薬剤学Ⅱ	3前	1			○			1	1						
	薬理学Ⅰ	2後	1			○			1							
	薬理学Ⅱ	3前	1			○			1							
	薬理学Ⅲ	3後	1			○			3							
	医療薬剤学	3後	2			○			1							
	物理薬剤学	3後	2			○			3	1						
	薬物動態学	3後	2			○			1							
	病態薬物治療学Ⅰ	3後	1			○			1			1				
	病態薬物治療学Ⅱ	4前	2			○			2							
	病態薬物治療学Ⅲ	4前	2			○			3	1	1					
	薬事衛生法規	4前	2			○			1						兼2	
	病態解析学	4前	2			○			1							
	小計(13科目)	—	20	0	0	—			10	2	1	1	0	兼2	—	
臨床薬学	実践薬学Ⅰ	2後	1			○			1							
	実践薬学Ⅱ	3前	1			○			1							
	臨床倫理学	3前	1			○									兼1	
	病院薬学	4前	2			○			1							
	保険薬局学	4前	2			○			1			1				
	疾病医療学	4後	2			○			1							
	小計(6科目)	—	9	0	0	—			4	0	0	1	0	兼1	—	
基礎薬学実習	物理系実習	2前	3					○							兼8	
	化学系実習	2通	4					○	1	2		3			兼4	
	生物系実習	2通	3					○	1	2		2			兼4	
	医療系実習	2後	3					○	3	3		3				
	臨床前実習Ⅰ	4後	2					○	1			2				
	臨床前実習Ⅱ	4後	2					○	1			2				
	小計(6科目)	—	17	0	0	—			7	7	0	12	0	兼16	—	
臨床実習	薬局実習	5通	10					○	1			2				
	病院実習	5通	10					○	1			2				
	小計(2科目)	—	20	0	0	—			2	0	0	4	0	0	—	
卒業研究	卒業研究(i)	3後~4後	2					○	14	8	1	12			兼32	
	卒業研究(ii)	5前~6後	8					○	14	8	1	12			兼32	
	小計(2科目)	—	10	0	0	—			14	8	1	12	0	兼32	—	
基盤教育	富山のくすり学	2後		2		○			3							
	知的財産概論	4前		1		○			1							
	小計(2科目)	—	0	3	0	—			4	0	0	0	0	0	—	
物理系薬学	応用分析化学	2前		2		○									兼1	
	構造生物学	3前		2		○									兼2	
	薬品物理化学	3前		2		○									兼2	
	トランスポーター論	3前		2		○			1	1						
	小計(4科目)	—	0	8	0	—			1	1	0	0	0	兼5	—	
化学系薬学	物理有機化学	2前		2		○				1					兼1	
	有機化学Ⅲ	3前		2		○									兼2	
	無機化学	3前		2		○				1					兼3	
	機器分析	2後		2		○			1	1					兼1	
	創薬化学	3前		2		○			1							
	合成化学	3前		2		○									兼2	
	ケミカル・バイオロジーⅠ	3前		2		○					1				兼1	
	ケミカル・バイオロジーⅡ	3前		2		○									兼2	
	小計(8科目)	—	0	16	0	—			1	2	0	0	0	兼10	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
生物系薬学	生体調節科学	3前		2		○				2		2		兼1
	分子遺伝動物学	3後		2		○								兼1
	病原微生物学	3後		2		○								兼4
	先端生命薬学	3後		2		○			1	2		2		兼4
	小計 (4科目)	—	0	8	0	—	—	—	1	2	0	2	0	兼9
和漢薬学	東洋医学概論	2後		2		○								兼2
	天然医薬資源学	3後		2		○								兼1
	小計 (2科目)	—	0	4	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼3
薬学療	医療統計学	6前		2		○								兼1
	小計 (1科目)	—	0	2	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼1
臨床薬学	臨床薬物統計学	6前		2		○			1					
	臨床データ解析入門	3前		1		○			1					
	臨床データ解析実習	6前		1				○	1					
	小計 (3科目)	—	0	4	0	—	—	—	1	0	0	0	0	0
基盤教育	海外薬学演習Ⅰ	1～6通			1		○		2					
	海外薬学演習Ⅱ	1～6通			2		○		2					
	企業薬剤師インターンシップ	3前			1			○	1					
	小計 (3科目)	—	0	0	4	—	—	—	3	0	0	0	0	0
和漢薬コース	東西医薬学Ⅰ	3前			2	○			1					兼12
	東西医薬学Ⅱ	3後			2	○			1					兼2
	和漢医薬学演習	4前			2		○		1					兼1
	和漢医薬学実習	4前			2			○	1					兼1
	小計 (4科目)	—	0	0	8	—	—	—	1	0	0	0	0	兼12
応用製薬	先端創薬学演習	3前			4		○		4	2				兼1
	小計 (1科目)	—	0	0	4	—	—	—	4	2	0	0	0	兼1
脳科学	脳機能科学概論	3前			2	○			1					
	小計 (1科目)	—	0	0	2	—	—	—	1	0	0	0	0	—
合計 (223科目)			—	151	221	38	—	—	14	8	1	12	0	兼181
学位又は称号	学士(薬学)		学位又は学科の分野				薬学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
次の履修方法により191単位以上を履修すること。 ・教養教育科目から必修19単位を含む35単位以上 ・専門教育科目の必修科目の基盤教育14単位、物理系薬学8単位、化学系薬学8単位、生物系薬学14単位、衛生薬学6単位、和漢薬学3単位、医療薬学20単位、臨床薬学9単位、基礎薬学実習17単位、臨床実務実習20単位及び卒業研究10単位 ・選択科目の基盤教育、物理系薬学、化学系薬学、生物系薬学、和漢薬学、医療薬学及び臨床薬学から24単位以上							1学年の学期区分		2学期					
							1学期の授業期間		15週					
							1時限の授業時間		90分					

教 育 課 程 等 の 概 要															
(薬学部創薬科学科) 【基礎となる学部】															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
教養教育科目	哲学のすすめ	1前・後		2		○									兼1
	人間と倫理	1前・後		2		○									兼1
	こころの科学	1前・後		2		○									兼1
	現代と教育	1前・後		2		○									兼1
	日本の歴史と社会	1前・後		2		○									兼1 地域志向科目
	東洋の歴史と社会	1前・後		2		○									兼1
	西洋の歴史と社会	1前・後		2		○									兼1
	日本文学	1前・後		2		○									兼1
	外国文学	1前・後		2		○									兼1
	言語と文化	1前・後		2		○									兼1 地域志向科目
	音楽	1前・後		2		○									兼1
	美術	1前・後		2		○									兼1
	美術表現A	1前・後		2		○									兼1
	美術表現B	1前・後		2		○									兼1
	言語表現	1前・後		2		○									兼1
	治療の文化史	1前・後		2		○									兼1
	異文化間コミュニケーション	1前・後		2		○									兼1
	異文化理解	1前・後		2		○									兼1 外国人留学生限定
	小計 (18科目)		—	0	36	0	—			0	0	0	0	0	兼18
社会科学系	現代社会論	1前・後		2		○									兼1 地域志向科目
	日本国憲法	1前・後		2		○									兼1
	国家と市民	1前・後		2		○									兼1
	経済生活と法	1前・後		2		○									兼1
	市民生活と法	1前・後		2		○									兼1
	はじめての経済学	1前・後		2		○									兼1
	産業と経済を学ぶ	1前・後		2		○									兼1
	経営資源のとらえ方	1前・後		2		○									兼1
	市場と企業の関係	1前・後		2		○									兼1
	地域の経済と社会・文化	1前・後		2		○									兼1 地域志向科目
	小計 (10科目)		—	0	20	0	—			0	0	0	0	0	兼10
自然科学系	自然科学への扉-A	1前・後			2	○									兼1
	自然科学への扉-B	1前・後			2	○									兼1
	自然科学への扉-C	1前・後			2	○									兼1
	科学技術への扉-A	1前・後			2	○									兼1
	科学技術への扉-B	1前・後			2	○									兼1
	生命の世界	1前・後			2	○									兼1
	社会と情報の数理	1前・後			2	○									兼1
	デザインと生物	1前・後			2	○									兼1
小計 (8科目)		—	0	0	16	—			0	0	0	0	0	兼8	—
理系基盤教育系	生命科学 I-B	1前	2			○									兼1
	生命科学 II-B	1後	2			○									兼1
	生物学実験-B	1後	1					○							兼1
	解析学-B	1前	2			○									兼1
	線形代数学	1後		2		○									兼1
	物理学 I-A	1前		2		○									兼1
	物理学 I-B	1前		2		○									兼1
	物理学 II-A	1後		2		○									兼1
	物理学 II-B	1後		2		○									兼1
	化学・物理学実験-B	1前	1						○						兼1
	現代物理学入門	1後		2		○									兼1
	基礎化学-B	1前	2			○									兼1
	生物無機化学入門	1後		2		○									兼1
小計 (13科目)		—	10	14	0	—			0	0	0	0	0	兼6	

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	医療心理学	1前・後	2			○									兼1	
	概説医療心理学	1前・後		1		○									兼1	
	認知科学	1前・後		2		○									兼1	
	脳科学入門	1前・後		2		○									兼1	
	生命科学入門	1前・後		2		○									兼1	
	免疫学入門	1前・後		2		○									兼1	
	身近な医学	1前・後		2		○									兼1	
	障害とアクセシビリティ	1前・後		2		○									兼1	
	医療と地域社会	1前・後		2		○									兼1	地域志向科目
	小計 (9科目)	—	2	15	0	—			0	0	0	0	0	0	兼7	—
総合科目系	環境	1前・後		2		○									兼1	地域志向科目
	ジェンダー	1前・後		2		○									兼1	
	技術と社会	1前・後		2		○									兼1	
	現代文化	1前・後		2		○									兼1	地域志向科目
	人権と福祉	1前・後		2		○									兼1	地域志向科目
	環日本海	1前・後		2		○									兼1	地域志向科目
	科学と社会	1前・後		2		○									兼1	
	アカデミック・デザイン	1前・後		2		○									兼1	地域志向科目
	ビジネス思考	1前・後		2		○									兼1	地域志向科目
	データサイエンスの世界	1前・後		1		○									兼1	
	データサイエンスの実践	1前・後		1		○									兼1	
	教養としての都市デザイン学	1前・後		2		○									兼1	地域志向科目
	SDGs入門	1前・後		2		○									兼1	
	薬都とやま学	1前・後		2		○									兼1	地域志向科目
	平和学入門	1前・後		2		○									兼1	
	東アジア共同体論-政治・経済・文化-	1前・後		2		○									兼1	
	富山から考える震災・復興学	1前・後		2		○									兼1	
	環境と安全管理	1前・後		2		○									兼1	
	万葉学	1前・後		2		○									兼1	地域志向科目
	日本海学	1前・後		2		○									兼1	地域志向科目
	富山大学学	1前・後		2		○									兼1	地域志向科目
	とやま地域学	1前・後		2		○									兼1	集中 地域志向科目
	時事的問題	1前・後		2		○									兼1	集中
	災害救援ボランティア論	1前・後		2		○									兼1	集中 地域志向科目
	感性をはぐくむ	1前・後		2		○									兼1	
	日本事情／芸術文化	1前・後		2		○									兼1	外国人留学生限定
	日本事情／自然社会	1前・後		2		○									兼1	外国人留学生限定
	学士力・人間力基礎	1前・後		2		○									兼1	
	富山学	1前・後		2		○									兼1	集中 地域志向科目
	地域ライフプラン	1前・後		2		○									兼1	地域志向科目
	産業観光学	1前・後		2		○									兼1	地域志向科目
	富山のものづくり概論	1前・後		2		○									兼1	地域志向科目
	富山の地域づくり	1前・後		2		○									兼1	地域志向科目
小計 (33科目)	—	0	64	0	—			0	0	0	0	0	0	兼28	—	
外国語系	ESP I (Level-based)	1前	1					○							兼1	
	ESP II (Interest-based)	1後	1					○							兼1	
	基盤英語 I	1前	1					○							兼1	
	基盤英語 II	1後	1					○							兼1	
	ドイツ語基礎 I	1前		1				○							兼1	
	ドイツ語基礎 II	1後		1				○							兼1	
	ドイツ語コミュニケーション I	1前		1				○							兼1	
	ドイツ語コミュニケーション II	1後		1				○							兼1	
	フランス語基礎 I	1前		1				○							兼1	
	フランス語基礎 II	1後		1				○							兼1	
フランス語コミュニケーション I	1前		1				○							兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	外国語系	フランス語コミュニケーションⅡ	1後	1			○								兼1	
	中国語基礎Ⅰ	1前	1				○								兼1	
	中国語基礎Ⅱ	1後	1				○								兼1	
	中国語コミュニケーションⅠ	1前	1				○								兼1	
	中国語コミュニケーションⅡ	1後	1				○								兼1	
	朝鮮語基礎Ⅰ	1前	1				○								兼1	
	朝鮮語基礎Ⅱ	1後	1				○								兼1	
	朝鮮語コミュニケーションⅠ	1前	1				○								兼1	
	朝鮮語コミュニケーションⅡ	1後	1				○								兼1	
	ロシア語基礎Ⅰ	1前	1				○								兼1	
	ロシア語基礎Ⅱ	1後	1				○								兼1	
	ロシア語コミュニケーションⅠ	1前	1				○								兼1	
	ロシア語コミュニケーションⅡ	1後	1				○								兼1	
	日本語リテラシーⅠ	1前	1				○								兼1	外国人留学生限定
	日本語リテラシーⅡ	1後	1				○								兼1	外国人留学生限定
	日本語コミュニケーションⅠ	1前	1				○								兼1	外国人留学生限定
	日本語コミュニケーションⅡ	1後	1				○								兼1	外国人留学生限定
	発展多言語演習ドイツ語	2前	1				○								兼1	集中
	発展多言語演習中国語	2前	1				○								兼1	集中
	日本語コミュニケーションⅢ	2前			1		○								兼1	外国人留学生限定
	日本語／専門研究	2前			1		○								兼1	外国人留学生限定
小計 (32科目)	—	—	4	26	2	—	—	—	0	0	0	0	0	兼15	—	
保健体育	健康・スポーツ／講義	1後	1	1		○									兼1	
	健康・スポーツ／実技	1前	1	1				○							兼1	
	小計 (2科目)	—	1	1	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼1	—	
情報処理	情報処理	1前	2				○								兼4	
	応用情報処理	1後			2		○								兼1	
	小計 (2科目)	—	2	0	2	—	—	—	0	0	0	0	0	兼4	—	
基盤教育	薬学概論	1前	1			○			4						兼3	オムニバス
	医療学入門	1前	1			○		※							兼6	オムニバス ※実習
	製薬企業概論	1後	1			○			1						兼1	
	行動科学	2前	2			○									兼1	
	薬学英語Ⅰ	2前	1			○			5	6	1	7			兼36	
	薬学英語Ⅱ	2後	1			○			5	6	1	7			兼36	
	統計学	2後	2			○			1			1				
	専門英語Ⅰ	3前	1			○			5	6	1	7			兼35	
	専門英語Ⅱ	3後	1			○			5	6	1	7			兼48	
	総合薬学演習	3後	1				○		5	6	1	7			兼35	
	富山のくすり学	2後	2			○									兼35	
	製薬企業と創薬	3後	1			○									兼1	
	薬学経済	4前	2			○									兼1	
小計 (13科目)	—	17	0	0	—	—	—	5	6	1	7	0	兼57	—		
物理系薬学	物理化学Ⅰ	1後	2			○			1	1						
	物理化学Ⅱ	2前	2			○			1							
	分析化学	1後	2			○			1							
	小計 (3科目)	—	6	0	0	—	—	—	3	1	0	0	0	0	—	
化学系薬学	基礎有機化学Ⅰ	1前	2			○									兼1	
	基礎有機化学Ⅱ	1後	2			○									兼2	
	有機化学Ⅰ	2前	2			○									兼2	
	有機化学Ⅱ	2後	2			○			1							
	有機化学Ⅲ	3前	2			○			1	1						
	創薬化学	3前	2			○									兼1	
	小計 (6科目)	—	12	0	0	—	—	—	1	1	0	0	0	兼5	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
生物系薬学	生化学Ⅰ	2前	2			○									兼1	
	生化学Ⅱ	2後	2			○									兼3	
	細胞生物学	2後	2			○			1	1					兼1	
	微生物学	2前	2			○				1						
	先端生命薬学	3後	2			○			1	2		1				兼5
	病原微生物学	3後	2			○										兼4
	小計 (6科目)	—	12	0	0	—			1	2	0	1	0	兼9	—	
学衛生薬	放射薬品学	2後	1			○			1						兼1	
	衛生薬学Ⅰ	3前	1			○			1						兼1	
	小計 (2科目)	—	2	0	0	—			1	0	0	0	0	兼1	—	
和漢薬学	和漢医薬学入門	2前	1			○		※							兼26	オムニバス ※実験
	生薬学	2前	2			○									兼2	
	小計 (2科目)	—	3	0	0	—			0	0	0	0	0	兼28	—	
医療薬学	生物薬剤学Ⅰ	2後	1			○									兼2	
	生物薬剤学Ⅱ	3前	1			○									兼2	
	薬理学Ⅰ	2後	1			○									兼1	
	薬理学Ⅱ	3前	1			○									兼1	
	薬理学Ⅲ	3後	1			○									兼3	
	物理薬剤学	3後	2			○									兼4	
	小計 (6科目)	—	7	0	0	—			0	0	0	0	0	兼7	—	
基礎薬学実習	物理系実習	2前	3					○	3	3		2				
	化学系実習	2通	4					○	1	1	1	1			兼6	
	生物系実習	2通	3					○	1	2		1			兼5	
	医療系実習	2後	3					○							兼9	
	特別専門実習	2後	1					○	5	6	1	7			兼35	
	小計 (5科目)	—	14	0	0	—			5	6	1	7	0	兼35	—	
研卒業	卒業研究	3通～4通	10					○	5	6	1	7			兼48	
	小計 (1科目)	—	10	0	0	—			5	6	1	7	0	兼48	—	
教基育盤	知的財産概論	4前		1		○									兼1	
	小計 (1科目)	—	0	1	0	—			0	0	0	0	0	兼1	—	
物理系薬学	応用分析化学	2前		2		○			1							
	生物物理化学	2後		2		○									兼2	
	構造生物学	3前		2		○			1	1						
	薬品物理化学	3前		2		○			1	1						
	トランスポーター論	3前		2		○									兼2	
	小計 (5科目)	—	0	10	0	—			3	2	0	0	0	兼2	—	
化学系薬学	物理有機化学	2前		2		○									兼2	
	無機化学	3前		2		○			1						兼3	
	機器分析	2後		2		○									兼3	
	合成化学	3前		2		○			1	1						
	ケミカル・バイオロジーⅠ	3前		2		○									兼2	
	ケミカル・バイオロジーⅡ	3前		2		○			1	1						
	小計 (6科目)	—	0	12	0	—			2	2	0	0	0	兼8	—	
生物系薬学	生理学	2前		2		○									兼4	
	人体機能形態学	2後		2		○									兼5	
	生体調節科学	3前		2		○				1					兼4	
	分子遺伝動物学	3後		2		○									兼1	
	免疫学	3後		2		○									兼3	
	小計 (5科目)	—	0	10	0	—			0	1	0	0	0	兼17	—	
学衛生薬	衛生薬学Ⅱ	3後		2		○				1					兼1	
	衛生薬学Ⅲ	3後		2		○			1						兼1	
	小計 (2科目)	—	0	4	0	—			1	1	0	0	0	兼2	—	
学和漢薬	東洋医学概論	2後		2		○					1				兼2	
	天然医薬資源学	3後		2		○										
	小計 (2科目)	—	0	4	0	—			0	0	1	0	0	兼2	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
医療薬学	薬物動態学	3後		2		○									兼1	
	病態薬物治療学Ⅰ	3後		1		○									兼2	
	病態薬物治療学Ⅱ	4前		2		○									兼2	
	病態薬物治療学Ⅲ	4前		2		○									兼5	
	医療薬剤学	3後		2		○									兼1	
	病態解析学	4前		2		○									兼1	
	小計 (6科目)	—	0	11	0				0	0	0	0	0		兼9	—
基盤教育	海外薬学演習Ⅰ	1~4通			1		○								兼2	
	海外薬学演習Ⅱ	1~4通			2		○								兼2	
	コース概論	2前			1		○		5	6	1	7			兼3	
	小計 (3科目)	—	0	0	4				5	6	1	7	0		兼3	—
和漢薬コース	東西医薬学Ⅰ	3前			2	○									兼1	
	東西医薬学Ⅱ	3後			2	○									兼3	
	和漢医薬学演習	4前			2		○								兼2	
	和漢医薬学実習	4前			2			○							兼2	
	小計 (4科目)	—	0	0	8				0	0	0	0	0		兼1	—
応用製薬	先端創薬学演習	3前			4		○		1						兼6	
	小計 (1科目)	—	0	0	4				1	0	0	0	0		兼6	—
脳科学	脳機能科学概論	3前			2	○									兼1	
	小計 (1科目)	—	0	0	2				0	0	0	0	0		兼1	—
合計 (176科目)		—	102	228	38				5	6	1	7	0		兼19	—
学位又は称号		学士(薬科学)			学位又は学科の分野			薬学関係								
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
次の履修方法により137単位以上を履修すること。 ・教養教育科目から必修19単位を含む35単位以上 ・専門教育科目の必修科目の基盤教育17単位、物理系薬学6単位、化学系薬学12単位、生物系薬学12単位、衛生薬学2単位、和漢薬学3単位、医療薬学7単位、基礎薬学実習14単位及び卒業研究10単位 ・選択科目の基盤教育、物理系薬学、化学系薬学、生物系薬学、衛生薬学、和漢薬学及び医療薬学から19単位以上								1 学年の学期区分			2 学期					
								1 学期の授業期間			1 5 週					
								1 時限の授業時間			9 0 分					

授 業 科 目 の 概 要			
（大学院総合医薬学研究科 総合医薬学専攻 博士課程・博士後期課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院 共通 科目	研究倫理	<p>（概要）研究者には分野を問わず、研究倫理を守ることが求められる。研究に従事する者に求められる倫理、規範意識、科学の社会的責任、研究費の取扱い等について理解することを目的とする。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（165 中村 征樹／1回） 研究不正の防止と責任ある研究活動</p> <p>（148 沖野 浩二／1回） 研究活動における情報管理上の注意点、プライバシー保護</p> <p>（164 宮島 光志／1回） 研究活動における生命倫理</p> <p>（138 豊岡 尚樹／5回） 公的研究費の取り扱い、データの扱いと共同研究のルール、オープンサイエンス等（eラーニング教材利用）</p>	オムニバス方式
	科学技術と持続可能社会	<p>（概要）科学技術の発展により、私たちは高度な文明を築き、豊かな生活を送ることができるようになった。その一方で、科学技術の利用による様々な社会問題や環境問題が生じ、私たちは科学技術がもたらす負の側面にも正面から向き合わざるを得ない状況にある。これらの様々な課題を解決し、私たちの生活をより豊かで持続可能な形にするためには、新しい科学技術や利用法が必要である。この授業では、過去から現在に至る科学技術の発展による我々の生活の変化を知り、それに伴い経済、社会、環境にどのような課題が生じてきたのかを考え、科学技術が達成すべき未来を描くことの重要性を探究し、そしてこのような課題を解決するためにどのような新しい科学技術とその利用方法が必要なのかについて理解を深める。</p> <p>（オムニバス形式／全8回）</p> <p>（166 岸本 充生／1回） 科学技術イノベーションをめぐる課題</p> <p>（167 平川 秀幸／1回） 科学技術と社会のコミュニケーションの課題</p> <p>（147 池田 丈佑／1回） 科学技術とグローバル・ガバナンス／エシックス</p> <p>（143 龍 世祥／1回） 産業革命と社会システムの変革、持続可能社会の形成</p> <p>（133 稲寺 秀邦／1回） イタイタイ病の歴史から学ぶ持続可能社会</p> <p>（134 上原 雄史／1回） 都市と建築の相互性に基づいた現代建築の重層化する必要性の理解</p> <p>（144 和田 直也・163 Shishir Sharmin／1回）（共同） 熱帯地域における経済発展・森林断片化と新興感染症問題</p> <p>（137 張 勁／1回） 海洋と陸域の水・物質循環の今と今後の適応策</p>	オムニバス方式・ 共同（一部）
	地域共生社会特論	<p>我が国で行われてきた地域の相互援助や家族同士の助け合いなど、家庭・地域・職場などの生活場面において支えあいの機能が存在していた。今日の社会保障制度はそのような社会背景のもとに構築されてきている。現代的に考えると高齢化・人口減などの課題に対して、従来のシステムでは対応しきれない状況が現れてきている。人々が生活する地域社会でこそ、その生活を支えられる新たなシステムが必要とされている。そこで「地域共生社会」をどのように構築すべきかを現代社会の課題ととらえ、その実証的検証を踏まえた考察を試み、制度や分野の枠組みを超えた地域社会想像を考察するものである。</p> <p>超少子高齢社会を見据えながら、地域共生社会の構築方法を、グローバルな視点と多文化共生の観点も含めて理解し、社会の在り方を考察しながら、新しい公共の構築を理解できることを目的とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目	研究者としてのコミュニケーション：基礎と応用	<p>(概要) コミュニケーション能力として「他者の考えを理解し、自らも情報発信する能力を身に付けている。また、適切な手段や言語を使い、多様な人々との意思疎通と協働を可能にする能力を身に付けている」ことを前提に、基盤的な確認をする。またコミュニケーションの内容と構造の分析方法も学び、研究・論文作成に必要なコミュニケーション技術獲得方法についても教授する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(38 堀 悦郎／2回)：コミュニケーションの内容・成立要件、病理的コミュニケーション (156 宮崎 章／1回)：科学者としての異言語・異文化コミュニケーション (160 PARK EUN-KYUNG／1回)：学術コミュニケーション：研究内容の明確な伝達に必要な戦略とヒント (11 袴田 優子／1回)：医療的コミュニケーション (135 内田 和美／1回)：ヒト・モノ・コトとのコミュニケーション (150 尾山 真／2回)：自身のコミュニケーションを理解し、研究指導者との良好なコミュニケーション</p>	オムニバス方式
	アート・デザイン思考	<p>(概要) アート思考とデザイン思考についての理解を深めるとともに、STEAM教育を含む社会におけるアート・デザインの役割についての考察を深める。アート思考はアーティストの思考法を取り入れることであり、デザイン思考はデザイナーの思考法を取り入れることである。アートとデザインが異なるようにアート思考とデザイン思考も異なるが、変動が激しく先が見え難く、様々な問題が複雑に絡み合う現代社会においては、これらの視点が役立つとされる。本授業では、これらの視点を学ぶとともに、アート思考とデザイン思考を身に付けてゆく。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(146 有田 行男・159 長田 堅二郎・161 松田 愛／2回) (共同) アート思考とデザイン思考、社会におけるアート・デザインの役割～創造の観点から～ (146 有田 行男／1回) アートとデザインの周辺・アートとデザインの融合 (161 松田 愛／1回) 社会におけるアートの役割～キュレーションの観点から～ (159 長田 堅二郎／1回) 社会におけるアートの役割～アートマーケットの観点から～ (135 内田 和美／1回) 社会におけるデザインの役割～プロダクトデザインの観点から～ (158 岡本 知久／1回) 社会におけるデザインの役割～ビジュアルデザインの観点から～ (162 藪谷 祐介／1回) 社会におけるアート・デザインの役割～まちづくりの観点から～</p>	オムニバス方式・共同（一部）
	英語論文作成Ⅰ	<p>科学論文や技術報告書を正しい英語で分かりやすく書くための文法的な基礎知識を身に付ける。論文等に書かれた英文の構造を分析して正しく読み取ることができるようにする。 英作文の基礎となる文型をしっかり身に付ける。即ち、能動態の文を受動態に、受動態の文を能動態に変えることができるようにする。</p>	共同（一部）
	英語論文作成Ⅱ	<p>科学論文や技術報告書を正しい英語で分かりやすく書くための文法的な基礎知識を身に付ける。論文等に書かれた英文の構造を分析して正しく読み取ることができるようにする。 関係代名詞と分詞構文を正しく使えるようにする。関係代名詞では主格、目的格、所有格、前置詞付きの関係代名詞をできるように、また制限用法と非制限用法の違いを知る。正しい句読点(ピリオド、コンマ、セミコロン、コロンの使い方を知る。一つの文は長くしないほうが良い(20単語以内)ということを知る。</p>	共同（一部）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目	データサイエンス特論	<p>(概要) 最初に、多様なデータ解析の実務で汎用的に利用されている機械学習の基礎を確認し、その後、機械学習の要素技術を確実・安全に運用するために必要となる数理解析の理論と技術を学修する。そして、革新的な進化を遂げている生命情報の話題を理解することで、データサイエンスによって大きく変容していく学術分野の事例を研究する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(138 豊岡 尚樹・141 モヴシユク オレクサンダー／1回) 全体総括 (141 モヴシユク オレクサンダー／1回) 最新機械学習の基本と仕組み (153 春木 孝之／1回) データサイエンス基礎 (教師なし学習) (155 参沢 匡将／1回) データサイエンス基礎 (教師あり学習) (140 藤田 安啓／1回) 数学とデータサイエンス (151 長岡 亮／1回) データサイエンスのための情報セキュリティ技術 (149 奥 牧人／1回) 生命情報学とデータサイエンス (30 中條 大輔／1回) 医療データを用いた医学的知見の創出</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	大学院生のためのキャリア形成	<p>(概要) 将来、職業人としての経験を重ねていくための道標を提供する科目である。キャリア開発やキャリア形成は膨大な蓄積を伴う学問分野であるが、本講義では学術的な研究ではなく、大学院生が自らのキャリアを考えるためのツールと言う視点から、実践を交えつつキャリア形成を巡る理論を学ぶ。</p> <p>達成目標は以下のとおり。</p> <p>① 組織、社会との関わりの中で、自らのキャリア形成に対する展望を自律的に得ることができる。</p> <p>② 組織のマネジメントで必要とされるキャリア開発の基本的な考え方を身に付けている。</p> <p>③ 受講生自身が、自らのキャリアに対する考え方の成長を実感できる。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(132 會澤 宣一／1回) 全体総括及び社会・経済状況の概説 (150 尾山 真／2回) 自己分析・環境分析等に関する手法、キャリア形成理論 (132 會澤 宣一・150 尾山 真／5回) (共同) 大学院修了者の講演を参考にした履修者同士によるグループ討論、周囲の人へのインタビュー・発表</p>	オムニバス方式・共同 (一部)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
大学院共通科目	知的財産法	<p>(概要) 理工系出身者の多くが研究開発に従事、他の分野においても各種知的財産を抜きにはビジネス構築ができない時代となった。我が国の国家戦略としての知財の重要性を理解し、各自の今後の活動に活かすことのできるツールとしての知的財産についての理解を深める。</p> <p>知的財産の基本的な知識と技術を修得し、社会における知的財産と産業における産業財産権の意義や役割を理解、産業の発展を図り活用する能力および知的財産創造サイクルを回す考え方を育成する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(168 大谷 嘉一/4回) 知的財産権の基礎 (知的財産制度の概要、特許権・実用新案権・意匠権・商標権等・著作権等各知的財産の詳細、グローバルな権利としての知的財産の側面)</p> <p>(169 赤坂 彰彦/3回) 知的財産権の実際 (特許明細書の構成・内容、先行技術調査・検索、不正競争防止法等)</p> <p>(136 田端 俊英/1回) 知的財産権の実際 (地域企業における知的財産活用の事例を紹介に基づく業界による違い・特徴)</p>	オムニバス方式・メディア
	学際融合発表演習Ⅰ	<p>自らの研究内容を他者にわかりやすく説明する能力は、博士後期課程・4年制博士課程(本項及び次項で「博士課程」という。)修了後の活躍の場(アカデミアまたは企業を問わず)において、必須となってくる。特に専門分野の異なる他者が理解できる言葉・内容で説明する能力は、専門家が集まる学会発表とは大きく異なり、相手の立場に立ってプレゼンテーションを行うことが求められる。この能力は、近年益々重要視されている分野融合において大きな意味を持つものである。学際融合発表演習Ⅰでは、博士課程1年次を対象とし、発表者のプレゼンテーションに対して、異分野の立場から質問を行うとともに、好発表を踏まえながら、自らの発表を構想する。</p>	共同(一部)
	学際融合発表演習Ⅱ	<p>自らの研究内容を他者にわかりやすく説明する能力は、博士課程修了後の活躍の場(アカデミアまたは企業を問わず)において、必須となってくる。特に専門分野の異なる他者が理解できる言葉・内容で説明する能力は、専門家が集まる学会発表とは大きく異なり、相手の立場に立ってプレゼンテーションを行うことが求められる。この能力は、近年益々重要視されている分野融合において大きな意味を持つものである。学際融合発表演習Ⅱでは、博士課程2年次を対象とし、上記分野の異なる他者が理解できる言葉・内容でプレゼンテーションを行った上で、結果を研究指導教員等とともに振り返る。</p>	共同(一部)
研究科共通科目	医薬学プロフェSSIONAL研究論	<p>(概要) 医学・薬学・看護学領域のプロの研究者となるための必須のスキルを修得するとともに、臨床と基礎を横断した総合的な医療人材を育成するため、次の内容を中心に理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(6 中川 崇/1回) 医療研究デザイン (7 関根 道和/2回) 概要、医療統計解析 (38 堀 悦郎/1回) 管理・運営・指導力 (43 松谷 裕二/1回) 論文執筆技法 (51 恒枝 宏史/1回) 博士課程修了後のキャリアパス (60 中川 嘉/1回) 外部資金獲得方法 (31 寺元 剛/1回) 医療研究倫理</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究科共通科目	医療制度と医療経営特論	<p>(概要) 医学・経済学・経営学・法学という異なる専門分野の担当者が、それぞれの見地から日本の医療制度と医療経営を論じる分野横断的な科目である。履修者は、医療サービス市場の構造や公的医療保険制度・医療費の現状を把握した上で、医療法人制度と医療法人会計基準、医療法人の財務諸表の特徴と解釈の仕方、大学病院の役割と病院経営に必要な要素、医師・医療機関の民事責任などの理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(142 両角 良子／2回) 医療サービスの特徴、増加する医療費 (154 廣橋 祥／2回) 病院の経営主体、病院経営主体の会計ディスクロージャー制度 (7 関根 道和／1回) 医療経営のための財務諸表分析 (22 林 篤志／1回) 富山大学附属病院の役割と病院経営 (139 橋口 賢一／2回) 医療過誤訴訟における過失・因果関係</p>	オムニバス方式
	日本語・日本文化	<p>大学院から本学に進学する留学生が博士課程の科目を履修し、さらに充実した大学院生活を送る際には母語及び英語のみではなく、日本語も必要となることから、本科目では以下の目標を設定し、日本語に関する教育を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初級日本語前半の文法を学習し、それらの内、日本語基礎力に深く関わる部分が運用できるようにする。 ・日常生活の基本的な場面に必要な日本語能力や態度を学習する。 ・ひらがな・カタカナの読み書きを学び、自身にとって必要になる読み書き力の基礎を作る。 <p>なお、本授業科目は、外国人留学生のみ履修可能とする。</p>	
看護科学プログラム専門科目	医学連携特論	<p>(概要) 医学と看護学のそれぞれの融合の場である臨床において、両者の関わる学際的課題について学ぶとともに、看護学において用いられる質的研究などの研究手法を学ぶことで、医学研究に役立つ。本講義はオンデマンド方式と講師と参加者との相互対話形式(インタラクション)による参加型を併用して行なう。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(6 中川 崇／6回) 臨床研究における質的研究、ケーススタディ (36 長谷川ともみ／2回) 看護学研究における手法</p>	オムニバス方式
	看護科学特論	<p>(概要) 看護科学プログラムでは、豊かで幅広い学識と高度な問題解決能力を有する人材育成を目指し、看護の教育・研究基盤を確立するため、知の統合・創生と実践を改革・開発・創造でき、国内外の生活文化に貢献しうる実践的研究者を育成することを目的としている。本講義では各分野の研究者による講義を受講し助言のもと、看護科学に関する研究課題と方法を明確にする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学専門領域における研究や学際的な動向について多角的に情報を収集する 2. 個人・家族・集団・コミュニティの尊厳を重視した全人的・包括的で、普遍性の高い看護実践・教育を導く看護理論をクリエイトする 3. 看護学の研究者として一連の研究プロセスを自律して遂行・展開するために、先行研究とその研究方法を批判的にレビューする <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(34 西谷 美幸／2回) 看護科学としての理論 (35 比嘉 勇人／2回) 看護の臨床実践と看護研究、量的・質的研究と実装 (37 田村 須賀子／4回) 概説、看護科学の主要概念の分析</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
看護科学プログラム専門科目	基礎看護科学特論	<p>個人・家族が本来もちうる能力・強み・回復力と多様性に着眼し、スピリチュアルも含め全人的・包括的に働きかける看護学の理論および研究を理解し、それぞれの概念を分析・統合するとともに実践知中心に追究する。</p> <p>具体的な看護科学の事象として、全人的ケアのあり方、看護学教育、メンタルヘルス、対人関係、セルフケア、ケアリング、スピリチュアルケア、等を扱う。これらの概念や看護モデル、適用可能な研究方法について検討し、看護実践および研究活動への活用について討議する。</p>	
	基礎看護科学演習	<p>基礎看護科学に関連する研究方法、すなわち既にエビデンスが得られている方法、新たに開発されてきた方法、革新的で試行的な方法などを理解・体得し、有意性・問題点の判断を行う。自ら掲げた研究テーマに関する研究方法を選択・決定していく。</p> <p>具体的には、個人・家族が本来もちうる能力・強み・回復力と多様性に着眼し、スピリチュアルも含め全人的・包括的に働きかける看護の研究方法を修得する。基礎看護科学の研究課題を追究するうえでの具体的な先行研究を基に、研究方法の強み・弱みの判断・クリティークにより、研究目的に合った研究方法の選択決定方法、研究の進め方を修得する。</p>	
	臨床・生体機能看護科学特論	<p>生体防御システムの基礎と看護学への応用を教授する。具体的には、自己の再生力、自然治癒力、感染に対する免疫のメカニズムの最新の知識を教授し、それらから生体防御機能の障害が生じることを防止する方略について探求する。</p>	
	臨床・生体機能看護科学演習	<p>生体防御機能の障害が生じることを防止する方略、健康の維持向上に寄与する看護介入について最新のエビデンスをシステムティックレビューする。</p>	
	地域ケアシステム看護科学特論	<p>コミュニティの形成と、コミュニティがもつ自助・共助の力を引き出し、そこで生活する個人・家族(集団)の助け合い・支え合いの醸成と、コミュニティの機能が持続可能な体制の構築、社会資源として機能する看護活動の在り方について実践知中心に追究する。</p> <p>また看護活動のアウトカム評価として、個人・家族・集団・組織としての認知行動の変容を行動科学的パラメータにより捉えられるようにし、質の高い有効な資源提供方法について追究する。</p> <p>具体的な看護科学の事象として、コミュニティで機能する地区活動、家庭訪問、家族看護、地域包括ケアシステム、介護予防、在宅看護推進システム、生活習慣病予防、地域職域連携、等と、それらの看護活動による個人・家族・集団・組織としての認知行動変容を扱う。</p>	
地域ケアシステム看護科学演習	<p>地域ケアシステム看護科学に関連する研究方法、すなわち既にエビデンスが得られている方法、新たに開発されてきた方法、革新的で試行的な方法などを理解・体得し、有意性・問題点の判断を行う。自ら掲げた研究テーマに関する研究方法を選択・決定していく。</p> <p>コミュニティの形成と、コミュニティがもつ自助・共助の力を引き出し、そこで生活する個人・家族(集団)の助け合い・支え合いの醸成と、コミュニティの機能が持続可能な体制の構築、社会資源として機能する看護の研究方法について修得する。看護活動のアウトカム評価として、個人・家族・集団・組織としての認知行動の変容を捉える研究方法について修得する。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
看護科学プログラム専門科目	看護科学特別研究	<p>看護科学に関する研究課題に対して、研究テーマの明確化、研究計画書の作成、研究素材の収集および分析、論文の作成まで研究を行う。</p> <p>1. 個人・家族・集団・コミュニティの尊厳を重視した全人的・包括的な看護実践を研究課題とし、普遍性の高い看護実践・教育を導く看護理論の構築に関する研究を行う。</p> <p>2. 看護学専門領域における研究や学際的な動向について多角的な手法を用いて、国際的にも信頼され通用しうる課題の研究を行う。</p> <p>3. 看護専門領域の高度専門職業人に対する卓越した実践能力と研鑽について取り上げ、教育・指導・管理に寄与する課題の研究を行う。</p> <p>(34 西谷 美幸、84 坪田 恵子、85 高倉 恭子) 看護実践の質的向上を図るための論理的根拠や方法論に関する研究、看護・看護教育・看護管理実践の論理抽出に関する研究を行う。</p> <p>(35 比嘉 勇人) 量的および質的なアプローチによる混合研究方法を用いて、メンタル面またはスピリチュアル面の看護現象における課題の研究を行う。</p> <p>(36 長谷川 ともみ、86 吉井 美穂、87 二川 香里、88 山田 理絵) 生体防御機能の障害が生じることを防止する方略、健康の維持向上に寄与する看護介入について最新のエビデンスをシステムティックレビューする。</p> <p>(37 田村 須賀子、115 鈴木 悟子) 地域社会を含めた看護実践に対する実践知を取り上げ、資源提供活動の質向上と評価方法の課題の研究を行う。</p> <p>(38 堀 悦郎) 看護技術の効果を行動科学的ならびに生理学的パラメータを用いて証明することにより、患者看護のみならず住民や労働者の健康増進に貢献する研究を行う。</p>	
先端薬科学プログラム専門科目	先端薬科学特別実習	<p>主指導教員とは異なる分野の教員のもとで調査、分析を行うとともに、異分野の研究者とのディスカッションにより自らの博士論文研究について俯瞰する視野の涵養を図る。</p>	
	薬学連携特論	<p>薬科学及び臨床薬学を中心とした薬学関連領域で活躍する研究者・教育者・技術者による講義を受講し、医療を支える各分野の課題解決に至るプロセスや視点を学び、課題解決のための柔軟な対応力、判断力、表現力を学ぶ。また、それぞれ医薬品の作り手、使い手としてとしての立場から、互いの現状、課題、展望を理解することで、臨床薬学と薬科学の連携の重要性を理解するとともに、薬学全体を俯瞰し、自身の専門性を拡張、統合して、医療の高度化・複雑化に対応できる能力を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(44 宗 孝紀/1回) 分子細胞機能学分野の現状、課題、展望 (46 中野 実/1回) 生体界面化学分野の現状、課題、展望 (47 水口 峰之/1回) 構造生物学分野の現状、課題、展望 (49 藤 秀人/1回) 医療薬学分野の現状、課題、展望 (52 新田 淳美/1回) 薬物治療学分野の現状、課題、展望 (53 田口 雅登/1回) 実践薬学分野の現状、課題、展望 (54 加藤 敦/1回) 臨床薬剤学分野の現状、課題、展望 (61 小泉 桂一/1回) 未病学分野の現状、課題、展望</p>	オムニバス方式
	先端薬科学インターンシップ	<p>企業・研究機関において、医薬品開発ならびに品質管理、営業などの業務を有機的に結びつけたインターンシップを実施することにより、実務に必要な知識やスキルと法令遵守の精神を培い、社会で主導的に活躍できる高度職業人としての自覚を養い、自身の適性を把握する。</p>	
	先端薬科学特別演習	<p>主指導教員の指導の下、薬科学及び学際的領域の最新の研究成果を収集し、その内容を精査、理解、批評する。調査結果に関する発表および質疑応答を行い、効果的なプレゼンテーションと適切な質疑応答ができるように指導を受ける。他の学生の発表に対して、質問、コメントを行い、研究の進め方、データの解釈などについての討論を行うことで、薬学関連領域で活躍する専門家として必要な専門知識、コミュニケーション能力を醸成する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先端薬科学プログラム専門科目	先端薬科学特別研究	<p>薬科学及び学際的領域の課題解決を目指して、各研究室において教員の指導の下、研究テーマの設定、分析・調査、実験計画の立案・遂行、実験結果の科学的考察を行い、自立的に活躍する研究者・教育者・技術者として必要な専門知識、技術を身に付けるとともに、研究倫理や関連する法令の規範意識及び人間尊重の精神を身に付ける。セミナー等を定期的に行い、研究内容の発表および質疑応答を行い、効果的なプレゼンテーションと適切な質疑応答ができるように指導を受けるとともに、最終年度の学位論文提出、審査に向けた準備を行う。</p> <p>(39 細谷 健一、89 赤沼 伸乙) 薬物動態学および生物薬科学に基づく多角的な視点を基とした創薬を課題とし、薬物・化合物輸送を担う分子機構の解明に関する研究を行う。</p> <p>(40 久米 利明、90 歌 大介) マウスやゼブラフィッシュを含む実験動物を用い疾患モデル動物の作製を通じて、中枢神経疾患の病態解明およびその克服に関する課題の研究を行う。</p> <p>(41 友廣 岳則、91 谷本 裕樹) 有機合成化学的手法を通じ、高反応性化学種の自在活用法や不安定化学種検出システムといった分析化学的手法の開発に関する研究を行う。</p> <p>(42 櫻井 宏明、92 横山 悟) がんの発生及び悪性化進展について、がん遺伝子およびがん抑制遺伝子の機能解析に関する研究を行う。</p> <p>(93 千葉 順哉) 化学実験と計算化学を用いて、ケミカルバイオロジーに関する研究を行う。</p> <p>(43 松谷 裕二、94 杉本 健士) 新規反応開発と、その方法論を利用した生理活性化合物の有機合成を通して、新しい医薬シーズ探索のための研究を行う。</p> <p>(95 田淵 明子) 分子・細胞・個体レベルの研究手法を用いて、神経活動依存的な遺伝子発現の機構解明や神経疾患の治療法開発に向けた研究を行う。</p> <p>(44 宗 孝紀) 免疫学的、生化学的、細胞生物学的な実験手法を用いて、免疫系や神経系の細胞が外界からの刺激に対してどのように応答し、これにより免疫、感染、炎症、がんなどに対する生体応答が制御される仕組みを理解し、これらが治療や医薬品の開発にどのように結びつくかに関する課題の研究を行う。</p> <p>(45 矢倉 隆之、96 沖津 貴志) 環境調和型有機合成反応の開発および生物活性物質の効率的合成法の開拓を通じて、創薬に関する研究を行う。</p> <p>(46 中野 実、97 池田 恵介) 熱力学、速度論、分光学等の生物物理学的手法を用いて、生体界面における分子間相互作用や生体分子の集合挙動の解明と創薬への応用という課題解決に向けた研究を行う。</p> <p>(47 水口 峰之、98 帯田 孝之) タンパク質の立体構造をNMRとX線結晶解析によって決定し機能解析を行うとともに、アミロイド線維等の異常構造について調べ、タンパク質の構造変化と疾患との関連について研究を行う。</p> <p>(48 酒井 秀紀、99 清水 貴浩) 薬物とポンプ、トランスポーター、イオンチャネルの相互作用の生理学、生化学、薬理学的研究を行う。</p> <p>(49 藤 秀人) 医薬品の特性や生体の特性を総合的に考察し、医薬品の適切な使用方法の開発を研究課題とし、医療薬学・臨床薬理学に関する研究を行う。</p> <p>(52 新田 淳美) 神経精神薬理、神経生理、および臨床学的手法を用いて依存症または精神病の原因解明を行い、治療薬開発に対する課題にとりくみ、最新の神経精神薬理学について研究を行う。</p> <p>(53 田口 雅登) 臨床薬理学・薬物動態学に基づく薬効の個体差解明および至適投与設計法の開発に関する研究を行う。</p> <p>(50 笹岡 利安、51 恒枝 宏史、117 和田 努) 遺伝子改変マウスなどの2型糖尿病モデルマウスを用いて、各臓器での遺伝子発現やタンパク機能の変化を解析することで、生活習慣病の病態盤に重要なインスリン抵抗性の発症メカニズムの解明に基づいた新規治療法開発課題の研究を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
先端薬科学プログラム専門科目	先端薬科学特別研究	<p>(54 加藤 敦) 医薬分子設計、糖質生化学、創薬化学の研究手法を用いて、各種リソソーム病に対する最適な薬剤の開発をテーマとした研究を行う。</p> <p>(55 田淵 圭章) 最新の分子生物学的手法等を用いて、細胞ストレス応答に関する課題の研究を行う。</p> <p>(56 庄司 翼) 分子生物学的、ゲノム科学的手法を用いて薬用資源植物の代謝制御に関する研究を行う。</p> <p>(57 森田 洋行、100 當銘 一文、101 AWALE SURESH、116 李貞範) NMRなどの各種スペクトル分析法や合成遺伝子の解析法を用いて、天然資源から有用化合物を得る課題の研究を行う。</p> <p>(58 東田 千尋) 神経変性疾患の治療戦略構築を目的として、課題を設定し研究を行う。</p> <p>(59 早川 芳弘、102 渡辺 志朗) 分子生物学的、免疫学的、生化学的手法を用いて生体防御機構をターゲットにした疾患制御に関する課題の研究を行う。</p> <p>(60 中川 嘉、103 金 俊達) 分子生物学的手法を用い、和漢薬による生活習慣病発症治療を目指す研究を行う。</p> <p>(61 小泉 桂一) 生物製剤学および和漢医薬学的手法を用いて、未病状態解明の研究を行う。</p>	
生命・臨床医学プログラム専門科目	先進医学特論	<p>本講義では基礎医学や社会医学、臨床医学の垣根を越えて、生命医学・臨床医学の第一線で活躍する研究者を招聘しセミナーを行う。受講者は、他分野の最先端研究医学研究に触れることで自身の専門分野を深めていくだけでなく、幅広い知識や視野を獲得し、自身の研究に役立てていく。具体的には、生命・臨床医学プログラムに所属する各講座が担当し、さまざまな分野の第一線で活躍する研究者（学内外）を招聘し、セミナーを開催する。受講者は各セミナーを受講し、質疑応答を行うことで、能動的に参加する。</p>	
	医学連携特論	<p>(概要) 医学と看護学のそれぞれの融合の場である臨床において、両者の関わる学際的課題について学ぶとともに、看護学において用いられる質的研究などの研究手法を学ぶことで、医学研究に役立てる。本講義はオンデマンド方式と講師と参加者との相互対話形式（インタラクション）による参加型を併用して行なう。</p> <p>(オムニバス形式／全8回)</p> <p>(6 中川 崇／6回) 臨床研究における質的研究、ケーススタディ (36 長谷川ともみ／2回) 看護学研究における手法</p>	オムニバス方式
	解剖学・神経科学特論	<p>神経回路は、進化の文脈の中で遺伝的に形成され、環境の文脈の中で経験に依存して改変される。行動の神経回路機構が進化するEvoMecho機構と、経験的に改変される可塑性機構を、情動と行動の神経回路に注目し、セミナー形式で論文を議論し、理解する。</p>	
	統合神経科学特論	<p>個々の神経細胞の活動特性と神経細胞の集団（アンサンブル）としての機能を理解することは、正常な脳機能や脳疾患を理解する上で極めて重要である。本特論受講者は、論文（認知や行動に参与する特定の脳領域の機能を明らかにするため当該領域の個々の神経細胞・アンサンブルの振る舞いを動物の行動下で観察・記述した論文）を講読し、これを批判的視点をもって概説できることを学修目標とする。</p>	
	分子脳科学特論	<p>脳の情報処理の仕組みに関する最新の知見を理解する。シナプス可塑性、記憶エンGRAM、アイドリング脳機能を中心に教授する。具体的には、セルアセンブリ、シナプス機能、脳機能、セルアセンブリによる情報処理についての解説及び質疑応答を行う。</p>	
	システム機能形態学特論	<p>局所神経回路の構築に関する知識は中枢神経系の正常および病的な機能を理解する上で重要である。本講義では、感覚神経系を題材として、その局所回路のシナプス構築とそこから生じる感覚情報処理における機能について、神経解剖学、神経生理学、分子生物学の最新の知見を援用して学ぶ。さらに、局所回路の異変がどのような病態を生じるかについても基礎及び臨床の知見を基に論じる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
生命・臨床医学プログラム専門科目	病理診断学特論	ヒトの各種疾患の形態的特徴を実際の病理組織検体を用い解説する。特に、腫瘍の形態的特徴や病理学的診断方法、病理組織検体を用いた免疫組織化学・分子学的診断法・がんゲノム医療について論じる。 ・各種疾患の形態的特徴を説明できる ・免疫組織化学や分子学的診断法を説明できる ・がんゲノム医療について説明できる	
	分子神経病態学特論	分子神経病態学特論は神経難病発症にかかわる分子メカニズムなどについて学修する講義科目である。難治性神経疾患に関して、これまで報告されてきた発症・増悪分子メカニズムについて学修し、病態に関連する増殖因子とシグナル伝達、神経組織のリモデリング(グリオーシス変性)、腫瘍発生、増殖因子が関与する神経細胞の分化機構と異常、などについて理解を深めることを目的とする。	
	分子免疫学特論	免疫学は生体防御機構解明のための学問として、古くは細胞生物学に支えられて進歩し、近年は細胞工学・遺伝子工学の技術を取り入れ、空前的勢いで進歩・進化し続けている。生体を守る仕組みが分子レベルで理解され、アレルギーや自己免疫疾患・がん免疫等において、様々な免疫系の細胞が関与していることが明らかにされ、その機序を元に免疫系の病気の原因も解明されつつある。特に近年、がん免疫における調節機構が明らかにされ、免疫チェックポイント阻害療法の開発により、免疫療法によるがんの根治も夢ではなくなってきた。そのため、博士課程の学生にとって最新免疫学の全体像を把握しておくことは極めて重要である。本講義では、免疫系の各細胞の機能、細胞間の相互作用、また、その調節等を理解することにより、免疫系の細胞がアレルギーや自己免疫疾患・がん免疫等にどのように関与しているかを考察し、疾患の病態解明、診断、治療に関して免疫学をどのように応用できるかを探究する姿勢を身に付けることを目標とする。	
	微生物学特論	宿主と微生物の関係について、共生と感染症の視点からとらえる。マイクロバイオームなど近年話題の細菌研究について理解できるための、基本的な概念と重要な用語について理解する。そのために必要となる、基本的な微生物の生存競争の原理、宿主との相互関係について理解を深める。また、微生物と疾病の関係について一般的な理解を整理し、細菌叢を活用する医療介入の可能性と限界についても取り上げる。	
	分子医科薬理学特論	本講義は、薬理学研究に必要な基本的手法や手技、さらにはデータの解析や解釈のための知識を修得できることを目的としている。先端的な薬理学に関する研究法や実際の研究の最前線について解説し、薬理学研究に対する基本的な姿勢を身に付ける。また、将来的な創薬につなげられるような知識や考え方を学んでいく。	
	疫学・健康政策学特論	疫学は、①国や地域における健康課題の把握、②健康課題の背景要因の解明、③政策等による健康課題の解決を目指す学問である。疫学・健康政策学特論では、疫学研究や疫学論文のプレゼンテーションやディスカッションを通じて、小児期、成人期、高齢期の疫学研究の立案・実施・分析・解釈までの各プロセスを学修すると同時に、健康課題の解決方法を検討する。	
	公衆衛生学特論	公衆衛生学は、臨床医学とは異なり、集団の健康(=単に疾病がない状態ではなく、身体的・精神的・社会的に完全に良好な状態のこと)を対象とする学問である。ここでは、ヒトの集団の健康にかかわる自然、社会、環境的要因を明らかにし、疾病の予防、早期発見、回復を推進し、健康の維持・推進を図ることを目的とする。本講義では、公衆衛生の発展、健康と疾病の決定要因、疫学と生物統計学的アプローチ、環境・労働衛生、母子保健、健康増進、精神保健、食品保健、栄養、環境保健といったトピックに焦点を当て、科学でもあり技術でもある公衆衛生についての理解を深めていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
生命・臨床医学プログラム専門科目	法医学特論	法医学はヒトの死をめぐる法的諸問題の解決を目指す学問とされているが、その修得のためには他の基礎医学や臨床医学の基本的理解が不可欠である。講義においては、これまで獲得してきた医学的知識を応用しながら、死因や死亡の原因の究明を行うための実際の過程、手技を理解し、医師として死亡診断書、死体検案書を正しく記載できる能力の獲得を目指す。その一方で、様々なヒトの死を供覧することにより、予防を目指した基礎、臨床、社会医学的取り組みの必要性を理解することを目指す。法医学の実務経験を持つ教員がその経験をもとに講義を行う。	
	医学教育学特論	医学教育学では医師に限らず、医療職全般の教育に必要な教育学の基礎理論、具体的な教授法や評価法に加えて、カリキュラム開発のノウハウを学び、理解する。また、本講座は他大学の医学教育学と異なり、地域基盤型医療者教育を特色として持っており、地域医療のリーダーになることを考えている医療者にも本講義を通して地域を巻き込んだ医療者教育を学ぶことが可能である。	
	システム情動科学特論	情動の神経機構を理解することは、中枢神経系における正常な脳の発達、高次脳機能、および様々な精神疾患を理解する上で非常に重要である。本講義では、情動および情動に深く関連した記憶や意思決定などの神経回路の作動メカニズムを中心に、ヒトおよび実験モデル動物における正常および病的状態におけるこれらの神経回路の基本的な役割と最新の研究成果に基づく知見について紹介する。	
	分子神経科学特論	中枢シナプスの形成と再編は神経回路構築の最重要ステップであり、その破綻は様々な神経発達障害を引き起こす。モデル生物（線虫、ショウジョウバエ、ゼブラフィッシュ、マウス）の分子遺伝学的研究手法、ゲノム編集技術、遺伝子改変動物作製技術を用いた最新の神経発達研究を紹介し、神経回路形成の分子機構およびその破綻に起因する神経発達障害の発病機序について学修する。	
	臨床心理学・認知神経科学特論	ストレスに関連する精神疾患（うつ病や不安障害を含む）における症状・疫学・治療（心理社会的アプローチを含む）・病態生理（中枢神経系／内分泌系／免疫炎症系を含む）について学ぶ。また症状と関連する認知・行動の測定手法（心理検査や行動実験を含む）についても紹介する。	
	遺伝子発現制御学特論	DNAの情報を元にタンパク質を合成する遺伝子発現機構は、生体の機能や維持にとって必須の機構であり、その異常が種々の疾患を引き起こすことが知られている。本講義では、転写、RNAスプライシング、翻訳、タンパク質分解などの遺伝子発現機構の各ステップについて解説する。また、それらの機構の異常が引き起こす種々の疾患についても紹介する。さらには、遺伝子発現機構の異常による疾患の治療法に関しても講義を行う。本講義を通して、生体内のあらゆる現象の基盤となる遺伝子発現機構とその異常による疾患の発症メカニズムの理解を目指す。	
	代謝・免疫・呼吸器病学特論	高脂肪食・運動不足のエネルギー過剰の生活習慣は肥満をもたらす内臓脂肪の蓄積に至り、インスリン抵抗性を来しメタボリックシンドローム・糖尿病を発症し、最終的に虚血性心疾患や脳卒中などの心血管イベントの発症に至る。本講義ではこのメカニズムを明らかにし最終的な動脈硬化症の発症の予防法を開発していく。	
	循環器・腎臓内科学特論	心不全という病態を取り上げ、循環調節に関わる自律神経機能について次の3点を中心に理解を深める。 1) 自律神経による循環調節を学ぶ。 2) 心不全における循環動態に及ぼす自律神経機能を学ぶ。 3) 上記に関する英語の専門書の内容を理解できる。	
	消化器内科学特論	消化器病診療における実務経験を活かし、実臨床において生じた疑問を解決するための臨床研究を立案・計画し、研究を実際に遂行したのちに得られた結果を適切に解析・理解するために必要な知識について講義する。	
感染症学特論	微生物学、感染症学、感染予防医学の基本から最先端まで学ぶ。病原体に対する生体反応、新興・再興感染症、微生物検査、予防接種や抗菌薬の種類・特徴・副作用、病院感染対策のポイントと実際、上気道、下気道感染症、肺炎の診断と治療、小児におけるウイルス、細菌感染症の症候、診断と治療、母子感染等について教授する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
生命・臨床医学プログラム専門科目	皮膚科学特論	皮膚に症状をきたす疾患はアレルギー性疾患から自己免疫性疾患、膠原病、皮膚腫瘍など多岐にわたる。近年アトピー性皮膚炎や乾癬などでは、病態の解明に伴い抗体製剤など新規治療薬が次々に上市され症状の劇的な改善を認めている。また悪性腫瘍に対しても免疫チェックポイント阻害薬や分子標的薬が使用され予後の改善に寄与している。 本授業では様々な皮膚疾患の最新の知見を紹介する。さらに各疾患の病態に基づく新規治療薬の作用機序とその効果、使用における注意点について解説する。	
	小児発達医学特論	近年、発達の観点から、胎生期の成長から小児の成長発達を理解することに加えて、成人期での小児疾患の病態の理解も重要になってきている。本講座の目的は、小児特有の病態を理解し、ライフステージごとに疾患の徴候・症状を理解することである。	
	神経精神医学特論	精神疾患は患者数の増加等を背景に医療計画における5大疾病のひとつと位置付けられ、その克服は大きな社会的課題となっている。本特論では、精神疾患の分類、症候学、診断、治療の総論的事項、および主要な精神疾患（統合失調症、気分症、認知症、神経発達症、食行動症ほか）の症状、病態、診断、治療について実務経験のある教官が教授する。また近年の注目領域である精神科早期介入についても最新の知見を紹介する。	
	放射線診断治療学特論	画像診断技術の進歩にて、磁気共鳴画像（MR画像）では、形態情報のみならず機能情報も得ることができる。以前から子宮蠕動と呼ばれる子宮の機能をMR画像で捉える研究を行っている。これは世界で初めて子宮の動きをMR画像で描出した研究であり、正常から疾患を含めた様々な病態において、殊に妊孕能との関連を追求している。最近では、機械学習や深層学習を用いた研究も織り交ぜながら、臨床へ貢献しうる研究を継続している。研究デザインを共に考え、研究への興味を抱かせ、研究結果を臨床へフィードバックすることができる能力を身に付けさせることを目標とする。	
	放射線腫瘍学特論	腫瘍並びに正常組織の放射線生物効果のメカニズムを理解させるとともに、腫瘍は臓器、病理組織型、進行度、癌遺伝子の発現等の相違により、放射線照射効果が異なり、局所制御に影響することや、適切な治療法選択の原理と臨床実践の方法論を講義する。また、腫瘍と正常組織の放射線効果の相違を最大に拡大する放射線治療技術の放射線生物学的原理と腫瘍の病巣に正確に線量を集中させ、腫瘍を制御するための物理工学的基礎知識を講義する。	
	循環・呼吸器・総合外科学特論	難易度の高い手術を安全に行いうる技術と、リサーチマインドを兼ね備えた優れた心臓血管外科医となるための基礎を身につけ、成人ならびに小児の心臓血管外科について理解するための科目である。具体的には心臓血管外科専門医、人工心肺と心筋保護、心臓血管外科と医療安全、先天性心疾患、虚血性心疾患、大動脈弁疾患、僧帽弁疾患、大動脈解離と大動脈瘤、静脈疾患、末梢動脈疾患、成人先天性心疾患及び重症心不全等について教授する。	
	呼吸器外科学特論	脱細胞化組織骨格を利用した臓器再生研究、再生臓器を利用した疾患モデルの開発、肺オルガノイドを利用した疾患モデルの開発、肺移植モデルにおける細胞治療による免疫寛容の誘導、免疫抑制性T細胞（Regulatory T細胞；Treg細胞）による細胞治療、間葉系幹細胞による細胞治療、肺粘液腺癌の発生と制御の研究、人工知能を使用した術中画像による胸膜浸潤の予測等について教授する。	
	消化器・腫瘍・総合外科学特論	消化器癌細胞は原発臓器、組織型、転移形式、遺伝子発現などにより多彩な生物学的挙動を示し、治療抵抗性を獲得する。消化器癌治療は外科的治療単独ではなし得ず、化学療法、放射線治療など集学的に治療開発することが重要である。治療学として、消化器癌にアプローチする際の診断、治療選択、病態の理解、さらに外科治療における解剖、手術手技を理解し、最新の外科治療についても知見を深める。	
脳神経外科学特論	脳神経外科医が展開する基礎研究、臨床研究の動機づけ、目標の設定、目標を設定するための方法、結果の解釈、臨床への展開のプロセスを学修する。一連のプロセスを学修を通して、脳神経外科学における効率的かつ実効的な研究の進め方について学ぶ。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
生命・臨床医学プログラム専門科目	整形外科・運動器病学特論	運動器疾患における病態を理解し、その治療について解説する。運動器疾患とは、骨・軟骨・関節・靭帯・筋肉および四肢、脊柱などにおける病態である。本講義では、いかなるメカニズムでこれらの病気が生じているかを理解し、どのような具体的な治療法があるかを理解することを目的とする。	
	産科婦人科学特論	妊娠とは何か。生命現象としての“妊娠”を科学的に解明する。妊娠において、何が正常で何が異常なのか。また、異常な妊娠とはどのような病態に繋がるのか。様々な妊娠合併症についても解説する。	
	眼科学特論	感覚器としての眼球、視神経等の生理および病態を理解し、各眼疾患の病態と治療を理解する。視覚の重要性を理解し、視覚に関する研究に興味を持ち、臨床医学に役立つ研究を行っていきけるようになることを目的とする。	
	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学特論	身体の平衡は、前庭系、視覚系、体性感覚系の末梢感覚器からの入力が中枢で統合された結果、動揺を制御するように眼運動系や脊髄運動系の反射運動が無意識に起こる平衡制御システムによって調節・維持されている。これらの経路のどこかで何らかの異常が生じると、めまい・ふらつきなどの平衡障害が発生する。本講義において、平衡神経学に関連する末梢前庭器、前庭中枢（脳幹、小脳、大脳）の神経解剖、疾患の病理・病態を理解し、基本的疾患の新しい診断・治療法等についての理解を深める。	
	腎泌尿器科学特論	前立腺肥大症、過活動膀胱と神経因性膀胱、尿路結石症、性機能障害、小児泌尿器科、男性不妊症、尿路感染症、腎癌の診断と治療、尿路上皮癌の診断と治療、前立腺癌の診断と治療、泌尿器腫瘍に対するロボット手術、精巣腫瘍の診断と治療、高齢がん患者の治療、副腎腫瘍の診断と治療及び腎移植について教授する。	
	麻酔・周術期管理学特論	もし自分が麻酔なしで手術を受けることを想像して欲しい。我々麻酔科医は、麻酔薬をはじめとした様々な薬剤と手技を駆使して、多角的視点において状態を評価しながら患者を大きな侵襲やストレスから守り、患者の全身状態を維持している。それは、全身麻酔下とともに区域麻酔下においても可能にする。本特論では、術中のみならず、術前から術後にわたる周術期において、如何にして麻酔科医が患者の全身状態を維持しているかについての理解を深める。そのために、全身管理の現状に加えて、各薬剤の作用機序ならびに仮説などの基礎的情報も講義する。	
総合口腔科学特論	口腔は主要臓器の一つとして、生体機能および健康増進に大きな役割を担っている。人口の超高齢化を迎え、健康長寿の実現には口腔の健康維持が不可欠である。また、口腔機能、口腔細菌と全身疾患の関連が明らかにされてきていることから、口腔が果たす役割は非常に大きい。本特論は、口腔の解剖、組織、機能をもとに齶蝕から口腔癌、口唇口蓋裂などの疾患の制御について生命科学的な見地から理解することを目的とする内容である。臨床での疑問を解決し、健康寿命の延伸に寄与するエビデンスを分子生物学的手法を用いた基礎研究、多機関共同研究などによる臨床研究をもとに創出していく。		
臨床分子病態検査学特論	臨床検査医学は、諸検査により生体情報を客観的に解析し、その活用により疾患の診断と治療を支援するシステムを研究・開発し臨床応用にトランスレーションする学問である。検査のサンプリングから検査原理、検査に与える影響や疾患の病態に適応する検査法を選択し、その結果を解釈することまでトータルに学修し、さらに疾患の病態を分子レベルで理解することを目標とする。		
和漢診療学特論	我国は超高齢化社会を迎えようとしている。それに伴い、動脈硬化性疾患や悪性腫瘍などへの対策が重要視されてきている。一方で若年者を中心にアレルギー性疾患も増加している。このような状況を反映して、現代西洋医学だけではカバーしきれない疾患・病態に対して漢方医学(東洋医学)の果たす役割が再認識されてきている。現代医療のなかで如何に活かしていくかが課題であり、同時にエビデンスの蓄積、薬理作用の解明が求められている。ここでは漢方医学について、歴史、病態概念、治療、さらには最新の臨床ならびに基礎研究の成果を理解することを目標とする。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
生命・臨床医学プログラム専門科目	救急医学特論	救急医療および災害医療は、医師として身に付ける基本的素養である。これらのフィールドは広く多岐にわたるが、基本的な考え方を理解することで普遍的なアプローチは可能である。この普遍的かつ基本的な考え方を示し共有することを目標とする。また社会において医師に求められる役割を理解する。	
	血液内科学特論	高齢化社会の到来に伴い、造血器腫瘍の罹患患者は増加の一途を辿っている。そもそも造血器腫瘍は抗がん剤に対する感受性が高いため、抗がん剤治療の進歩は血液内科学の進歩とともにあった。より多くの抗がん剤を使えば疾患を治癒に導けるという極端な発想は造血幹細胞移植にたどり着いた。一方で、その治療法の限界は副作用と抗がん剤耐性にあった。昨今の潮流は分子標的療法と免疫療法にある。このような社会的なニーズに応えるべく、本講座では血液内科学における基礎と臨床の最先端を学ぶ。	
	脳神経内科学特論	中枢・末梢神経系疾患は最近までその病態が解明されていないことが多く、診断が困難な上に治療法が限られている領域であった。しかし近年神経免疫学的なアプローチから様々な知見が得られ、病態解明や新規治療法も開発が進んでいる。さらにこれまでほとんど病態が不明で介入不能であった神経変性のメカニズムの一旦も明らかになり、新しい時代を迎えつつある。近年の進歩と展望を概説する。	
	臨床腫瘍学特論	最新のがん分子生物学を理解し、それに基づいたがんのマネジメントを身に付ける。がんの病態理解には細胞の増殖機構を学ぶことが重要となる。つまり、増殖シグナル分子と細胞周期を制御する分子の理解が必要である。さらに、がん細胞ではシグナル分子や細胞周期分子の遺伝子ゲノム構造に変異をきたすことが根本原因であるので、そのゲノム変異を検出するがんゲノム医療が、がん克服への重要なステップとなる。変異遺伝子を同定することで開発が進んだのが分子標的薬である。さらに、本来個体が有する強力な抗がん機序であるがん免疫の理解が最終的ながん克服につながると思われる。その他、現代の進化したがん治療において、なお、残された課題としてadolescent and young adult (AYA) 世代問題、各種年齢に応じたライフステージに合わせたがん診療、最も人数の多い高齢者ががん対策についても学び、実臨床に即した知識を身に付ける。	
	医療安全学特論	医療内容の複雑化、高度化と社会構造の変化、国際化などに伴い、医療の現場にはさまざまなリスクが発生している。本講義では、医療の実践における安全管理と危機管理並びに診療やケアの質保証の手法に関する研究について学修する。また、患者の権利の擁護や医療法規、医療倫理とチーム医療やコミュニケーションなど、医療の安全を実現するために必要な医療におけるプロフェッショナリズムに関わる領域の研究についても学修する。	
	形成再建外科学・美容外科学特論	形成再建外科・美容外科において、本講義が対象とする領域や疾患（顔面外傷、熱傷、肥厚性瘢痕とケロイド、頭蓋顎顔面外科、先天異常、良性腫瘍と悪性腫瘍、乳房再建、リンパ浮腫、顔面神経麻痺、手外科、マイクロサージャリー、再生医療、性別適合手術、眼瞼下垂、抗加齢美容医療、褥瘡・難治性潰瘍等）について学び、専門的治療により形態と機能を修復し、最終的には患者さんの術後QOLの改善につなげることを目的とする。疾患の病態解明や、検査、診断、および治療法の改良、開発につながる研究が派生することを期待される。	
	計算創薬・数理医学特論	分子シミュレーション技術は、病態解析から計算創薬、核酸医薬の薬効評価、チャンネルタンパク質を介した生理メカニズムの解明に至るまで利用可能である。解析後のデータの取り扱いを知ることには、データ解析に必須である。そこで、タンパク質の立体構造のデータをPyMolソフトウェアで解析する方法を教授する。①立体構造の表示方法、②データ撮影、③重ね合わせ等による構造の比較、について学修する。	
	リハビリテーション医学特論	リハビリテーション医学・医療の全般について学び、解決すべき問題、研究テーマを考える。具体的には、リハビリテーション医学・医療総論、各論としては、脳神経系、運動器系、内部疾患、がん、リハビリテーション栄養、ロボットリハビリテーションなどの最新のリハビリテーション、リハビリテーション研究の動向について概要を学ぶ。そして、これらについて、基本的な知識を深め、今日の課題を考え、研究すべきテーマについて議論をおこなう。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
生命・臨床医学プログラム専門科目	先端医療研究開発学特論	研究計画の立案、プロトコール作成、臨床研究コーディネート、データマネジメント、研究倫理対応、医療データ利活用、等の臨床研究の実施・支援体制の発展に関する事項を学修・検討する。また、電子カルテ情報等を用いた臨床観察研究や疾患レジストリ研究、特定臨床研究、糖尿病等の疾患におけるIoT技術を用いた治療支援の開発など、先端医療開発に資する研究についても理解を深める。	
	行動生理学特論	脳科学研究において重要な研究方法の一つであるマウス行動実験を行うにあたり必要なことを理解し、それらを活用した遺伝子機能の解明や精神疾患研究を行うための知識や考え方、手法について理解を深める。	
	高度医学がん治療学特論Ⅰ	ゲノム医学の基礎とがんゲノム、がんゲノム医療総論、がんゲノム医療の実際(体細胞変異がん、家族性腫瘍・遺伝性腫瘍(胚細胞変異がん))、ゲノム医療と倫理・法律・社会的問題、がんゲノム医療に必要な体制と人材及びがんゲノム医療の応用と将来について知識を深める。	
	高度医学がん治療学特論Ⅱ	在宅医療に関わる医療資源、在宅緩和ケアにつながる看護～緩和ケアチーム(PCT)の立場、緩和医療と栄養管理～在宅でも大切な栄養と緩和、在宅緩和とサイコオンコロジー、在宅医療と地域連携、在宅緩和の実際と効果、在宅療養と地域連携、在宅緩和における薬局薬剤師の役割、在宅緩和医療パスとその使い方及び在宅緩和看護について知識を深める。	
	高度医学がん治療学特論Ⅲ	小児・AYA世代の特徴、小児・AYA世代のがん治療総論、小児・AYA世代腫瘍各論(この時期特有の腫瘍、この時期に起る成人腫瘍)、希少がん(小児・AYA世代以外)、晩期合併症と長期フォローアップの問題点及び小児・AYA世代のがん患者・家族に対する支援について知識を深める。	
	高度医学がん治療学特論Ⅳ	ライフステージに応じたがん予防医学、ライフステージにおける壮年期がん医療、ライフステージにおける高齢者がん医療-機能・合併症の特徴と評価、ライフステージにおける高齢者がん医療-治療の特徴、ライフステージに応じた包括的支援、ライフステージにおける終末期のがん医療、社会とがん医療及びライフステージに応じたがん医療の臨床試験について知識を深める。	
	高度医学がん治療学特論Ⅴ	根治療法および緩和療法としての放射線療法の適応や、治療計画および線量測定の原理を理解する。放射線治療の急性作用と遅発性作用の両方を把握する。	
	高度医学がん治療学特論Ⅵ	化学療法について総論としてその歴史、作用、がん治療における位置付け、各種理論、耐性機構、バイオマーカーなどを学ぶ。また、化学療法における臨床薬理学の重要性について理解を深める。抗がん剤の薬理作用機序について学ぶ。さらに、抗がん剤の臨床効果を理解する。分子標的薬剤の作用機構、効果、有害事象などを学ぶ。	
	生命・臨床医学特論	研究テーマに関連する分野の専門的な知識を抄読会、セミナーを通して獲得するとともに、英語論文の読解や紹介を行う。生命・臨床医学特論では、自身の研究に直接関連したことだけでなく、当該分野周辺の専門的知識についても、より深い造詣を得ることを目的とする。そして、研究室や履修科目において、研究分野の知識や論文内容について深く議論できる能力を身に付ける。また、専門分野の学会等において、情報収集、議論、情報発信ができる能力を身に付ける。またデータの取り扱いや研究に関連する法規制について理解し、研究倫理を身に付ける。	
	生命・臨床医学特別実習	本実習は、生命・臨床医学プログラムの各講座が提供する実習を体験することにより、さまざまな研究・実験方法の知識や技術を系統的に身に付けることを目的とする。また、研究テーマに関連する講座だけでなく他講座の提供する実習も受講可能とすることで、分野横断的な技術・知識を身に付けることができる。本実習を受講し、実習内容と実習結果をまとめ、研究指導教員と考察について討論を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
生命・臨床医学プログラム専門科目	生命・臨床医学特別研究	<p>学位論文作成のため、研究指導教員とともに研究計画書の作成を行い、実際の研究を行う。具体的には以下のように研究を行う。</p> <p>(1 一條 裕之、118 中村 友也) 神経科学の手法を用いて、情動と行動の発達の神経回路機構の課題の研究を行う。</p> <p>(9 西丸 広史、124 瀬戸川 剛、125 松本 惇平) 神経科学的・生理学的研究手法を用いて、情動発現の神経機構を解明するための課題の研究を行う。</p> <p>(2 井ノ口 馨、63 野本 真順、119 鈴木 章円) アイドリング脳に関する神経活動を取り上げ、潜在意識下の脳機能解明の研究を行う。</p> <p>(3 伊藤 哲史) 局所神経回路の構造の神経解剖学的技法を用いた詳細な解析と、その構造から生み出される生理学的機能の解析、さらに両者を統合した分析について研究の実践を行い、聴覚神経回路の機能構築について論文作成を行う。</p> <p>(4 平林 健一) 病理学的手法を用いて、研究を行う。</p> <p>(64 山本 誠士) 神経科学的または神経病態学的な研究手法を用い、神経系の正常発達や難治性神経疾患の病態進展のメカニズムの解明に関する課題の研究を行う。</p> <p>(5 森永 芳智、120 山田 博司) 宿主と微生物の関係をとり上げ、共生と感染との間にある課題の研究を行う。</p> <p>(6 中川 崇、121 夜久 圭介、122 内田 仁司) 遺伝子改変マウスやメタボロミクスを用いた、老化のメカニズム解明を目指した研究を行う。</p> <p>(7 関根 道和、66 山田 正明、123 立瀬 剛志) 小児期、成人期、高齢期の健康課題に対する疫学研究と健康政策に関する研究を行う。</p> <p>(8 西田 尚樹、67 畑 由紀子) 幅広い分野の医学的知識を応用しながら、死因や死亡の原因の究明を行うための実際の過程、手技を理解するとともに、分子生物学的手法の最先端について研究を行う。</p> <p>(68 吉田 知之) 遺伝子改変モデルマウスの作出と解析を通して、中枢シナプス形成の分子機構と神経発達障害の発病機序に関する研究を行う。</p> <p>(11 袴田 優子) 神経科学、認知科学、実験心理学等の手法を用いてストレスに関連する精神疾患の病態生理やその心理的介入に関する研究を行う。</p> <p>(69 甲斐田 大輔) 生化学的、分子生物学的、ケミカルバイオロジー的手法を用いた遺伝子発現機構の解析に関する研究を行う。</p> <p>(12 絹川 弘一郎) 循環器疾患及び同疾患とつながりの深い腎疾患に関して、研究の実践、論文作成を行う。</p> <p>(13 安田 一朗、70 藤坂 志帆、71 田尻 和人) 内科学領域に関する研究を行う。</p> <p>(14 佐藤 勉) 血液悪性腫瘍を研究課題とし、その原因、診断および治療に関する研究を行う。</p> <p>(15 山本 善裕、72 長岡 健太郎、126 川筋 仁史) 感染症の原因を研究課題とし、原因微生物に関する研究を行う。</p> <p>(74 高橋 努、106 笹林 大樹、107 樋口 悠子、127 中島 英) 精神疾患を対象とした脳画像解析に関する研究を行う。</p> <p>(16 齋藤 淳一) 放射線がん治療の増感効果及び有害反応の軽減を課題として研究を行う。</p> <p>(17 芳村 直樹、76 深原 一晃) 外科領域に関する研究を行う。</p> <p>(18 藤井 努、32 奥村 知之) 外科手術検体より得られた腫瘍細胞株及び腫瘍組織を用いた癌治療研究を行う。</p> <p>(19 土谷 智史) 脱細胞化組織骨格を利用した肺の臓器再生、ラット肺移植モデルを用いた細胞治療について、研究を行う。</p> <p>(20 川口 善治、77 安田 剛敏、128 頭川 峰志) 実際の手術や臨床のカンファレンスの他、研究室では細胞培養などin vitro、in vivoの実験を通じて研究を行う。</p> <p>(21 中島 彰俊、78 米田 哲) オートファジーの細胞および組織評価方法を用いて、生命科学における課題解明に向けての研究を行う。</p> <p>(22 林 篤志、109 柚木 達也、110 三原 美晴) 眼科臨床で行っている各種検査を通じて眼疾患の病態を理解し、眼疾患の治療を開発するための研究を行う。</p> <p>(23 北村 寛、112 西山 直隆) バイオインフォマティクスの手法を用いて、尿路器悪性腫瘍のバイオマーカー探索に関する研究を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
生命・臨床医学プログラム専門科目	生命・臨床医学特別研究	<p>(24 貝沼 茂三郎、81 藤本 誠) 和漢医薬学に関する研究を行う。</p> <p>(80 仁井見 英樹) 新規の検査法やバイオマーカーの研究開発をテーマとして取り上げ、開発過程における課題の研究を行う。</p> <p>(25 土井 智章) 救急医学に関する研究を行う。</p> <p>(26 林 龍二、129 梶浦 新也) がんゲノム医療について概要を理解し、実際のデータを用いた研究を行う。</p> <p>(30 中條 大輔) 疾患の病態解明や先端医療の開発に資する臨床研究に関する研究を行う。</p> <p>(27 佐武 利彦、114 小野田 聡) 形成再建外科・美容外科に関して、研究の実践を行い、形成再建外科・美容外科についての論文作成を行う。臨床研究データ等を用いて形成再建外科・美容外科の課題の研究を行う。</p> <p>(33 高雄 啓三) 行動生理学および実験動物学の手法を用いて、認知・情動および精神疾患の病態解明、予防・治療法の開発についての研究を行う。</p> <p>(10 高村 昭輝) 量的・質的手法を用いて医療者教育に関する研究を行う。</p> <p>(28 高岡 裕、130 大田 美香) 分子シミュレーション解析データの分析に関する研究を行う。</p> <p>(29 服部 憲明、131 乙宗 宏範) バイオメカニクスや神経科学の手法を用いて、リハビリテーション医学の客観的なバイオマーカーを創出するための課題の研究を行う。</p>	
臨床薬学プログラム専門科目	高度薬物がん治療学特論Ⅰ	がん緩和医療学 がん緩和医療の目的は、がん患者ならびに家族の生活の質を高め、維持することにある。具体的には、がん患者の身体的・心理的特徴の理解に基づく看護、医療用麻薬を中心とした薬物による痛みの緩和、呼吸困難や嘔吐などの不快な症状の緩和、終末期に起こりやすい精神神経科的な症状に対する薬物療法などが中心となる。本科目では、日々がん患者や家族に接している第一線の医師、看護師、薬剤師が、それぞれ専門的な立場からがん緩和医療の現状と問題点を解説する。	
	高度薬物がん治療学特論Ⅱ	根治療法および緩和療法としての放射線療法の適応や、治療計画および線量測定をの原理を理解する。放射線治療の急性作用と遅発性作用の両方を把握する。	
	高度薬物がん治療学特論Ⅲ	化学療法について総論としてその歴史、作用、がん治療における位置づけ、各種理論、耐性機構、バイオマーカーなどを学ぶ。また、化学療法における臨床薬理学の重要性について理解を深める。抗がん剤の薬理作用機序について学ぶ。さらに、抗がん剤の臨床効果を理解する。分子標的薬剤の作用機構、効果、有害事象などを学ぶ。	
	高度薬物がん治療学特論Ⅳ	腫瘍の診療には各領域に独特な部分と各領域に共通した部分がある。本講義では、特に腫瘍発生頻度の高い異なる6領域のがん種について、それぞれの特徴を理解し、臨床腫瘍全体に共通する部分を履修者が体得することを目指す。疫学、発症メカニズム、診断方法、薬物療法、予後に関する最近の知識を学び、現時点での課題を理解する。	
	高度薬物がん治療学特論Ⅴ	小児・AYA世代の特徴、小児・AYA世代のがん治療総論、小児・AYA世代腫瘍各論（この時期特有の腫瘍、この時期に起きる成人腫瘍）、希少がん（小児・AYA世代以外）、晩期合併症と長期フォローアップの問題点及び小児・AYA世代のがん患者・家族に対する支援について知識を深める。	
	高度薬物がん治療学特論Ⅵ	ゲノム医学の基礎とがんゲノム、がんゲノム医療総論、がんゲノム医療の実際（体細胞変異がん、家族性腫瘍・遺伝性腫瘍（胚細胞変異がん））、ゲノム医療と倫理・法律・社会的問題、がんゲノム医療に必要な体制と人材及びがんゲノム医療の応用と将来について知識を深める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
臨床薬学プログラム専門科目	高度薬物がん治療学特論Ⅶ	在宅医療に関わる医療資源、在宅緩和ケアにつながる看護～緩和ケアチーム（PCT）の立場、緩和医療と栄養管理～在宅でも大切な栄養と緩和、在宅緩和とサイコオンコロジー、在宅医療と地域連携、在宅緩和の実際と効果、在宅療養と地域連携、在宅緩和における薬局薬剤師の役割、在宅緩和医療パスとその使い方及び在宅緩和看護について知識を深める。	
	高度薬物がん治療学特論Ⅷ	ライフステージに応じたがん予防医学、ライフステージにおける壮年期がん医療、ライフステージにおける高齢者がん医療-機能・合併症の特徴と評価、ライフステージにおける高齢者がん医療-治療の特徴、ライフステージに応じた包括的支援。ライフステージにおける終末期のがん医療、社会とがん医療及びライフステージに応じたがん医療の臨床試験について知識を深める。	
	薬学連携特論	<p>薬科学及び臨床薬学を中心とした薬学関連領域で活躍する研究者・教育者・技術者による講義を受講し、医療を支える各分野の課題解決に至るプロセスや視点を学び、課題解決のための柔軟な対応力、判断力、表現力を学ぶ。また、それぞれ医薬品の作り手、使い手としてとしての立場から、互いの現状、課題、展望を理解することで、臨床薬学と薬科学の連携の重要性を理解するとともに、薬学全体を俯瞰し、自身の専門性を拡張、統合して、医療の高度化・複雑化に対応できる能力を身に付ける。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（44 宗 孝紀／1回） 分子細胞機能学分野の現状、課題、展望 （46 中野 実／1回） 生体界面化学分野の現状、課題、展望 （47 水口 峰之／1回） 構造生物学分野の現状、課題、展望 （49 藤 秀人／1回） 医療薬学分野の現状、課題、展望 （52 新田 淳美／1回） 薬物治療学分野の現状、課題、展望 （53 田口 雅登／1回） 実践薬学分野の現状、課題、展望 （54 加藤 敦／1回） 臨床薬剤学分野の現状、課題、展望 （61 小泉 桂一／1回） 未病学分野の現状、課題、展望</p>	オムニバス方式
	臨床薬学特論	<p>主指導教員の研究室において、研究背景・動向、遵守すべき法令、研究手法・解析技術、分析法から研究結果の解釈、研究成果の意義に至るまで、研究の実施に関する講義を受け、臨床薬学及び学際的領域の研究の進め方と研究倫理を理解し、臨床薬学を中心とした薬学関連領域で自立的に活躍する研究者・教育者・医療者・技術者として必要な専門知識と倫理観を身に付ける。</p>	
	臨床薬学特別演習	<p>主指導教員の指導の下、臨床薬学及び学際的領域の最新の研究成果を収集し、その内容を精査、理解、批評する。調査結果に関する発表および質疑応答を行い、効果的なプレゼンテーションと適切な質疑応答ができるように指導を受ける。他の研究室員の発表に対して質問、コメントを行い、研究の進め方、データの解釈などについての討論を行うことで、薬学関連領域で活躍する専門家として必要な専門知識、コミュニケーション能力を醸成する。</p>	
	臨床薬学特別実習	<p>主指導教員とは異なる分野の教員のもとで調査、分析を行うとともに、異分野の研究者とのディスカッションにより自らの博士論文研究について俯瞰する視野の涵養を図る。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
臨床薬学プログラム専門科目	臨床薬学インターンシップ	<p>企業において、医薬品開発ならびに品質管理、営業などの業務を有機的に結びつけたインターンシップを実施することにより、実務に必要な知識やスキルと法令遵守の精神を培い、社会で主導的に活躍できる高度職業人としての自覚を養い、自身の適性を把握する。</p> <p>病院において、医療における薬剤師の役割やチーム医療の高いレベルで学ぶインターンシップを実施することにより、医療の経済的視点と患者の利益に配慮できる薬剤師として医療現場で活躍できる能力を身に付け、薬剤師のリーダーとして活躍できる高度職業人としての自覚と自身の適性を把握する。さらに、日本の医療を背負う立場であることも自覚を持ち、薬剤師の業務と病院における薬剤師の重要性を実践的に学ぶ。</p> <p>行政機関において、行政の現場の雰囲気や実務を経験するインターンシップを行い、行政薬剤師の業務に必要な知識やスキルを学び、国や自治体の公共サービスにおける薬剤師の役割を知り、社会貢献の重要性や責任感を養い、自身の適性を把握する。</p>	
	臨床薬学特別研究	<p>臨床薬学を中心とした薬学関連領域の課題解決を目指して、各研究室において、教員の指導の下、研究テーマの設定、分析・調査、実験計画の立案・遂行、実験結果の科学的考察を行い、自立的に活躍する研究者・教育者・技術者として必要な専門知識、技術を身に付けるとともに、研究倫理や関連する法令の規範意識及び人間尊重の精神を身に付ける。セミナー等を定期的開催し、研究発表および質疑応答を行い、効果的なプレゼンテーションと適切な質疑応答ができるように指導を受けるとともに、最終年度の学位論文提出、審査に向けた準備を行う。</p> <p>(39 細谷 健一、89 赤沼 伸乙) 薬物動態学および生物薬剤学に基づく多角的な視点を基に、血液網膜関門などの組織関門における薬物・化合物輸送を担う分子機構を解明し、最適な薬物治療法を確立することを課題とした研究を行う。</p> <p>(40 久米 利明、90 歌 大介) マウスやゼブラフィッシュを含む実験動物を用い疾患モデル動物の作製を通じて、中枢神経疾患の病態解明およびその克服に関する課題の研究を行う。</p> <p>(41 友廣 岳則、91 谷本 裕樹) 有機合成化学的手法を通じ、高反応性化学種の自在活用法や不安定化学種検出システムといった分析化学的手法の開発に関する研究を行う。</p> <p>(42 櫻井 宏明、92 横山 悟) がんの発生及び悪性化進展について、がん遺伝子およびがん抑制遺伝子の機能解析に関する研究を行う。</p> <p>(93 千葉 順哉) 化学実験と計算化学を用いて、ケミカルバイオロジーに関する研究を行う。</p> <p>(43 松谷 裕二、94 杉本 健士) 新規反応開発と、その方法論を利用した生理活性化合物の有機合成を通して、新しい医薬シーズ探索のための研究を行う。</p> <p>(95 田淵 明子) 分子・細胞・個体レベルの研究手法を用いて、神経活動依存的な遺伝子発現の機構解明や神経疾患の治療法開発に向けた研究を行う。</p> <p>(44 宗 孝紀) 免疫学的、生化学的、細胞生物学的な実験手法を用いて、免疫系や神経系の細胞が外界からの刺激に対してどのように応答し、これにより免疫、感染、炎症、がんなどに対する生体応答が制御される仕組みを理解し、これらが治療や医薬品の開発にどのように結びつくかに関する課題の研究を行う。</p> <p>(45 矢倉 隆之、96 沖津 貴志) 環境調和型有機合成反応の開発および生物活性物質の効率的合成法の開拓を通じて、創薬に関する研究を行う。</p> <p>(46 中野 実、97 池田 恵介) 熱力学、速度論、分光学等の生物物理学的手法を用いて、生体界面における分子間相互作用や生体分子の集合挙動の解明と創薬への応用という課題解決に向けた研究を行う。</p> <p>(47 水口 峰之、98 帯田 孝之) タンパク質の立体構造をNMRとX線結晶解析によって決定し機能解析を行うとともに、アミロイド線維等の異常構造について調べ、タンパク質の構造変化と疾患との関連について研究を行う。</p> <p>(48 酒井 秀紀、99 清水 貴浩) 薬物とポンプ、トランスポーター、イオンチャネルの相互作用の生理学、生化学、薬理学的研究を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
臨床薬学プログラム専門科目	臨床薬学特別研究	<p>(49 藤 秀人) 医薬品の特性や生体の特性を総合的に考察し、医薬品の適切な使用方法の開発を研究課題とし、医療薬学・臨床薬理学に関する研究を行う。</p> <p>(52 新田 淳美) 神経精神薬理、神経生理、臨床化学的な手法を用いて、薬物依存や精神疾患治療薬開発のための課題の研究を行う。</p> <p>(53 田口 雅登) 臨床薬剤学・薬物動態学に基づく薬効の個体差解明および至適投与設計法の開発に関する研究を行う。</p> <p>(50 笹岡 利安、51 恒枝 宏史、117 和田 努) 遺伝子改変マウスなどの2型糖尿病モデルマウスを用いて、各臓器での遺伝子発現やタンパク機能の変化を解析することで、生活習慣病の病態基盤に重要なインスリン抵抗性の発症メカニズムの解明に基づいた新規治療法開発課題の研究を行う。</p> <p>(54 加藤 敦) 医薬分子設計、糖質生化学、創薬化学の研究手法を用いて、各種リソソーム病に対する最適な薬剤の開発をテーマとした研究を行う。</p> <p>(55 田淵 圭章) 最新の分子生物学的手法等を用いて、細胞ストレス応答に関する課題の研究を行う。</p> <p>(56 庄司 翼) 分子生物学的、ゲノム科学的手法を用いて薬用資源植物の代謝制御に関する研究を行う。</p> <p>(57 森田 洋行、100 當銘 一文、101 AWALE SURESH、116 李 貞範) NMRなどの各種スペクトル分析法や生成遺伝子の解析法を用いて、天然資源から有用化合物を得る課題の研究を行う。</p> <p>(58 東田 千尋) 神経変性疾患の治療戦略構築を目的として、課題を設定し研究を行う。</p> <p>(59 早川 芳弘、102 渡辺 志朗) 分子生物学的、免疫学的、生化学的手法を用いて生体防御機構をターゲットにした疾患制御に関する課題の研究を行う。</p> <p>(60 中川 嘉、103 金 俊達) 分子生物学的手法を用い、和漢薬による生活習慣病発症治療を目指す研究を行う。</p> <p>(61 小泉 桂一) 生物製剤学および和漢医薬学的手法を用いて、未病状態解明の研究を行う。</p>	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。